



全学ニュース

- 1 秋の叙勲に本学から6氏
- 9 衛生管理者連絡会を開催
- 10 Academic Fantasia 10月は6名の研究者が北海道札幌南高等学校で出張講義を実施
- 11 高等教育研修センターにて研修会を開催
- 12 令和2年度オープンキャンパスをオンラインにて開催
- 13 令和2年度北海道大学進学相談会をオンラインにて開催
- 14 高大連携による「Hokkaido Study Abroad Program」を開催
- 15 令和2年度第1回サステナブルキャンパス推進員会議を開催
- 16 モーリシャス共和国対象のオンライン「日本留学フェア」を開催
- 17 南アフリカ共和国対象のオンライン「日本留学フェア」を開催
- 18 北海道大学主催でHaRP事業の日露交流関連会議3件をオンライン開催
- 20 博士人材と企業の情報交換会 第43回「赤い糸会（赤い糸ONLINE）」を開催
- 21 「次世代研究者シンポジウム2020」を開催
- 22 北大フロンティア基金

部局ニュース

- 24 北海道大学病院が網走市と連携協定を締結
- 25 北海道大学学芸員リカレント教育プログラム 文学研究院×北海道大学総合博物館企画展「DISTANCE #学びと距離の物語」
- 26 教育学部でESDキャンパスアジア・パシフィックプログラム2020（夏季北大プログラム）を開催



Academic Fantasia 10月は6名の研究者が北海道札幌南高等学校で出張講義を実施



博士人材と企業の情報交換会第43回「赤い糸会（赤い糸ONLINE）」を開催

- 27 理学部で「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～生命科学の最先端（糖鎖のヒミツをのぞいてみよう）」を開催
理学部生物科学科（高分子機能学）
- 28 動物慰霊式を挙行
- 29 医学研究院医理工学グローバルセンターが第4回医理工学院学生研究発表会／第4回企業との交流会をオンラインで開催
- 30 医学部・歯学部合同慰霊式を挙行
- 31 獣医学研究院及び人獣共通感染症リサーチセンターで動物慰霊式を挙行
- 31 附属図書館で「防災訓練」の実施
- 32 静内研究牧場の短角牛肉が「ふるさと納税返礼品」に登録

諸会議の開催状況 33

学内規定 34

表敬訪問 35

人事 36

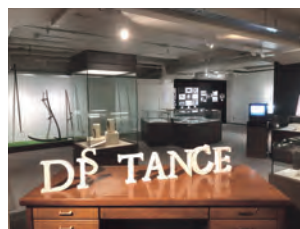
- 37 新任部局長等紹介
- 38 新任教授紹介

資料

- 39 役職員数（令和2年10月1日現在）
- 40 在籍学生数（令和2年10月1日現在）
- 42 広報誌等一覧（令和2年10月調査）



次世代研究者シンポジウム2020を開催



北海道大学学芸員リカレント教育プログラム 文学研究院×北海道大学総合博物館 企画展「DISTANCE #学びと距離の物語」



教育学部でESDキャンパスアジア・パシフィックプログラム2020（夏季北大プログラム）を開催



静内研究牧場の短角牛肉が「ふるさと納税返礼品」に登録

表紙：北海道大学病院が網走市と連携協定を締結（関連記事24頁に掲載）

裏表紙：キャンパス風景⑧ イチヨウ並木（北13条西5～7丁目）

■全学ニュース

秋の叙勲に本学から6氏

この度、本学関係者の次の6氏が、令和2年秋の叙勲を受けることについて、11月3日（火）に発表となりました。

勲章	経歴	氏名
瑞宝中綬章	北海道大学名誉教授	小柳知彦
瑞宝中綬章	北海道大学名誉教授	田代邦雄
瑞宝中綬章	北海道大学名誉教授	池澤克夫
瑞宝中綬章	北海道大学名誉教授	黒田重雄
瑞宝中綬章	北海道大学名誉教授	栗原豪彦
瑞宝単光章	元 北海道大学病院看護師長	大井睦美

各氏の長年にわたる教育・研究等への功績と我が国の学術振興の発展に寄与された功績に対し、授与されたものです。各氏の受章にあたっての感想、功績等を紹介します。

（総務企画部広報課）



こやなぎ ともひこ
小柳 知彦 氏

感想

叙勲の栄誉に浴して

令和2年秋の叙勲受賞に当たり自身の経歴とこれまでの歩みを簡単に振り返ってみます。昭和14年

札幌生まれ、札幌育ちです。昭和39年北海道大学医学部卒業、インターン修了と同時に日米教育委員会フルブライト奨学生として渡米、卒業後修練、専門（泌尿器科学）教育トレーニングを米国ミシガン大学にて修めて昭和45年帰国、母校へ戻りました。

以後33年の長きに亘り北海道大学にてこれまで学んできた事を基にアカデミックウロロジストとして教育、研究、診療に従事してきました。その間個人的には小児泌尿器科、ニューロウロロジー・ウロダイナミックス、泌尿器腫瘍学、腎移植・血管外科、泌尿器再建外科、尿道下裂を主領域として多くの研究仲間にもめぐまれて多くの業績を上げる事が出来ました。在職中の後半20年間は、大学院重点化にて改組した腎泌尿器外科学分野の主任教授として（イ）学術発表、研究交流を通じて国際化に対応する事、（ロ）臨床重視の視点と患者本位の医療の実践、（ハ）腎泌尿器外科としてのアイデンティティの確立を大きな柱にかかげ取り組み、それなりの十分な成果も上げる事が出来ました。平成11年受賞の日本医師会医学賞（臨床部門）「尿道

下裂に対する開発と確立」が一例で通称KOYANAGI法とされる本術式は、今もなお世界的に多く用いられています。退職後は独立行政法人労働者健康福祉機構釧路労災病院病院長として7年間、その後現在まで医療法人仁済会病院会長として地域医療に尽して現在に至っています。

以上が評価され今回の栄誉に至ったのであれば、これほど嬉しい事はありません。というのも冒頭に述べた様に自身の30才迄の卒前・卒後教育の全てが国民の税金を原資とした公的資金に負うもので、公的機関である北海道大学を主にその後の諸機関にて医学医療を通じて国民の福祉と健康に資する事は当然の責務と考え実践してきたからです。勿論私人の力ではなく北海道大学は勿論、多くの同僚、仲間、家族の協力があったからこそであり、ここに改めて関係者一同へ感謝申し有難うございました。

功績等

小柳知彦氏は、昭和14年10月17日に北海道に生まれ、昭和39年3月北海道大学医学部を卒業し、昭和40年にフルブライト奨学生として米国に留学、米国シカゴのマイケルリース病院で外科インターンからレジデント、さらに昭和42年から昭和45年まで米国ミシガン大学メディカルセンターにおいて泌尿器科レジデントとして医学修練を受けられた。帰国後、北海道大学助手、講師、助教授を経て昭和57年8月に北海道大学教授に就任された。平成15年3月に北海道大学を退職されるまで泌尿器科学の教育・研究に努められた。退職後は、平成15年4月に独立行政法人労働健康

福祉機構 釧路労災病院院長に就任され、平成22年3月に退職、現在は医療法人仁楡会病院会長となり今日に至っている。

同氏の特筆すべき業績の1つが、小児泌尿器疾患の中でその再建には困難を極める尿道下裂に対する一期的手術の開発であり、20年の長きにわたる工夫、改良を経て、「KOYANAGI法」とも呼ばれる一期的再建手術の開発に成功された。この業績により平成11年に日本医師会 医学賞（臨床部門）「尿道下裂に対する形成術式の開発と確立」を受賞した。2つめは、神経因性膀胱の研究から外尿道括約筋の神経支配に短交感神経系が関与していることを薬理学的に証明し世界に先駆けて報告されたことである。その応用として外尿道括約筋協調不全に対する根治的、経尿道的前立腺切除術の開発へ発展し、これらの業績に対し平成4年に北海道医師会・知事賞「神経因性膀胱の基礎的・臨床的研究」、平成13年に内視鏡医学研究振興財団 顕彰「前立腺肥大症・神経因性膀胱に対する根治的、経尿道的前立腺切除術」を受賞した。

日本泌尿器科学会など学会活動にも大きな功績を挙げられている。同氏は日本泌尿器科学会理事、日本小児泌尿器科学会理事、日本排尿機能学会理事などの要職を務められるとともに、多くの学会を主催された。代表的なものとして平成12年の第88回日本泌尿器科学会総会があげられる。

このように、20年余りの北海道大学教授を含め長きにわたり泌尿器科医療に携われ、この間に臨床重視の視点と患者本位の医療を实践され、小児泌尿器科、神経泌尿器科を中心とした泌尿器科学の発展及び泌尿器科医療の国際化、さらに北海道の地域医療の発展に尽くしたものであり、その功績は誠に顕著である。

略 歴

生 年 月 日	昭和14年10月17日
昭和45年 8 月	北海道大学医学部附属病院 助手
47年10月	北海道大学医学部附属病院 講師
52年 4 月	北海道大学医学部 助教授
57年 8 月	北海道大学医学部 教授
平成12年 4 月	北海道大学大学院医学研究科 教授
12年 4 月	北海道大学評議員
14年 3 月	
15年 3 月	北海道大学大学院医学研究科 教授 定年退職
15年 4 月	北海道大学名誉教授（称号授与）
15年 4 月	独立行政法人労働者健康福祉機構 釧路労災看護専門学校 校長
20年 3 月	
15年 4 月	独立行政法人労働者健康福祉機構 釧路労災病院 院長
22年 3 月	同上退職
22年 4 月	医療法人仁楡会 会長 現在に至る

（医学研究院）



たしろ くにお
田代 邦雄 氏

感 想

この度は、瑞宝中綬章の叙勲の栄を賜り、誠に光栄に存じます。これもひとえに、ご関係の皆様のおかげと、感謝申し上げます。

私は北大での学生時代に神経に興味を持ち、自分の性格から外科系より内科系に適性があると感じていたため、神経内科を志しましたが、私が北大を卒業した頃には、神経内科はまだ日本では一般的ではなく、北大には講座及び診療科がありませんでした。しかし、インターンをした横須賀の米国海軍病院では、私のスポンサーが神経内科医で、ローテーションのスタートが脳神経外科、最後が神経内科であったなど、神経とは不思議な縁がありました。

インターン修了後は、当時の北大脳神経外科教授 都留美都雄先生のご厚意で、2年間の北大脳神経外科での研修の後、5年間米国で神経内科と神経病理を学ばせていただきました。都留先生は、米国留学で神経学も学ばれたパイオニアの一人で、神経内科の必要性を強調され、その後も私達の神経内科グループを優しく育てて下さいました。

米国留学後は、北大脳神経外科で神経内科診療班として活動させていただき、当時の阿部弘教授や関係各位のご尽力により、診療科として独立することができました。独立後、まずは教室の体制や学生教育のシステムをつくることに注力し、また、当時は専門医が少なく札幌に全道から患者さんが集まってきましたが、これを各地域に拠点を作って分散させようと考えました。また、各地域の難病患者さんのための相談会、検診なども積極的に行いました。そして、診療班として14年、診療科として8年の計22年を経て、仲間と苦楽をともに努力した実績を認められ、平成7年に医学部神経内科学講座に昇格しましたが、このことは、医学部、病院、事務部、北大本部をはじめご関係の皆様のご尽力なしでは到底達成できなかったことでした。

私の専門は神経症候学で、これは神経学的診察所見から診断に迫っていく学問ですが、CTやMRIもない時代にはハンマー一本で診察して診断をつけ、剖検でそれを説明しなくてはなりません。現在では画像診断が進歩、普及していますが、それでもまずは神経学的診察による局在診断を行い、そこに最新の画像診断を応用する姿勢が重要で、そこから新たな知見が生まれると信ずるものです。

臨床研究で対象とした中では、多発性硬化症は、日本では北海道に多く、特に重要な神経疾患と考えて研究に取り組みました。また、脊髄小脳変性症などの遺伝性神経疾患に関しては、北海道は日本全国から人が集まっていたルーツがわかり、患者さんの協力を得やすく、また、当時の北大精神科では神経病理もやられていたなど、北大には研究をしやすい環境がありました。さらに、厚生省研究班のうち筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病などを中心とする「神経変性疾患研究班」の班長として平成8年度から2期

6年間の任期を全うできたこと、また、いくつかの全国学会を主催できたことは、北大神経内科の名誉と信じています。

平成14年5月の第43回日本神経学会総会における私の会長講演「時・場所・人と神経学」は、私のこれまでの歩みの総決算でもありましたが、時に恵まれ（時）、最適な研究の場を与えられ（場所）、そして最高の人々と巡り会えたこと（人）に、あらためて感謝している次第です。（代筆 田代 淳）

功績等

田代邦雄氏は、昭和14年8月26日に北海道に生まれ、昭和39年3月に北海道大学医学部を卒業後、横須賀米国海軍病院で1年間のインターンを修了した。当時日本ではまだ一般的ではなかった神経内科を学ぶため、北海道大学脳神経外科での2年間の臨床研修の後、米国に留学し、ウエスタンリザーブ大学（現ケース・ウェスタンリザーブ大学）で臨床神経学を3年間、次いでセントルイス大学で神経病理学を2年間学び、昭和47年8月に帰国した。

帰国後は、北海道大学脳神経外科学講座講師として北海道で最初に神経内科を専門とする診療・教育活動を開始し、北海道の神経内科医療の普及に努め、昭和62年7月の神経内科診療科新設、平成7年4月の医学部神経内科講座昇格に至り、それぞれ初代教授に就任した。

診療・教育面では、大学病院での診療の他、卒前・卒後教育に尽力し、多くの専門医を育成して道内基幹病院に神経内科を開設し、地域の神経難病検診、市民啓発活動などを通して、北海道の神経内科医療の発展、向上に貢献した。

研究面では、神経症候学において、錐体路障害で出現する病的反射であるBabinski徴候の新しい誘発法として、現在Tashiro's signとして国際的に認められている逆チャドック徴候を報告した。臨床研究においては、平成8～13年度の6年間、厚生省特定疾患神経変性疾患調査研究班の主任研究者として全国規模の研究班を組織して研究を推進し、筋萎縮性側索硬化症の臨床研究発展の礎となる診断基準を作成し、また、パーキンソン病が本邦においても頻度が高いことを明らかにした。その他、北海道の多発硬化症は欧米と同様に通常型が多く視神経脊髄型は稀であることや脊髄空洞症の疫学や病態などを明らかにし、また、若年性一側上肢筋萎縮症（平山病）が頸部前屈に伴う脊髄硬膜管による後方からの頸髄圧迫で生じることを報告した。遺伝性脊髄小脳変性症については、連鎖解析によりSCA1、SCA2、SCA3、SCA6家系を同定して臨床表現型を検討し、SCA14を世界で初めて報告した。スモン薬害訴訟では、北海道内の患者の診療や患者会の活動支援を通して、北海道スモン基金の設立に貢献した。

学会活動では、複数の学会役員を歴任し、大会長として東京にて第11回日本神経免疫学会総会、札幌にて第35回脳のシンポジウム、第18回日本神経治療学会総会、第43回日本神経学会総会を主催し、本邦の神経内科学の発展に貢献した。

以上のように、田代氏は平成15年3月に北海道大学を定年退職するまで神経内科学の診療・教育・研究に尽力し、平成15年4月に北海道大学名誉教授の称号を附与された。その功績は誠に顕著である。

略 歴

生 年 月 日	昭和14年8月26日
昭和47年12月	北海道大学医学部 助手
48年2月	北海道大学医学部附属病院 講師
59年11月	北海道大学医学部 助教授
62年7月	北海道大学医学部附属病院 教授
平成7年4月	北海道大学医学部 教授
11年4月	北海道大学評議員
12年3月	
12年4月	北海道大学大学院医学研究科 教授
15年3月	同上 定年退職
15年4月	北海道大学名誉教授（称号授与）
15年4月	北海道医療大学心理科学部言語聴覚療法学科 教授
17年4月	北海道医療大学心理科学部言語聴覚療法学科 特任教授
20年3月	同上 退職
20年4月	医療法人北祐会 北祐会神経内科病院顧問（現在に至る）

（医学研究院）



いけがわ かつお
池澤 克夫 氏

感 想

瑞宝中綬章を謹んで拝受致します。浅学非才の身に余る光栄であります。この度は、竹中のぞみ特任教授をはじめ、事務御担当の方々に、一方ならぬ御尽力、御厚情を賜りました。ここに心より深甚なる謝意を申し上げます。

私は、全国的に「大学紛争」の嵐が吹き荒れた年、昭和44年（1969年）4月から、定年で退職した平成15年（2003年）までの34年間、教養部、言語文化部でフランス語の授業を担当致しました。初級と中級の文法と講読が授業の主な内容でした。随時、フランスの風俗や文化についてお話ししました。

フランスの作家、ジュベールは「教えること、それは二度学ぶことである」と言いましたが、私は学生諸君のおかげで、確かに二度学ぶことができました。ところで、日本には昔から文武両道を尊ぶ精神があり、私はこの伝統を学生にも継承してもらいたく思い、本学に初めて居合道部をつくりました。私自身、長い間、居合道（無双直伝英信流）の稽古に励んでいたからです。

私の専攻分野はフランス文学です。とりわけ17世紀の二人のモラリスト（人間探究者、人生論作家）ラ・ロシュフウコーとラ・フォンテーヌを研究し、何篇かの拙論を発表しました。幸いにも私は、去る1980年9月に、フランスの

アングゥレームで開催された「ラ・ロシュフウコー没後三百年記念国際学会」に、1989年6月に、シャトー＝ティエリーで開催された「第一回ラ・フォンテーヌ国際シンポジウム」に、そして1995年10月にパリで開催された「ラ・フォンテーヌ没後三百年記念国際学会」に出席することができました。各学会においても欧米諸国から参集されていた著名な学者諸氏と交流して、実に多くのことを学びました。この三度の、私にとって貴重な体験が、帰国後の私の研究には、大変有意義であったことは申すまでもありません。フランスの細菌学者パストゥールは、ある講演で「科学（学問）には祖国はありません」と述べていますが、この名言の正しさを私は、こうして実感した次第です。

この二人のモラリストの他にも、ラブレール、セヴィニエ夫人、モリエール、ルソー、そしてヴィニーなどのフランスの誇る作家たちについて研究して、何篇かの拙論を発表しました。

「最も学識のある人が、必ずしも最も賢明な人ではない」と、よく言われます。学者は博識の人であるだけでは不十分で、賢明な人、すなわち、自分自身を知り、良識、分別をもって身を処することができる知恵深い人になれないといけないということです。

学問を少しばかり齧った者として、また、過分の榮譽に浴した者として恥ずかしくないように、残り少ない余生を「賢明に」生きて楽しみたいと思っております。

功績等

池澤克夫氏は、昭和15年1月1日に栃木県に生まれ、昭和38年3月早稲田大学第一文学部仏文学専修を卒業後、同年4月同大学大学院文学研究科修士課程に進学し、昭和40年3月文学修士号を取得、昭和42年4月同大学大学院文学研究科博士課程に進学し、昭和44年2月同課程を退学した。同年3月北海道大学文学部講師に採用され、昭和50年11月同助教授に昇任し、昭和59年4月同大学言語文化部助教授に配置換えとなり、昭和63年4月同教授に昇任し、平成15年3月31日に定年にて退職されるまで北海道大学の教育・研究に努め、同年4月1日に北海道大学名誉教授になられ今日に至っている。

教育においては、昭和44年3月以来34年間にわたり北海道大学教養部及び言語文化部において仏語教育に従事し、この間、外国語を習得するためには何よりもまず基礎をしっかりと学び美しい言葉で書かれた名文を読んで楽しむことが大切であるという自己の教育理念に基づく教科書を執筆して、教育効果の向上に貢献された。研究においては、フランス17世紀古典主義時代のモラリスト¹で『箴言集』で有名なラ・ロシュフウコー²、同じく古典主義時代の詩人・モラリストで『寓話詩集』の作者として知られるラ・フォンテーヌ³、そしてその他の作家を研究し、フランスのモラリスト文学の研究の発展、とりわけラ・ロシュフウコーの『箴言集』に関する研究の発展に貢献された。

同人は、特にラ・ロシュフウコーの『箴言集』の新資料の発掘と研究資料の再検討に力を入れ、従来、学界で全く

知られていなかったラ・ロシュフウコーの生涯及び『箴言集』に関する新資料（リアンクール⁴城館に保管されていた『箴言集』の肉筆稿と写稿、パリの国立図書館及びリヨン市立図書館に保管されている古文書）を発掘して、城館に保管されていた原稿の箴言のうちの多くが作者とは別の6名による転写であることを実証して、この原稿のかなり複雑な生成過程を解明するとともに、それぞれのテキストを校訂して、文学的批評を加えて発表した。また、『箴言集』のテキストの読み方及びテキストの注釈に関するいくつかの定説を、いろいろな角度から再検討し、その不十分さや誤りを指摘して、新しい説を示した。さらに同人は『箴言集』の受容の歴史をたどり、この作品がサブレ夫人⁵、メレ⁶、ラ・ファイエット夫人⁷など同時代のモラリスト、小説家、及びヴィニー⁸、バルザック⁹、サント＝ブーヴ¹⁰などの19世紀の詩人、小説家、批評家、モラリストなどに及ぼした思想的・文学的影響を実証した。

同人は、ラ・フォンテーヌの研究にも力を入れ、まず、『箴言集』と『寓話詩集』を思想と表現技法の両面から綿密に比較し、両テキストの間には数々の共通したテーマ、同質の人間観、よく似た表現が認められることを実証して、ラ・フォンテーヌは、彼が尊崇していたラ・ロシュフウコーと同じ系列の、同じ「精神の種族」に属するモラリストであることを証明した。また、『寓話詩集』に収められている、一読すれば容易にその内容を把握できるように思われる作品でも、その真の文学的また思想的な価値を定めるためには、文学・言語学以外の、例えば社会学、歴史学、宗教学などの学問の領域にまで一歩踏み込んで、一字一句を大切にテキストを丹念に読んでいくという作業が非常に重要であることを、具体的に何篇かのテキストを読み解くことによって証明した。さらに、ラ・フォンテーヌが、そのいくつかの寓話詩や風流小話を、彼が「先生」と呼んで敬愛していた16世紀のユマニスト¹¹・モラリスト、ラブレール¹²の作品から着想を得て、どのように作品化していたかを分析し、また、ラ・フォンテーヌの作品にラブレールからの借用語がかなり多く含まれていることを例証して、両者の人間観の類似を論証した。

その他の作家研究においては、まず、17世紀フランス古典主義時代の喜劇作家、モリエール¹³の作品の成立に関しては、疑わしい点が多いことが指摘されていたが、同人は、この喜劇作家の生涯に関する資料、及び文学テキストを詳しく論証し、モリエールの名のもとで発表され、上演されてきた喜劇作品のなかには、同時代の悲劇作家、コルネイユ¹⁴の手に成った断章が含まれていることを推断した。また、18世紀の思想家・モラリスト、ジャン＝ジャック・ルソーの思想に、ラ・フォンテーヌの作品が一種の刺激剤として作用していたことを実証した。さらに、ルソーをモデルとして描かれていた数種の肖像画について、それらが描かれた経緯をたどり、ルソーの肖像画の系譜を明らかにした。

また、同人は、北海道大学の学内においては、放送教育委員会をはじめ、高等教育開発研究委員会、構内交通委員

会に委員として参加したが、とりわけ入学選抜委員会委員、第二次入学試験実施委員会総務部会委員ならびに出題・採点部会委員、出題・採点部会責任者補佐、同責任者（文系）として入学者の選抜と大学入試センター試験及び第二次入学試験の円滑な実施のために尽力した。言語文化部内においては、人事委員会、将来計画委員会などの委員として、言語文化部の教育・研究活動の発展のために努力した。さらに同人は、北海道大学居合道部を創部し、やがて同部が公認団体に認定されて以来、顧問教官として部員の指導にあたり、古武道の稽古を通して学生の心身の健康の管理・維持に務めた。学外にあっては、それぞれフランスで開催された「ラ・ロシュフウコー没後三百年記念国際学会」、「第一回ラ・フォンテーヌ国際学会」、「ラ・フォンテーヌ没後三百年記念国際学会」に出席し、世界各国から参集した研究者と交わり、自己の視野の拡大と研究水準の向上に努めた。

以上のように、同人は、北海道大学での仏語教育、及びフランス文学の研究（とりわけ17世紀のモラリスト、ラ・ロシュフウコーとラ・フォンテーヌの研究）の発展に尽くしたものであり、その功績は誠に顕著である。

- ¹ モラリスト：人間・風俗・社会についての観察を通して人間というものを明らかにしようと試み、その観察、思考の結果を、エッセー、箴言、省察などの独特な表現様式で表現した作家で、人間研究者、人間性探求者、人生論作家、などと訳されている。
- ² ラ・ロシュフウコー：フランスの作家、モラリスト（1613-1680）。
- ³ ラ・フォンテーヌ：フランスの詩人、モラリスト（1621-1695）。
- ⁴ リアンクワール：フランス・オーヴェーズ県にある地名。
- ⁵ サブレ夫人：フランスの侯爵夫人。自宅にサロンを開き、ラ・ロシュフウコーらを迎えた（1599-1678）。
- ⁶ メレ：フランスの作家、モラリスト（1607頃-1684）。
- ⁷ ラ・ファイエット夫人：フランスの作家（1634-1693）。
- ⁸ ヴィニー：フランスの詩人、作家、劇作家（1797-1863）。
- ⁹ バルザック：フランスの作家（1799-1850）。
- ¹⁰ サント＝ブーヴ：フランスの作家、批評家（1804-1869）。
- ¹¹ ユマニスト：フランス・ルネサンス期（15-16世紀）の人文主義者。
- ¹² ラブレール：フランスの作家、ユマニスト（1494頃-1553頃）。
- ¹³ モリエール：フランスの劇作家、役者（1622-1673）。
- ¹⁴ コルネイユ：フランスの劇作家（1606-1684）。

略 歴

生 年 月 日	昭和15年 1月 1日
昭和40年 3月	日通商事株式会社江東事業所営業部入社
42年 2月	日通商事株式会社江東事業所営業部退職
44年 3月	北海道大学文学部講師
50年11月	北海道大学文学部助教授
59年 4月	北海道大学言語文化部助教授
63年 4月	北海道大学言語文化部教授
平成15年 3月	北海道大学定年退職
15年 4月	北海道大学名誉教授

（メディア・コミュニケーション研究院）



くろだ しげお
黒田 重雄 氏

感 想

この度は、叙勲の栄を賜り誠に光栄に存じます。ご高配を賜りました皆様に心よりお礼申し上げます。

北大経済学部で教育・研究への道を勧めて頂いた故小林好宏先生、駆け出しの頃からご指導を賜った故早川泰正先生には深淵なる感謝を申し上げます。さらに、北大在任中に支えてくださった教職員の方々、マーケティング講義の聴講や研究室の学生の皆さんに厚くお礼申し上げます。研究室では常に意欲的な学生たちに恵まれました。

当時の教官は、大学の管理運営に携わらねばならず、世帯の小さい学部では、学部はもとより、いくつもの全学委員会に所属しなければなりません。私も（全学）評議員もやりましたし、（全学）学生委員会委員となり、学生たちとの対話の矢面に立ったこともあります。

私の研究は、経営学の一分野である商業・マーケティングの問題である国際市場をいくつかに分けて細分化することです。海外進出を目論む企業も世界における国・地域の市場特性をしっかりと押さえる必要がありますが、現代においての国際市場は格段に広がっており、なおかつ国家数の拡大と縮小、またはグループ化という目まぐるしく変化する複雑な構造になっています。当該企業に合致する国際市場把握はそう簡単ではないことが予想されます。そうした企業への情報提供のためにも国際市場細分化研究（比較マーケティング研究）の成果が待たれているのだと思っております。

このため、文科省の科学研究費を「研究課題・比較マーケティング研究における一展開—国際市場細分化を中心とする実証化—」として申請し、交付を受けましたので、大量のデータを集めて北大大型計算機を使って分析を進め、その結果論文を学会誌に載せたり、まとめて本にして出版したりしました。この一連の研究は、社会科学におけるビッグデータの分析可能性（その限界）という重要問題にもつながりました。

これまで、愚直に研究をしてきましたが、あるとき、それまでの管理運営、研究教育のほか「社会貢献」も、大学教授としての評価対象にすべきではないかという議論が起こってきまして、私もそれに賛同して、国や道や都市の審議会の委員依頼を受けて、研究に基づく自分の考えを発言するようにしてきました。このうち、北海道や都市（札幌市）の経済活性化問題にはことさら関与してきました。

『北海道をマーケティングする』という著書も出版しました。平成23年には、札幌市長より、札幌市市政功労者として表彰も受けております。

大学を辞して10年になりますが、まだまだマーケティング研究や学会活動は続けております。叙勲の栄を与えられた今、北大の32年は、自分の研究人生に多大の影響を与え

てくれた結果だと認識しております。この充実した学生生活を送らせていただいた北海道大学の一層の発展を祈念しております。

功績等

黒田重雄氏は、消費者行動と商業施設との関連性に関する研究を出発点として優れた業績を挙げてこられた。昭和54年度文部省科学研究費の「研究課題・わが国流通問題関する都市間比較実態調査」の交付を受け、また、昭和56年度文部省科学研究補助金（研究成果刊行日）交付を受け、それらの分析結果を昭和57年『消費者行動と商業環境』として纏め、北海道大学図書刊行会より刊行している。同氏はさらに、企業における消費者市場への対応ないしマーケティング理論へと研究を進め、とりわけ国際マーケティングの一分野として今日非常に注目されている比較マーケティング研究において顕著な業績を残している。平成8年に『比較マーケティング』という題で、千倉書房（東京）より刊行されるとともに、日本商業学会の学会誌「流通研究」（平成10年）に掲載された。本研究は、グローバル化する企業の国際的な市場細分化の観点から、標的市場を定めることの重要性を指摘するとともに、膨大なデータを用いて国際的な市場の細分化を試みた我が国における先駆的労作となっている。これはまた、社会科学におけるビッグデータの分析可能性という重要問題につながっている。この書をもって北海道大学より経営学博士の学位を授与された。

同氏は、研究・教育における多大の貢献にとどまらず、学内においては、平成3年8月から同5年7月まで評議員を務められ、平成4年5月から同8年5月まで在外研究員派遣専門委員（平成6年5月から同7年5月まで委員長）も務められた。また、平成12年4月から同14年3月まで大学院経営学研究科現代経済経営専攻主任、平成13年4月から同14年3月経営学科長として学部運営の枢機に参画されるとともに、学部・大学院の管理運営に力を尽くされた。

また、学外にあっては、平成7年10月から同8年2月まで文部省教科用図書検定調査審議会調査員（日本商業学会推薦）、平成3年7月から同9年11月まで労働省北海道地方職業安定審議会委員（副会長）を務めた。北海道庁では長らく北海道大規模小売店舗審議会や北海道大規模小売店舗立地審議会などの会長・委員長などを歴任し、また、札幌市関係では札幌市中小企業振興審議会会長や札幌市土地利用審査会会長などを務めたが、それらの功績により、平成23年度の札幌市市政功労者の表彰を受けている。

略 歴

生 年 月 日 昭和15年2月1日
昭和45年6月 北海道大学経済学部専任講師
47年4月 北海道大学経済学部助教授
57年4月 北海道大学経済学部教授
平成12年3月 北海道大学大学院経済学研究科教授
14年4月 北海道大学退職
14年4月 北海道大学名誉教授

14年4月 北海学園大学大学院経営学研究科教授
15年3月 北海学園大学大学院経営学研究科教授兼経営学部教授
22年3月 北海学園大学大学定年退職
22年4月 北海学園大学開発研究所特別研究員（兼経営学部および大学院経営学研究科非常勤講師）となり現在に至る

（経済学研究院）



栗原 豪彦 氏

感 想

この度は図らずも叙勲の栄誉を賜り、身に余る光栄と大変恐縮に存じております。もっと相応しい方を差し置いて私などが頂戴して

よいものか、と一時は辞退も考えましたが、あえて有難くお受けすることになりました。これもひとえに恩師や先輩、（元）同僚など多くの方々のご指導とご鞭撻の賜物と厚くお礼申し上げます。

生まれ育った地元の北海道大学で学部、大学院（博士課程）を終え、助手を経て主として教養部、後に言語文化部並びに大学院・国際広報メディア研究科で英語科目、言語学関連科目の講義・演習などを担当しました。自然に恵まれた広いキャンパスで定年を迎えられたのは誠に幸いでした。入学後間もなく安保条約をめぐる学生紛争、また講師になった直後には全国で吹き荒れた大学紛争で、研究室のあった古河講堂も含めほとんどの建物がかなりの期間封鎖されたことなども今では苦い思い出です。

大学院では言語学／英語学を専攻し、博士課程のとき、理論言語学に「革命」をもたらしたチョムスキーの連続講義（東京言語研究所主催）に参加できたことも大きな収穫でした。また1972年にフルブライト奨学生としてミシガン大学大学院言語学科に1年間留学し、またシカゴ言語学会や1973年夏、ミシガン大学で開催されたアメリカ言語学会（LSA）のLinguistic Instituteにも参加し、最前線の著名な言語学者・研究者から学び、交流もできました。1990年の夏学期に北大と交流のあったポートランド州立大（PSU）で言語学関連の大学院コースを2コマ担当したことも有益な体験でした。こうした経緯もあり、主たる研究領域は理論言語学そのものから言語使用・発話行為の深層原理と社会状況との関わりの諸相を扱う語用論（Pragmatics）とその関連領域へと移りました。

北大では当初も言語文化部が新設されてからも主として教養課程での英語教育を担当しましたが、その後文学部でも（学内非常勤で）英語学を担当しました。二次入学試験への音声テスト導入にも関わり、定年近くには上述の言語文化部を母体とする大学院が新設されて兼任となり、博士課程の数年まで担当できたのも幸いでした。北大退任後は

70歳まで市内の私大の人文学部・大学院で専門分野の講義・演習を担当しました。

学会に関しては、英語学会（評議員）、言語学会などの他、大学英語教育学会にも早くから関わり、評議員、理事、また北海道支部長としても多少お役に立てたかと思っています。最後に、これまでお世話になった方々に改めて厚く感謝申し上げます。また年々厳しさを増すわが国の高等教育の状況において北海道大学が研究及び教育の両面で益々発展し、多様な分野で貢献できるよう心より祈念しております。

功績等

栗原豪彦氏は、昭和15年2月12日に北海道に生まれ、昭和37年3月北海道大学文学部文学科（英米文学専攻）を卒業後、同年4月同大学大学院文学研究科修士課程に進学し、昭和39年3月文学修士号を取得、同年4月同大学大学院文学研究科博士課程に進学、昭和42年3月同課程を単位取得満期退学した。同年4月北海道大学文学部助手に採用され、昭和44年4月講師に昇任、昭和50年7月助教授に昇任した。昭和57年4月同大学言語文化部助教授に配置換えとなり、昭和62年5月教授に昇任し、平成15年3月北海道大学を定年にて退職された。同年4月に北海道大学名誉教授になられ、また、北海学園大学人文学部・大学院教授に就任し、平成22年3月に同大学を定年退職された。

海外における経歴としては、平成2年7月から1ヶ月間、ポートランド州立大学の客員教授として、同大学のサマーセッションにおいて学部・大学院コース「談話分析」及び「日本語学」の講義を担当するとともに、言語学の研究に従事された。

栗原氏の研究領域は、統語論と意味論・語用論を主とする英語学・言語学、外国語教育に係る応用言語学、実験音声学的研究及び言語と音楽の認知メカニズムに関する研究に大別される。

英語学・言語学における同人の業績は、統語論に関連するものとして、伝統的・実証的な立場と生成文法理論の枠組みから行われた句動詞の構造に関する研究、英語の発話行為動詞（伝達動詞）の文法と語法に関する研究、及び直接話法・間接話法の統語論と意味論に関する研究、並びに句動詞の削除現象と動詞句の代用形（照応形）を扱った一連の論考があり、また意味論関係では、文レベルの同義性を扱った研究及び換喩と提喩のメカニズムを扱った比喩認知に関する意味論的考察がある。これらの研究は、その関連分野では比較的初期のもので、その後活発になった当該分野の研究動向をやや先取りしたものであり、この意味において、我が国の英語学・言語学における先導的研究として功績があった。なお、これらの研究の一部は、同人が携わった英語学辞典（『新英語学辞典』研究社、1982年）の関連項目の執筆にも生かされている。

外国語教育の分野では、文部省の中等教育の英語カリキュラム改訂による学力低下が懸念された昭和60年度から約10年間にわたり、北海道大学教養部の新入生の英語習熟度

（学力）に関する共同調査を主導し、米国の標準テストに独自の改定を加えたテストを用いて、学生の英語学力と入試成績や入学後の英語成績との相関などを総合的に調査分析し、英語学力の動向を明らかにしたが、その調査結果は学内におけるその後の英語カリキュラム改革にも有益な資料として役立った。

その後、同人は言語運用の普遍的原則を扱う語用論への関心を強め、英語及び日本語のポライトネス、指示表現とその照応形の選択に関わる推論の語用論的メカニズムに関する研究に従事した。また、平成14年度より導入された文部科学省の高等学校新学習指導要領の改訂にも反映されている英語のコミュニケーション能力における語用論的側面にも早くから注目し、外国語教育における語用論の重要性を扱った論考を公刊した。このように、同人は語用論の言語学的研究を通じて、その成果を英語教育に生かすことで研究と教育の両面に貢献された。

さらに、同人は、平成3年度以降は実験音声学の分野にも関心を持ち、一連の予備的研究を経て、平成10年度から3年間にわたり文部省科学研究費補助金による日本語教育における音声指導に資するための基礎研究として、諸外国語を母語とする日本語話者の日本語の発話における音声学上の特徴に関する実験音声学的分析研究に従事した。その結果、非母語話者による日本語分節音の発音と韻律的特徴の音響的特性の解明に一定の功績をあげられた。

さらに、同人は言語と音楽の生物学的基盤と認知メカニズムの類似性に注目し、言語学・応用言語学的観点から音楽の認知に関する研究を行った。また近年は、ポライトネス理論における「合理主義的」及び「言説的」アプローチを取り上げ、両アプローチにおけるポライトネス観と方法論の違いを学説史的視点から詳細に検討し、対立の所以と問題点を明らかにしている。

北海道大学在職中に同人は、入学者選抜制度調査委員会の委員を長年務め、音声テスト実施準備委員会の責任者として英語の第二次入学試験への音声テスト導入に力を尽くしたほか、学術情報委員会、学術情報データベース作成専門委員会、情報処理教育センター運営委員会、先端科学技術共同研究センター運営委員会等数多くの委員を歴任し、大学運営に多大に寄与された。言語文化部では視聴覚教育専門委員会委員長、CALL小委員会委員として視聴覚設備等の改善と充実に寄与され、また、平成13年度には大学院国際広報メディア研究科の教務委員会委員長を務めた。北海道大学退職後は、北海学園大学においても各種委員や委員長を務めた。

学会関連では、日本英語学会の評議員及び大学英語教育学会の支部長のほか、同学会評議員と理事を務め、英語教育の改善に貢献した。この他、スズキ・メソッド学術研究会委員、日本英語検定協会1級面接委員を長年務めた。

以上のように、同人は、言語学・応用言語学研究と英語及び日本語教育の発展に尽くしたものであり、その功績は誠に顕著である。

略 歴

生 年 月 日 昭和15年 2月12日
 昭和42年 4月 北海道大学文学部助手
 44年 4月 北海道大学文学部講師
 50年 7月 北海道大学文学部助教授
 57年 4月 北海道大学言語文化部助教授
 62年 5月 北海道大学言語文化部教授
 平成15年 3月 北海道大学定年退職
 15年 4月 北海道大学名誉教授、北海学園大学教授
 22年 3月 北海学園大学教授退職

(メディア・コミュニケーション研究院)



おお い むつ み
大井 睦美 氏

感 想

この度、図らずも叙勲の栄誉を
 賜り身に余る光栄と感激いたして
 おります。これもひとえに関係の
 皆様のご尽力の賜物と深く感謝

し、お礼を申し上げます。

私は昭和56年に北海道立衛生学院助産婦科を卒業し北海道大学病院に入職、37年勤務させていただきました。

新人助産婦として憧れの産科病棟に配属され、1年間で産科外来、分娩室、妊婦・褥婦の看護、新生児の看護の基本を学びました。大学病院の産科病棟ですから、他施設からの重症妊産婦の救急搬送の受け入れは日常的で、先輩や医師から受け入れ準備、患者・家族への対応と配慮、チーム間のコミュニケーションのあり方を、実践を通して教えていただきました。

中でも、新生児室は正常新生児の健康管理の他に、早産児や低出生体重児、種々の先天性疾患を持つ病児の治療と看護を担う場所であり、専門的な医学知識の獲得と精密医療機器の操作の習熟に追われる日々でした。そのような中で病気の赤ちゃんを授かったご両親・ご家族に寄り添い、見守りながらケアを提供することに充実感を得て看護したことを懐かしく思い出します。さらに看護の実践能力を高めるため、短い間でしたが精神・神経科病棟、第一内科病棟と配属させていただき、精神疾患患者さんを理解する基本姿勢や難治性の慢性疾患患者さんの看護、終末期看護を学ぶことができました。

その後再び産科病棟に配属となり平成4年に副看護婦長に、平成13年に看護婦長となりました。副看護婦長の時は、当時の福島洋子看護婦長のご指導の下、周産期医療情報システムの構築に向けた取り組みを行いました。看護婦長となつてからは、新人教育にプリセプター制を導入、NICUのMRSA感染改善と周産母子センターの機能拡大、新生児集中ケア認定看護師の育成、院外施設への助産師実務研修を開始しました。

平成25年から4年間は医療安全管理部で勤務し、ゼネラルリスクマネジャーとして院内全体の医療安全の質向上に携わり、同27年に開始された医療事故調査制度の運営、医薬品・医療機器等の試用に関する医療安全管理体制の再構築に取り組みました。その後、第一外科・乳腺外科病棟を経て産科病棟に異動、安心・安全な医療提供につながるスタッフ同士のシャドウイング、アドバンス助産師の認定・更新の支援を行いました。

北海道大学病院での37年間を振り返りますと、諸先輩・同僚・後輩・他職種を含む多くの方々にご指導・ご支援をいただいたこと、また患者さんや御家族の皆様から教えていただいたことに深く感謝いたします。今後は、この栄誉に恥じることがないように過ごしてまいりたいと思います。最後になりますが、北海道大学、北海道大学病院、看護部の発展を御祈念申し上げ、お礼の言葉といたします。

功績等

大井睦美氏は、昭和34年1月8日に大阪府大阪市に生まれ、同55年3月に北海道大学医学部附属看護学校を、同56年3月に北海道立衛生学院助産婦科を卒業された。昭和56年4月より北海道大学医学部附属病院に採用され、平成4年副看護婦長、同13年看護婦長を歴任し、同31年3月に北海道大学を定年にて退職された。

同氏は採用後、産科病棟、精神・神経科病棟、第一内科病棟で勤務され、再び産科病棟配属時に副看護婦長に昇任された。その後、看護婦長に昇任、産科病棟では、新人教育にプリセプター制を導入するなど積極的に看護管理を実践された。また、周産期システム、病院情報システムの導入にあたり先を見据えた周産期管理を形にし、病棟の看護管理としてNICUのMRSA感染についてデータを収集し改善計画を作成、平成21年の周産母子センターの機能拡大に繋がられた。同23年には新生児集中ケア認定看護師を誕生させたほか、院外施設への助産師実務研修を開始された。看護研究では、平成16年に、第45回日本母性衛生学会において「胎児治療を受ける妊婦の心理状況と看護ケア」を発表された。また、同14年には、第22回医療情報学連合大会で「北大病院における周産期医療情報システムへの取り組み-母体と胎児・新生児情報の一元的管理に向けて-」を発表された。平成23年には認定看護管理者認定制度セカンドレベル研修を受講し、看護管理者としての研鑽に努められた。

平成25年4月から同29年3月には医療安全管理部で勤務し、ゼネラルリスクマネジャーとして院内全体の医療安全の質向上に貢献され、同27年に開始された医療事故調査制度の運営、医薬品・医療機器等の試用に関する医療安全管理体制の再構築などに取り組みされた。また、平成26年には、第9回医療の質・安全学会において「パネル展示による医療者と患者・家族との医療安全に関する情報共有」を発表された。

その後、第一外科・乳腺外科病棟を経て産科病棟に異動、安心・安全な医療提供につながるスタッフ同士のシャ

ドウイング、アドバンス助産師の認定・更新の支援などに取り組まれた。

病院全体の活動では、看護部総務委員会において、看護師長・副看護師長の能力評価基準の改訂、看護師・看護師長の白衣の見直しを実施された。また、内服薬に関する業務行程調査を実施し、推奨されるダブルチェック方法についてDVDを作成するなどインシデント防止に貢献された。

さらに社会貢献活動も積極的に行い、国立大学附属病院医療安全管理協議会員などを務められた。

以上のように同氏は、37年の永きに亘り看護の質向上に尽力され、その功績は誠に顕著である。

略 歴

生 年 月 日	昭和34年1月8日
昭和56年4月	北海道大学医学部附属病院看護部
平成4年4月	北海道大学医学部附属病院看護部副看護婦長
13年4月	北海道大学医学部附属病院看護部看護婦長
15年10月	北海道大学医学部・歯学部附属病院看護部看護師長
16年4月	北海道大学病院看護部看護師長
31年3月	北海道大学定年退職

(北海道大学病院)

衛生管理者連絡会を開催

10月27日(火)、日頃から部局での安全衛生業務に従事している衛生管理者等の教職員を対象として、衛生管理者連絡会をオンラインで開催しました。

川上貴教安全衛生本部教授からは、今年はコロナ禍に関連して、火災予防の視点での消毒用アルコールの取り扱いや飛沫感染防止用ビニールシートに関する注意喚起、換気の良否を判定できる換気シミュレーターの使い方、最近の厚生労働省の通達や通知などが紹介されました。また、今年度の本学の活動状況や、部局における衛生管理者業務の位置づけや役割など、本学で安全衛生活動を円滑に進めるうえで部局担当者が知っておきたいことも示され

ました。

また、久保直樹安全衛生本部特任准教授から、「安全の手引」のパワーポイント資料について紹介がありました。さらに、平井克美安全衛生本部特定専門職から、昨年度の職場巡視で指摘している内容及び部局ごとの件数等の報告に加えて、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため安全衛生本部衛生管理者は、マスク着用、手指消毒の徹底、3密防止を意識し職場巡視を実施していることについて説明がありました。

これらの話題提供の後には、各部局からの参加者から、自己紹介と現在担当している業務、日頃困っていること

や本日の意見・質問などについてお話しいただき、種々出された意見をもとに活発な意見交換が行なわれました。今回は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、初の試みであるオンライン開催となりましたが、地方施設からご参加いただき有意義な連絡会となりました。

本連絡会は、衛生管理者を始め、安全衛生業務に携わっている方々の業務に役立てていただくため、次年度以降も定期的に開催する予定です。

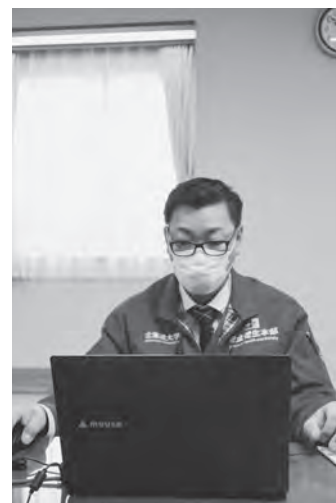
(安全衛生本部)



講演する川上教授



「安全の手引」パワーポイント資料について説明する久保特任准教授



職場巡視について報告する平井特定専門職

Academic Fantasia

10月は6名の研究者が北海道札幌南高等学校で出張講義を実施

平成24年度から実施している「国民との科学・技術対話」推進に関する研究支援事業、通称“Academic Fantasia（アカデミックファンタジスタ）”では、北海道新聞社の協力のもと、高校生等を対象とした講義を行っており、令和2年度の活動が本格的にスタートしました。10月23日（金）、本学の教員6名が北海道札幌南高等学校の1年生を対象とした進路

講演会で、それぞれの研究内容等を紹介しました。各教室とも、難しい内容にも真剣に耳を傾け、積極的に質問する生徒達の姿が見られました。またアンケートには、「高校生にも分かりやすい講義で、ありがたかった」、「研究者に興味がわいた」、「自分の将来に不安があったが、お話を聞いて明確なビジョンを持つことができた」、「知らなかったことばかりで、興味深

かった」などの意見がありました。来月以降も、アカデミックファンタジスタの講義レポートをお届けしていく予定です。

Facebookもぜひご覧ください。

@Hokkaido.univ.taiwa

<https://www.facebook.com/Hokkaido.univ.taiwa>

（総務企画部広報課）

■日 時：令和2年10月23日（金）14：15－15：05、15：15－16：05

■会 場：北海道札幌南高等学校

■参加生徒：1年生 約320名（1名あたり2講義選択）

■参加講師：

〔順不同〕

工藤 興亮 教授（医学研究院）

「画像診断で認知症の早期発見を目指す」

平田 健司 准教授（医学研究院）

「PETとAIを使ってがんの診断に挑む」

川堀 真人 特任准教授（北海道大学病院）

「再生医療で脳を治す」

三澤 弘明 特任教授（電子科学研究所）

「夢のエネルギー人工光合成の実現に向けて」

青沼 仁志 准教授（電子科学研究所附属社会創造数学研究センター）「昆虫が超高速の運動を生み出すカラクリ」

小林 澄貴 特任講師（環境健康科学研究教育センター）「ヒトの身近な環境は健康に関係するのか？」



MRIの原理と診断法について話す工藤教授



AIによる画像診断について解説する平田准教授



医師への道について語る川堀特任准教授



人工光合成に関する著書をプレゼントする三澤特任教授



模型を使って昆虫の体の仕組みを解説する青沼准教授



環境と健康に関する調査について質問を受ける小林特任講師

高等教育研修センターにて研修会を開催

高等教育推進機構高等教育研修センターでは、7～9月に以下のとおり研修会を開催しました。

学生はオンライン授業をどう受け止めているのか 参加者：323名

開催期間：令和2年7月9日（木）、16日（木）

開催方式：Zoomセミナー

受講対象者：教育機関関係者

研修目的：本セミナーでは、慣れないオンラインという授業形態のなか、受講生の視点に立った授業づくりをすることを目的として開催した。本学の1年生数名に登壇いただき、オンライン授業に対する心境、課題や工夫などをお話いただいた。



学生はオンライン授業をどう受け止めているのか

働き方を変えるタイムマネジメント研修 参加者：30名

開催期間：令和2年8月24日（月）

開催方式：WEBセミナー（Microsoft Teams）

受講対象者：高等教育機関に所属する教職員

研修目的：本研修では、参加者のマネジメントスキル向上だけでなく、ストレス軽減や長時間労働の改善などを目的として開催した。日本タイムマネジメント協会による、事前のマネジメントスキル診断、ライブ研修及び14週間のフォローアップ研修を行った。

withコロナ時代の大学教育をどう創っていくか 参加者：171名

開催期間：令和2年9月15日（火）、18日（金）、24日（木）

開催方式：Zoomセミナー

受講対象者：高等教育機関に所属する教職員

研修目的：本セミナーでは、1学期のオンライン授業をふり返り、2学期に向けた課題を共有することを目的として開催した。教員と参加者とのディスカッションや、学生相談総合センターに寄せられた学生からの相談等から学生交流のあり方についても考えた。



withコロナ時代の大学教育をどう創っていくか

（高等教育推進機構）

令和2年度オープンキャンパスをオンラインにて開催

9月20日（日）、オープンキャンパスをオンラインにて開催しました。

例年は、8月上旬に参加者にキャンパスにお越しただいて開催するところ、本年の開催日程は、オリンピック競技開催予定日の関係で9月下旬とし、また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、オンライン

形式での開催となりました。

当日は、オンラインオープンキャンパス特設サイトにて事前収録した動画（オンデマンドコンテンツ）を公開したほか、各学部等において独自に企画されたライブ配信プログラムを配信しました。

オンラインオープンキャンパス特設

サイト（オンデマンドコンテンツ）への訪問回数は、延べ11,210回、動画再生数は20,727回となり、このほか各学部等のライブ配信コンテンツ参加者数については、延べ1,508名となりました。

（アドミッションセンター）

令和2年度オープンキャンパス 参加者数等集計表

学部等名	オンデマンドコンテンツ (事前収録の学部紹介及び模擬講義等)		ライブ配信コンテンツ (学部等の独自企画による当日配信) 参加者数 c	部局等別合計	
	ページ訪問回数 a	動画再生数 b		a+c	b+c
文学部	873	806		873	806
教育学部	476	412	110	586	522
法学部	573	799	65	638	864
経済学部	563	511	128	691	639
理学部	1,379	2,295	410	1,789	2,705
医学部医学科	935	1,354		935	1,354
医学部保健学科	664	1,141	112	776	1,253
歯学部	189	139	49	238	188
薬学部	597	664	195	792	859
工学部	1,094	2,408		1,094	2,408
農学部	1,067	2,355	152	1,219	2,507
獣医学部	672	689	106	778	795
水産学部	432	629	172	604	801
附属図書館（本館・北図書館）	448	267		448	267
国際交流課（旧 国際連携機構）	258	317		258	317
高等教育推進機構CoSTEP	193	38	5	198	43
学生相談総合センターアクセシビリティ支援室	82	18	0	82	18
北大キャンパスビジットプロジェクト	715	1,585		715	1,585
新渡戸カレッジ		288	4	4	292
アドミッションセンター		4,012			4,012
総合計	11,210	20,727	1,508	12,718	22,235

※人数については、延べ数で集計。

※ライブ配信コンテンツについては、任意企画。

令和2年度北海道大学進学相談会をオンラインにて開催

10月4日（日）及び18日（日）に本学主催の進学相談会をオンラインにて開催いたしました。

例年は、東京及び大阪の会場にて開催するところ、本年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、オンライン形式での開催となりました。

当日は、事前にお申し込みをいただいた方からの相談を各学部等の教職員

等がZoomにより対応しました。

10月4日には延べ121名、18日には延べ138名の方が参加され、2日間で延べ259名にご参加いただきました。

開催後の参加者からのアンケートでは「対面式と比べても遜色がなかった」、「遠方からの参加も可能な点はとてもよいと感じた」、「例年は混雑により人気のあるブースは開けなかったりしたが、時間が決まっていたため

しっかりと聞きたいことを聞くことが出来た」等の良かった面のご意見をいただいた一方、「Zoomでの相談は緊張してうまく話せなかった」、「対面式ではたくさんの先生方とお話できたので、対面式のほうが良いと感じた」等の従来の対面式での開催を望むご意見もいただきました。

（アドミッションセンター）

高大連携による「Hokkaido Study Abroad Program」を開催

北海道教育委員会及び本学主催の高大連携による「Hokkaido Study Abroad Program」を10月12日（月）～14日（水）の3日間開催しました。

本事業は、国際交流に興味・関心を持ち、大学等に進学し学術研究に意欲的に取り組もうとする道内の高等学校の生徒に対して、留学生との相互交流や講義等の受講の機会を創出することにより、国際理解の促進と進学意欲の向上を図り、将来におけるグローバル人材を育成することを目的としています。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で開催が危ぶまれておりましたが、高校生の学びの機会を確保する目的で、感染症拡大防止策を講じた上で開催することとし、今年で3回

目の開催となりました。

本事業は9月の「留学生派遣プログラム」及び10月の「高校生受入プログラム」の2部構成となっており、9月には本学の留学生20名を道内の高等学校18校に派遣し、授業や部活動への参加を通じた異文化交流を行いました。そして10月には、道内の高等学校20校から高校生24名を受け入れ、総長補佐 高橋 彩教授による挨拶を皮切りに、以下のようなプログラムを実施しました。

■留学生とのキャンパスツアー

■留学生及び日本人学生による留学体験談プレゼンテーション及びバーチャル研究室ツアー

■在札幌米国総領事館補佐官による国際的なキャリア形成のためのワークショップ

■本学教員による模擬授業の受講と留学生との交流活動

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で様々な学校行事が中止となる中、同じ志を持った生徒たちが各地から集まり学び合う良い機会となりました。また、今回ご協力いただいた本学の学生からも、本事業は、異文化理解の促進において有意義であったとの声が寄せられ、双方にとって良い経験となりました。

（学務部入試課）



高橋教授による開会挨拶



バーチャル研究室ツアーで留学生とオンラインで交流



クリアパネルで飛沫感染防止策を講じ、留学生との対面交流を実現

令和2年度第1回サステイナブルキャンパス推進員会議を開催

本学では、本学のサステイナブルキャンパス推進に関する活動をサステイナブルキャンパスマネジメント本部と部局等が連携して実施するため、部局等に「サステイナブルキャンパス推進員及び同補佐」を配置するとともに、本部と推進員が情報共有や意見交換を行う場として「サステイナブルキャンパス推進員会議」を定期的の実施しております。

9月29日（火）、令和2年度第1回サステイナブルキャンパス推進員会議をオンラインで開催しました。サステイナブルキャンパスマネジメント本部

に関わる教職員のほか、各部局のサステイナブルキャンパス推進員及び同補佐等を合わせて66名の出席がありました。

この会議では、下記に示す内容について本部より報告等があり、その後、意見交換を行いました。意見交換では、「サステイナブルキャンパス評価システムASSC（アスク）は本学で開発した評価システムであるので、評価項目として構成員の『健康』に関する項目を盛り込んでどうか」「ウェブサイト『北海道大学×SDGs』が開設されたことを受け、SDGsを配慮した

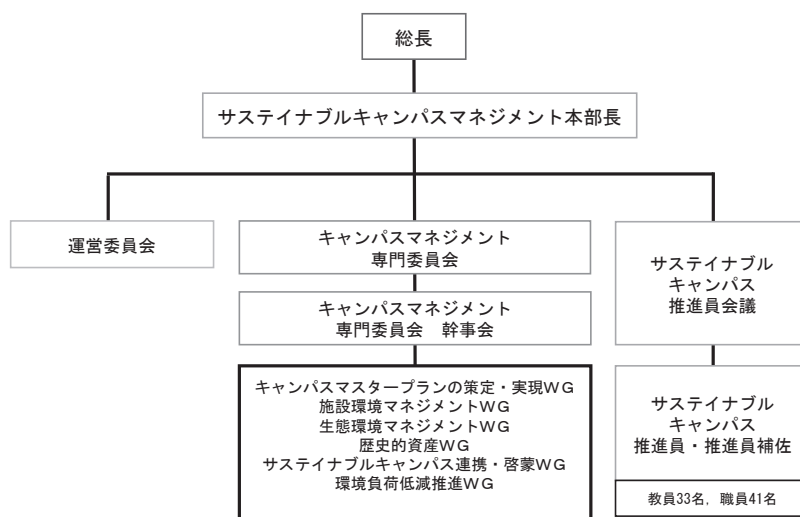
取組を全学的に実施する契機とできると良い」等の意見がありました。

これらの意見等を踏まえ、サステイナブルキャンパスマネジメント本部では、引き続き、部局等と連携を図りながらサステイナブルキャンパス推進に関する活動を推進して参ります。なお、今回は12月17日（木）に開催の予定です。

（サステイナブルキャンパス
マネジメント本部）

議題等

- 1) サステイナブルキャンパス推進員制度について
- 2) 夏の節電対策に関するアンケート協力依頼（2019年度冬季の節電結果報告）
- 3) 廃棄物の適正処理に関する報告
- 4) サステイナブルキャンパス評価システムASSC（アスク）2019年度評価の結果報告
- 5) 「インフラ長寿命化計画（個別施設計画）」改訂の報告
- 6) 「生態環境保全管理方針」策定の報告
- 7) 共同利用スペースの運用について（「教育研究施設の有効活用に関する指針」の改正）
- 8) 「函館地区キャンパスマスタープラン」策定の報告



サステイナブルキャンパスマネジメント本部組織図
（サステイナブルキャンパス推進員会議の位置づけ／令和2年6月現在）

モーリシャス共和国対象のオンライン「日本留学フェア」を開催

本学アフリカサカオフィスでは、8月24日（月）～28日（金）にかけて、モーリシャス共和国（以下、モーリシャス）を対象としたオンライン「日本留学フェア」(Study in Japan Online Fair in Mauritius 2020)を開催しました。本フェアは、サブサハラ・アフリカ地域の優秀な学生の日本留学誘致を目的に、文部科学省から受託している「日本留学海外拠点連携推進事業」の一環として実施されたものです。

モーリシャスは、フランス文化や制度を色濃く残しつつも英語話者が多く、海外留学志向が高いのが特徴です（海外への留学生総数8,663人、海外留学比率22%：2017年）。また、一人当たりの国民総所得（GNI）がアフリカ第2位の中所得国です。新型コロナウイルス感染症の蔓延により、当初の予定であった現地開催をオンラインに切り替え、本フェアを本学と共催したモーリシャス日本国大使館をはじめ、現地の大学及び日本語教師、モーリシャスからの留学生及び修了生にも多大な協力をいただきました。

今回、本学アフリカサカオフィスにとって初となったオンラインフェアでは、アフリカにおける通信事情を考慮し、Facebookを媒体として1日1時間以内のセミナー動画を5日間連続でライブ配信しました。各日のセミナーでは、本フェア用に作成された日本からの参加大学のプレゼンテーション動画（15大学）と、3分程度の広報動画（29大学1機関）を配信するとともに、各大学等から提供があったコースやプログラムに関するPDF資料（35大学1機関）を参加者がアクセスできるクラウド上に保管し、フェア期間中は随時、自由に閲覧できるようにしました。さらに、Facebook上で各大学の担当者（17大学）と参加者が大学と直接やり取りができる場も提供しました。

このように日本から計35大学と1機関（※）が情報提供をおこなった本フェアには、87名のモーリシャス人が

参加しました。参加者の中には、セミナー配信中にコメントを書いてくれる方や、Facebook上で積極的に各大学に質問をする方もいました。また、開催に際して、本事業及び在モーリシャス日本国大使館のウェブサイトやSNSに加え、現地のメディアサイトにおけるバナー広告を利用した広報活動も展開しました。

なお、5日間のセミナーでは、加藤義治モーリシャス特命全権大使から挨拶をいただいた後、それぞれ「日本留学の概要」「帰国留学生の体験談」「卒業後の進路」「奨学金制度」「日本語学習／日本留学実現に向けて」とテーマを設けて内容を組みました。在モーリシャス日本国大使館、溝口大助日本学術振興会（JSPS）ナイロビ研究連絡センター長、国際交流基金の阿部康子日本語専門家、及びモーリシャスの日本語教師サンキスト・クンドマール氏らによる講演、日本貿易振興機構（JETRO）ヨハネスブルグ事務所と株式会社パソナグループからは日本企業への就職に関する情報を提供いただきました。セミナーは現地時間で午前9時（日本時間午後2時）に開始し、本学アフリカサカオフィスの留学コーディネーター大門 碧特任助教と角田さら麻特任助教が司会を務め、日本の大学からのプレゼンテーションも含め、挨拶や講演はすべてこのフェアのために提供された動画をその場で繋ぎながらライブ配信しました。本フェアには上記のほか、本学アフリカサカオフィス所長の奥村正裕獣医学研究院教授が開会と閉会の挨拶を担うとともに、同留学コーディネーター日下部光特任准教授と伊藤正芳特任助教、山本ひとみ事務補佐員、国際部の村瀬達哉国際協力マネージャー、安高由香利特定専門職員、水上千春特定専門職員がフェアの運営を支えました。

アンケートから、本フェアが参加者にとって満足度の高いものであった一方、日本の大学とのやり取りや動画配信に関して改善すべき点があることが

課題となりました。

また、本フェア終了の翌日8月29日（土）には、在モーリシャス日本国大使館主催で本フェアのフォローアップ・イベントが開催され、アフリカサカオフィス及びナイロビサテライトの留学コーディネーターも参加しました。今後、オンラインとオフラインの双方を利用した活動の重要性を認識し、引き続き、モーリシャスの人々に丁寧に留学関連情報を発信しながら、多くの人々の関心を維持し、日本留学の誘致を続けていきます。

※北海道大学、会津大学、叡啓大学、愛媛大学、大阪府立大学、岡山大学、帯広畜産大学、北見工業大学、九州大学、京都大学、京都工芸繊維大学、慶應義塾大学、神戸情報大学院大学、国際基督教大学、埼玉大学、芝浦工業大学、上智大学、筑波大学、デジタルハリウッド大学、東亜大学、東京外国語大学、東京工業大学、東京国際大学、東京農業大学、同志社大学大学院ビジネス研究科、東北大学、東洋大学、名古屋大学、南山大学、兵庫県立大学、弘前大学、広島大学、横浜国立大学、立命館大学、立命館アジア太平洋大学、あしなが育英会（計35大学1機関、順不同）

（国際部国際連携課）



Facebook上でのセミナー動画の配信画面



在モーリシャス日本国大使館で開催されたフォローアップ・イベント

南アフリカ共和国対象のオンライン「日本留学フェア」を開催

本学アフリカサカオフィスでは、9月14日（月）～18日（金）に南アフリカ共和国（以下、南ア）を対象としたオンライン「日本留学フェア」(Study in Japan Online Fair in South Africa)を開催しました。本フェアは、サブサハラ・アフリカ地域の優秀な学生の日本留学誘致を目的に、文部科学省から受託している「日本留学海外拠点連携推進事業」の一環として実施されたものです。

南アは、ダイヤモンドや貴金属等を産出する資源国、かつ民主化後の経済発展も注目されるアフリカの経済大国として知られ、アフリカ唯一のG20参加国でもあります。南アでは、民主化後「ブラック・ダイヤモンド」と呼ばれる高等教育を受けた黒人の中間層や富裕層が増加し、彼らは子息の教育にも熱心で、留学を含め、積極的な教育投資が行われています。近年、南アと日本の文化交流は活発であり、例えば2013年に開講されたプレトリア大学日本研究センターにおける日本語講座や国際交流基金によるオンライン日本語講座では多くの学生が学び、2014年からは現地で日本語能力試験（JLPT）が実施されています。また、本学では、ノースウェスト大学及びプレトリア大学と大学間交流協定を締結していますが、日本全体では30以上の大学が南アの大学と協定を締結しています。このような日本への関心を背景に、南アからは南ア大学協会（USAF）、日本側からは在南ア日本国大使館をはじめ、国際協力機構（JICA）南ア事務所、日本貿易振興機構（JETRO）ヨハネスブルグ事務所、日本学術振興会（JSPS）ナイロビ研究連絡センターの後援・協力を得て、今回開催された日本留学フェアは両国協調かつオールジャパンでの取り組みとなりました。

本フェアは、ウェビナー形式で1日1時間程度のセミナーを5日間連続、現地時間午前9時（日本時間午後4時）からライブ配信を行い、留学を希望する参加者にとって有益な情報が届くよう努めました。具体的には、スマートフォンなどを含む多様なデバイスでの受信を容易にし、またセミナーの内容

としても、留学や奨学金情報のみならず、JETプログラム（Japan Exchange and Teaching Programme：語学指導等を行う外国青年招致事業）や同国に整備された日本語学習クラスを紹介する等、留学希望者と“日本”の距離を縮めることを目指しました。

本フェアでは、丸山則夫駐南ア特命全権大使からのご挨拶に続き、それぞれ「日本留学の概要」「帰国留学生の体験談」「奨学金制度」「卒業後の進路」「日本文化・日本語学習/日本留学実現に向けて」など日ごとに設けたテーマセミナーや、在南ア日本国大使館からの奨学金情報提供、溝口大助JSPSナイロビ研究連絡センター長、プレトリア大学日本研究センターの新井慶子専門家、及び日本語教師のスピノラ宏美先生による講演、JETROヨハネスブルグ事務所から卒後のキャリアパスとしての日本企業への就職に関するアドバイスなどをいただきました。全体を通して、本学アフリカサカオフィスの留学コーディネーター伊藤正芳特任助教と角田さら麻特任助教が司会を務め、上記の挨拶・講演や日本の大学からのプレゼンテーション動画をつなぎながらライブ配信しました。加えて、アフリカサカオフィス所長の奥村正裕獣医学研究院教授、同留学コーディネーター日下部光特任准教授、大門 碧特任助教、山本ひとみ事務補佐員、国際部の村瀬達哉国際協力マネージャー、安高由香利特定専門職員、水上千春特定専門職員がフェアの運営を支えました。

今回、南ア向けフェアには、40を超える日本の大学・機関（※）が参加し、また600名超の南アの若者が登録・視聴しました。また、セミナー後はオンデマンド視聴やコメント機能を活用し、セミナー中のみならず、配信後にも質疑応答が活発に交わされました。これは言わばバーチャルでの「個別相談ブース」のようなもので、各大学からの担当者の協力を得て、それぞれの大学により特化した具体的な質疑応答が続きました。質疑の中には、奨学金や大学のコース内容以外に、コロナ禍での日本の大学の状況、

留学生に対する日本語学習のサポート体制、編入や短期留学の場合の単位の互換性などを確認する内容や、日本に滞在した経験から娘の進学先として日本の大学を検討する教育熱心な保護者からの質問があったことが印象的でした。

本学アフリカサカオフィス及びナイロビサテライトの留学コーディネーターは、参加者の熱気をサブサハラ・アフリカ地域全体に拡げ、北大、日本の大学への留学生増加、交流のさらなる深化につなげていきます。

※北海道大学、会津大学、釧路大学、愛媛大学、大阪府立大学、岡山大学、帯広畜産大学、金沢大学、北見工業大学、九州大学、京都大学、熊本県立大学、熊本大学、慶應義塾大学、神戸情報大学院大学、国際基督教大学、国際大学、埼玉大学、芝浦工業大学、上智大学、筑波大学、デジタルハリウッド大学、東亜大学、東京医科歯科大学、東京外国語大学、東京海洋大学、東京工業大学、東京国際大学、東京農業大学、同志社大学大学院ビジネス研究科、東北大学、東洋大学、鳥取大学、名古屋大学、南山大学、弘前大学、広島大学、兵庫県立大学、武蔵野大学、横浜国立大学、立命館アジア太平洋大学、立命館大学、早稲田大学、あしなが育英会（計43大学1機関、順不同）

（国際部国際連携課）



Facebook上の活発なやり取り



事務局でのライブ配信の現場

北海道大学主催でHaRP事業の日露交流関連会議3件をオンライン開催



日露地域交流年2020-2021
ГОД ЯПОНО-РОССИЙСКИХ
МЕЖРЕГИОНАЛЬНЫХ И
ПОБРАТИМСКИХ ОБМЕНОВ 2020-2021

日露地域交流年ロゴ

9月25日（金）、30日（水）及び10月9日（金）に、本学において3つの日露交流関連行事をオンライン開催しました。これらの行事は、本学と新潟大学が共同採択された文部科学省の平成29年度「大学の世界展開力強化事業～ロシア等との大学間交流形成支援～（タイプB：プラットフォーム構築プログラム）」事業（HaRP事業）の取り組みの一環として実施されました。

○9月25日（金）「日露の大学・企業・地方自治体間のパートナーシップ」

本学とアルタイ国立大学は、国際会議IV Congress of the Association of Asian Universities/ International Educational Forum “Altai-Asia”の一部として「日露の大学・企業・地方自治体間のパートナーシップ」と称する日露の産官学間パートナーシップに焦点を当てた円卓会議を開催しました。この円卓会議には、日本とロシアを中心とした6か国の大学（ロシア側36校、日本側7校）、企業（日本側5社）、シンクタンク（日本側2団体）、地方自治体含む政府機関（ロシア側3機関、日本側2機関）から約130名が参加しました。同会議では、日露の大学研究者より専門家育成のための地域コンソーシアムに関する優れた取組の発表が行われました。

○9月30日（水）「北方圏における日露連携」

本学と北東連邦大学は、ロシアのヤクーツクで開催されたNorthern Sustainable Development Forum

（NSDF）の一部として寒冷地セミナー「北方圏における日露連携」を共同で開催しました。このセミナーには、日露の大学（日本側9校、ロシア側20校）、企業（日本側2社）、シンクタンク（日本側2団体、ロシア側2団体）、NGO（ロシア側1団体）、地方自治体含む政府機関（ロシア側3機関）から約140名が参加しました。前半の全体会議では日露の北方圏における連携に寄与する特徴的な事業（ロシアの複数の地域が関わっている「北方圏」研究教育センターの開設、ArCS II北極域研究加速プロジェクトの発足、HaRP事業における新専門セクション「SDGs：環境・資源開発・多文化教育」の立ち上げ）の紹介が行われた後、参加者は①北方圏環境、②北方圏コミュニティ、③北方圏社会経済開発、④寒冷地の建設技術とデザインの分科会に分かれ、あらかじめ共有された資料に基づく各テーマの概要発表、発表に対する質疑応答と意見交換を行いました。

○10月9日（金）「日露の大学・企業による共同人材育成事業－課題と展望」

本学とハバロフスク国立経済法科大学（KSUEL）は、円卓会議「日露の大学・企業による共同人材育成事業－課題と展望」を共同で開催しました。この会議には、日露の大学（日本側9校、ロシア側16校）、企業（日本側4社、ロシア側6社）、シンクタンク（日本側3団体、ロシア側2団体）、NGO（日本側1団体、ロシア側1団体）、地方自治体含む政府機関（日本側3機関、ロシア側5機関）から約90名以上が参加し

ました。ハバロフスク地方行政投資・起業促進局長・同地方議会議長の挨拶の後、極東商工会代表とハバロフスク日本センター長による基調講演が行われました。また、日露の大学（KSUEL、イルクーツク国立大学、東京農業大学、東京外国語大学等）や企業等の代表から日露の企業（日立・三井・ユニクロ等）との優れた連携事例の発表や今後の連携の提案がありました。

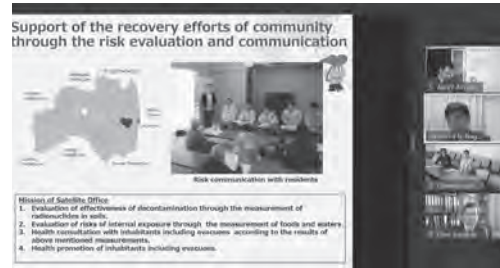
これらの円卓会議とセミナーは全て「日露地域交流年2020-2021」の認定行事としてオンライン（Zoom）で開催されました。参加者は、大学・地方自治体・民間企業を統合する地域コンソーシアムの課題、大学と企業間の日露の人材育成共同事業、北方圏の日露連携などについて、専門家の成功事例から学び、今後の研究や実務における有益な情報を共有し、幅広く意見交換することができました。具体的には、各共同育成事業の成立経緯、大学・企業・自治体にとっての利点、インターンシップの内容、専門家育成プログラムの財源、育成プログラムが地域開発に及ぼす影響、問題点・解決策・反省点等が話題となりました。また、新専門セクションの設置案内を含むHaRP事業でサポートしている多様な取り組みを多くの関係者に知っていただくことができました。これらの行事を契機として、産官学連携や北極圏の研究に携わる研究者・実務者のネットワークが発展することを期待します。

（国際部国際連携課）

9月25日（金）開催「日露の大学・企業・地方自治体間のパートナーシップ」



円卓会議におけるRoman RAIKINアルタイ国立大学副学長の挨拶



長崎大学の長村 昇教授による福島県の医療分野の事例発表の模様

9月30日（水）開催「北方圏における日露連携」



本学スラブユーラシア研究センターの田畑伸一郎教授による挨拶

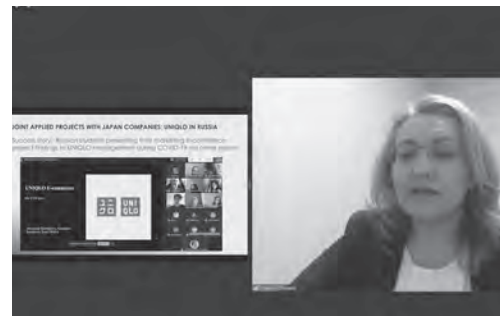


分科会④寒冷地の建設技術とデザインの様子。多くの発表が行われた。

10月9日（金）開催「日露の大学・企業による共同人材育成事業―課題と展望」



ハバロフスク国立経済法科大学における円卓会議参加者の様子



Uliana STRIZHAK高等経済学院東洋学科長による同大学の日本企業UNIQLO社との連携事例の発表の模様

博士人材と企業の情報交換会 第43回「赤い糸会（赤い糸ONLINE）」を開催

人材育成本部のS-cubicでは、9月24日（木）～10月7日（水）にオンラインにて、本年度第1回（通算第43回）「赤い糸会（赤い糸ONLINE）」を開催しました。

本会は、博士人材を求める企業と自身のキャリアの可能性を広げたい博士人材が専門分野のみならず、専門分野を超えた交流を行い、博士人材の活躍フィールドの拡大を図ることを目的としています。

本会は従来、対面式で実施していましたが、双方向の交流を効果的に行うために参加する企業と学生数を20社及び45名程度と限定していました。今年度はコロナ禍で対面式の交流会が実施出来ないため、オンラインでの開催となりましたが、時間や場所の制約が少ないオンラインの特徴を活かし、参加可能人数を大幅に増やしました。その結果、今回の参加学生総数は64名、参加企業は40社となりました。参加学生の内訳は、北大の博士人材が9部局54名、平成26年度末より採択された科学

技術人材育成のコンソーシアムの構築事業により連携大学から参加した博士人材が10名（東北大学2名、神戸大学1名、お茶の水女子大学1名、横浜国立大学1名、立命館大学2名、筑波大学1名、沖縄科学技術大学院大学1名、新潟大学1名）です。

本会では、赤い糸ONLINE専用サイトにて、企業・博士人材が事前に作成・アップロードした動画や資料を双方が視聴・閲覧、チャットによる交流をし、その後Zoomにて企業ブースを博士人材が訪問しての個別情報交換等が活発に行なわれました。

開催後、企業からは、「オンラインは非常に良かった。事前に学生のプレゼンが見られる・コンタクトができる点が特に良いと感じた。」「学生と企業とで相互に発信、コンタクトを取れ、双方にとって効率的にマッチした相手が見つかると感じた。」との声をいただくことができました。また参加した博士人材からは、「オンラインになり、開催期間が長くなったことで非常

にじつくりと、漏れなく企業の方とのやりとりをできたと思います」「自身のキャリアを考える上で大変参考になりました」「この素晴らしい会がより多くの博士人材に知られるようになることを願います」といった嬉しい声もありました。

人材育成本部では上記の活動のほか、企業事業所視察、Advanced COSA、個別キャリア相談、キャリアパス多様化支援セミナー、キャリアマネジメントセミナー、企業での長期インターンシップや、コンソーシアムの連携大学である東北大学や名古屋大学等が運営するプログラムの活用などによって、博士人材の実践力を高めています。今後ともご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

ご興味のある方は、人材育成本部のホームページをご覧ください。

(<http://www2.synfoster.hokudai.ac.jp>)

（人材育成本部）



吉原拓也特任教授の趣旨説明



Zoomによる個別情報交換の説明



博士人材と企業の個別情報交換

「次世代研究者シンポジウム2020」を開催

人材育成本部は、10月22日（木）に「次世代研究者シンポジウム2020」をオンラインで開催しました。本シンポジウムは、北海道大学、東北大学、名古屋大学の3大学が「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業（文部科学省補助事業 平成26年度採択）」の一環として年1回執り行われるイベントで、今年度は「未来に挑む新進気鋭の次世代研究者の活動報告」と題して企画しました。当日は、本学、名大、東北大から計136名が参加し、オンラインのメリットが活かされて日本各地から研究者が集う場となりました。

最初に、SDGパートナーズCEO 田瀬和夫氏から、「SDGsが目指す世界」と題して基調講演がありました。大学の研究・教育活動の現場も「持続可能な開発目標（SDGs）」への貢献が問われる時代となりましたが、SDGsの最前線で活躍する専門家から大学研究者としてもSDGsのストーリーを描く重要性を説く示唆に富んだご講演に対し、

大きな反響がありました。続いて若手研究者からは、「材料科学・宇宙」「細胞工学・生物」「歴史・言語」の三つのセッションに分かれて12件の最新研究の講演がありました。異分野の研究者にとってもわかりやすい講演に対してZoomのQ&A機能を通して多くの質問が寄せられ、活発な質疑が行われました。若手研究者の学問領域を超えた異分野・異文化交流と誰もが当事者であるSDGsの講演を通じ、多くの参加者にとって気づきやひらめきのあふれるイベントになりました。

翌10月23日（金）には、三大学若手研究者による合同合宿を開催しました。今年の合同合宿は、ビジネス向けチャット「Slack」を活用し数ヶ月前から準備を進めてきました。プログラムに参加する三大学の若手研究者は「自己紹介および研究紹介」「提供できる技術や知識」「必要としている技術や知識」を記載した資料を「Slack」にアップロードし、自由に交流・議論

を行って共同研究発案のためのプラットフォームを作りました。

当日は、まず「有事の際に研究者が社会要請に応える事例」をテーマに、COVID-19対策でご活躍中の京都大学の西浦 博先生と東北大学の押谷 仁先生にご講演いただきました。先生方との座談会では本音にも迫る懇談ができ、研究者の社会貢献を考える良い機会となりました。続いて、「Slack」による交流・議論を通じて発掘した3件の研究連携を含めて計11件の発表がありました。若手研究者のみが参加するフレンドリーな雰囲気の中で参加者からは鋭い質問が相次ぎ、プログラム最後の懇親会も含めて活発な交流の場となりました。

シンポジウムと合同合宿の二日間のオンラインイベントを通じ、多くの若手研究者が研究領域や地域を超えて交流を深めることができました。

（人材育成本部）



開会挨拶する山口淳二理事・副学長（録画）



SDGパートナーズCEO田瀬和夫氏による基調講演



「材料科学・宇宙」セッションの質疑の様子



「細胞工学・生物」セッションの質疑の様子



「歴史・言語」セッションのメディア・コミュニケーション研究院の大家瑠璃子助教（右）と座長で名古屋大学村田光司助教（左）



「歴史・言語」セッションの質疑応答の様子

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動をするとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報

基金累計額（10月31日現在）

28,322件 5,268,589,755円

10月のご寄附状況

法人等14社、個人162名の方々から14,915,353円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名、銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

あさぶハート・内科クリニック、株式会社木村工務店、JAPANGAST Study Group、スワン アイ クリニック、北大衛生工学科第3期卒業生、株式会社北海道シジシー、医療法人ららら、理学部山の会▶コロボックル山の会

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	阿部 修	阿部 隆之	荒瀬美由紀	有泉 吉泰	安藤 孝夫	石井 哲夫	石井 信行
井上 弘子	井原 博	入澤 秀次	上野 冬生	梅本 幸男	縁記 和也	及川 道夫	大久保 尚
大原 正範	大村 丈史	奥田 英信	小島 将裕	小田原一史	小野 暁	小野里典明	風間 沢登
加藤 憲義	嘉藤 好彦	金井 弘	金川 眞行	上川 伶	亀貝 一義	川瀬 紀子	河本 充司
菅野 浩	木村 暢夫	木村 典子	熊澤 薫	倉内 宣明	倉林 和重	倉元 祥伍	黒田 敏
黒田 泰	小菅 充	後藤 辰夫	齋藤 駿次	齊藤 晋	齊藤 久	坂本 大介	桜田 厚子
佐藤 義孝	澤田 及子	三升畑元基	志済 聡子	柴田 祐次	島村慎太郎	神 裕子	杉江 和男
鈴木 貴之	鈴木 弘子	鈴木里津子	瀬名波栄潤	瀬山 邦明	高橋 俊	高橋 友子	高橋 素子
谷口 瑞石	玉木 長良	田村 正志	土家 琢磨	土屋 裕	敦賀 健吉	寺澤 睦	戸田 純子
富安 理之	豊田 威信	TranThiHoiGiang	中 永一	中里 究	長島 浩二	中田 忠	中塚 英俊
中根 里香	中村 研	中村 徳三	成澤 優	成田 吉弘	西井 準治	西尾 正人	西田 実弘
西村 成子	西村 一美	野崎 正志	野澤康次郎	野呂 雅之	長谷川就一	幡谷 繁	鉢呂 喜一
花田 秀一	塙 雅昭	百名 伸之	福士 幸治	福永 悟郎	船津 定見	細川 悌弘	前田 博
前仲 勝実	牧野田裕子	正木 志良	松下 一成	松田 健一	松原 謙一	宮田 信幸	宮本 衛市
村上 幸夫	村田 翼	矢嶋 剛	山岸 宏光	山田百合子	横井 成尚	横山 明子	横山 考
吉田 広志	渡辺 康了						

銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

（法人）

JAPANGAST Study Group、理学部山の会▶コロボックル山の会

（個人）

阿部 修、小島 将裕、黒田 敏、黒田 泰、高橋 友子、富安 理之、西尾 正人、塙 雅昭、宮本 衛市、木村 暢夫

感謝状の贈呈



株式会社北海道シジシー 様（令和2年9月24日）



谷澤 敏允 様（令和2年10月22日）

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員の方によるご寄附について」にアクセスして下さい。

<https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff.html>

①給与からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（兼・給与口座からの引落依頼書）」をダウンロードし、ご記入の上、基金事務室に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、基金事務室にご持参ください。

申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか、基金事務室にもご用意していますので、基金事務室にお越しただいてからご記入いただくことも可能です。

④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

（<https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi>）の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室（事務局・学内電話 2017）

（総務企画部広報課）

■ 部局ニュース

北海道大学病院が網走市と連携協定を締結

北海道大学病院は、10月20日（火）、網走市と「市民の健康増進等に関する連携協定」を締結しました。

本協定は、市民の健康増進に関する企画・立案、市民への健康情報提供、網走市におけるスポーツ振興に医学的側面から寄与すること等を通して、本院と同市が網走市民の健康増進等に資することを目的としたものであり、本院が地方自治体と連携協定を締結するのは、平成29年の夕張市に続いて2例

目となります。

当院において行われた締結式には、網走市から水谷洋一網走市長ら3名、当院からは秋田弘俊病院長及び岩崎倫政整形外科教授が出席しました。同締結式では、今後、網走市と本院関係者で構成される「運営協議会」を設置することとし、本院ではスポーツ医学診療センターが中心となって、健康寿命やスポーツ医学などの市民向けの講演会開催、スポーツ合宿のメディカルサ

ポート、野球肘検診等のメディカルチェック、スポーツ選手のための相談機会の創出、医学生及び研修医のためのスポーツ医学を中心とした研修の実施などの詳細について協議していくことが確認されました。

本院では、引き続き地方創生への貢献を進めるとともに、網走市との具体的な連携を強化してまいります。

（北海道大学病院）



連携協定締結後の記念撮影
（左：秋田病院長、右：水谷網走市長）

北海道大学学芸員リカレント教育プログラム 文学研究院×北海道大学総合博物館 企画展「DISTANCE #学びと距離の物語」

令和2年10月6日（火）から10月25日（日）まで、北海道大学総合博物館企画展示室を会場として、企画展「DISTANCE #学びと距離の物語」を開催しました。この企画展は、文学研究院が取り組んできた文化庁助成事業「北海道大学学芸員リカレント教育プログラム（通称、「学芸リカプロ」）」と、本学総合博物館との共催事業として行われたものです。

これまで学芸リカプロでは、現役のミュージアム学芸員や元学芸員、そしてさまざまな方法で地域文化に携わる受講生たちに、新たな学びの場を提供してきました。今回の企画展は、平成30（2018）年度から始まった本プログラムの集大成として、博物館での企画展を実際に制作し、運営したものです。展示構成、出品資料の選定、会場のデザイン、解説パネルの執筆など、企画展制作に関わるほとんどすべての作業に受講生が分担して携わりました。また、チラシやSNSを活用した広報、関連事業である「ミュージアムグッズサミット」の運営、事業評価といったマネジメントも、受講生が担っています。

なお、本展の制作・運営は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながら進められました。当初は、前年度から準備してきた「農と北大」をテーマとする展示になる予定でしたが、今般の感染症の拡大のために困難と判断し、急遽、「学びと距離」をテーマとする企画展に変更しました。また、対面での授業が不可能だったため、企画展制作のためのグループワークはすべてオンラインで行い、参加できなかった受講生向けに、レコーディングした内容をYouTubeで限定配信しました。受講生が集まることはできませんでしたが、伊達市や釧路市、さらには東京やフランスから受講生がオンライン実習に参加するケースや、育児休暇中の現役学芸員が実習に参加するケースもありました。オンラインの強みを活かしつつ、受講生がそれぞれの知識や経験を持ち寄ってつくられた展覧会だと言えるでしょう。

完成した企画展は、このたびのコロナ禍において喫緊の課題として浮上してきた「学びと距離」というテーマを軸に、本学の歴史を振り返るという内容でした。たとえば本学では現在、オ

ープンエデュケーションセンターが中心となってウェブ上で活用できる教材の研究・開発が進められていますが、振り返ってみると、かつて本学ではラジオ講座やテレビ講座など、距離を超えた学びの試みが行われており、それらの教材が残されています。あるいは、水産学部で数十年にわたって学生実験に利用されてきたヤツメウナギ標本や、植物学を担当する歴代の教官が採集してきたオオバナノエンレイソウ標本など、時間的距離を超えて学びのバトンをつなぐ事例にも事欠きません。企画展では、それらの教材や標本、当時の学びの様子を伝える写真や実験スケッチ、学びの記憶を後代に継承する同窓会誌や寮歌集などを幅広く紹介しました。



少人数で行った展示作業



資料の配置について議論



受講生が行う細かな作業



完成した展示室の様子



資料に見入る観覧者



北海道大学新聞による取材を受ける



プログラム受講生とプログラム代表の佐々木亨教授、プログラム担当の今村信隆特任准教授

たくさんの制約のなかで実施された企画展ではありますが、総合博物館と文学研究院の教員はもとより、大学文書館、附属図書館、その他の関係各所

の皆様からの協力をえて、無事にオープンさせることができたものと考えています。結果的には、受講生の成果を本学の学生や教職員、そして多くの一

般市民に還元する機会になりました。

(文学研究院)

教育学部でESDキャンパスアジア・パシフィックプログラム2020（夏季北大プログラム）を開催

教育学部では、「社会の持続可能な発展にとって教育のもつ役割は何か？」を主題とした双方向型短期留学支援事業であるESD（Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育）キャンパスアジア・パシフィックプログラムを、韓国・高麗大学校とソウル国立大学校、中国・北京師範大学、タイ・チュラロンコン大学及びロシア・サハリン国立大学の各教育学部と連携して2011年から毎年開催しています。夏季北大プログラムは派遣先大学ごとに海外生活のサポートをし合う「バディ・プログラム」を特徴としてきました。今年度はこうした現地での交流はコロナウィルスの影響により実施できませんでしたが、9月14日（月）から16日（水）までオンラインで開催しました。

プログラムは下記の3つの講義とワークショップから成ります。最初の講義はTeaching FellowであるTyrel Eskelson（教育学院）氏によるもので、人類と感染症の歩みを制度、経済ユニットと関わる壮大な人類史の社会構造の問題として描き、ESDの基本理

念と社会的取り組みの必要性を促す内容、“Sustainable Development as a Global Goal: Concepts Issues and Ideas”が提示されました。Jeffrey Gayman教授（教育学院／メディア・コミュニケーション研究院）は、“Rethinking Sustainable Development Post-Corona from the Issues Made Visible (and Invisible) through the COVID-19 Pandemic : with a focus on Indigenous Peoples”と題する講義を行い、感染症の問題を先住民族の社会的経済的格差の問題として顕在化し、受講者にESDの問題を地域の中にある眼前の課題としてとらえることの重要性を促しました。Yumiko Ohara准教授（ハワイ大学・ヒロ校 ハワイ語学部）は“Socially determined health and wellbeing : COVID-19, indigenous communities and their languages and ESD”と題する講義を行い、ハワイ語と先住民族、感染症の問題を関連づけ、歴史社会文化的脈絡の重要性について語りました。これら3つの講義を通じて北大生、海外生は身近な感染症の問題を社会文化的歴史的観点から捉えなおし、

分析的な視野を養っています。プログラムの後半では、ゲスト・ティーチャーであるDr. Nanako Iwasa（教育学研究院・専門研究員）氏による、課題解決に向けた若い学生の構想力を促すワークショップが実施されました。オンラインによるワークショップでは、小グループに分けたプロジェクト課題に取り組むことで、より実践的な討論と交流の機会を得ました。その成果は最終日のファイナル・プレゼンテーションを通して共有されています。例年のように、札幌市や平取町におけるフィールドワーク実践を欠く中、受講生はオンライン技術を駆使したプログラムを通して、例年とは異なる角度からESD教育の深淵に触れる3日間を過ごしました。このようにコロナウィルスの影響を教材とした今年度の取り組みは、これまでのESDプログラムの成果を踏襲するとともに、今後の継続的な議論形成につながったと言えます。

(教育学院・教育学研究院・教育学部)



ESDプログラム受講者・教員スタッフ



ハワイ大学ヒロ校よりYumiko Ohara准教授のレクチャー



ソーシャルディスタンスを実践したワークショップの様子

理学部で「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～生命科学の最先端（糖鎖のヒミツをのぞいてみよう）」を開催 理学部生物科学科（高分子機能学）

理学部生物科学科（高分子機能学）では平成19年度から、体験入学「ひらめき☆ときめきサイエンス」を実施し今年で13回目となります。令和2年度はコロナ禍の第2波に伴い、8月時点で対面実施を断念し、9月22日（火・秋分の日）にオンライン上で同時配信により実施しました。今回は代表者である比能 洋教授が科学研究費助成事業（科研費）で得た成果をもとに、講義形式で糖鎖研究の背景と面白さを紹介し、次に助成事業の成果の一部である小型マイクロアレイ解析装置による糖鎖とレクチン間の相互作用観察を体験してもらい、最後に以下のプログラムの概要と高分子機能学の研究の多様性についてオンデマンドコンテンツで紹介しました。

（オンデマンドプログラム）

- ・癌の悪さを直接見てみよう！
- ・細胞の元気さの指標ミトコンドリア

の動きを見てみよう

- ・負けるな小腸・がんばれ免疫！
- ・細胞に近い材料『ゲル』を作ろう！
- ・分子一つ一つの重さから何がわかるか？
- ・2020ひらめき☆ときめきダイジェスト版

また、それぞれのプログラムの後に実施協力者である学部生とのチャットタイムを設けました。

当日は12名の参加者を迎え、講義では「・・・のヒミツをのぞいてみよう」という形式で、科研費、北海道大学、理学部、高分子機能学、について順次紹介した後、糖鎖、糖鎖研究、私たちの研究、という順で研究の面白さとその成果について紹介しました。講義中は顔表示を隠すこととしたため一切反応がつかめないというオンラインならではの苦労もありましたが、直後の質疑応答とその後のチャットタイムでの

反応で楽しんでいただけたことが感じられ安心しました。オンライン実験では、手元の操作とマイクロアレイの観察データ双方を同時に見えるようにし、臨場感を伝えるようにしました。

実施補助として当日参加してくれた学部4年生4名とのチャットタイムでは、準備と称して教員が席を外す時間を設け、打ち解けやすくなる後半になるほど長く時間をとることにより受講生による質疑応答が活発に行われるように配慮したところ、研究や大学生生活の話題にとどまらず、大学進学までの準備や将来設計の話題まで大変盛り上がりしました。

最後に、実施にあたり支援をいただいた教職員の方々、また事前準備や当日の実施補助をしてくれた学部生に深く感謝申し上げます。

（理学部）



実施協力学生の様子



デモ実験の様子

動物慰霊式を挙行

遺伝子病制御研究所では、10月6日（火）、遺伝子病制御研究所において昨年9月からの1年間に学術研究の礎として実験に供せられた動物の御霊を慰霊するため、動物慰霊式を執り行いました。

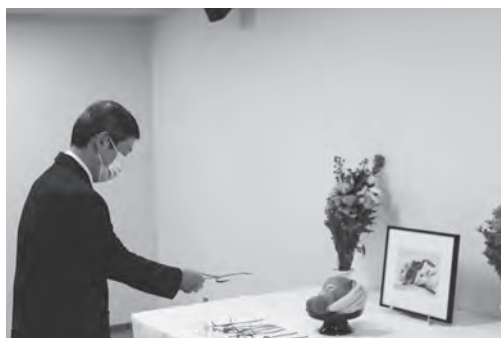
今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、挨拶をメール配信にて行い、献花を各自行っていただく

等、式の規模を縮小して執り行いました。献花には研究所教職員、大学院生・学生等関係者が参列しました。また、配信された挨拶では、田中一馬所長から、生命の尊さを常に考え、動物福祉に一層配慮した研究態勢を考えていくことを願う旨の挨拶がありました。高岡晃教動物実験施設長からは、実験に供された動物の数についての報

告と共に、動物の命へ感謝を述べる旨の挨拶がありました。

この動物慰霊式を通して、参列者全員が生命の尊厳、倫理観について改めて認識し、厳粛のうちに慰霊式を終了しました。

（遺伝子病制御研究所）



献花を行う田中所長



献花を行う高岡施設長

医学研究院医理工学グローバルセンターが第4回医理工学院学生研究発表会／第4回企業との交流会をオンラインで開催

医学研究院医理工学グローバルセンターは、10月14日（水）に、第4回医理工学院学生研究発表会／第4回企業との交流会を開催しました。本発表会は、医理工学院の学生が日々の研究成果を発表する場であるとともに、本学院の教育活動や研究成果等を多方面に知って頂くことを目的とし、一般社団法人日本経済団体連合会の倫理憲章を遵守しながら、例年秋頃に開催しています。

今年で4度目となる本発表会は、新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、Zoomを用いたオンライン開催という初の試みとなりましたが、発表する修士1年生や企業の方々には、開会に先立って事前の動作確認を実施するなど、

円滑な進行ができるよう配慮しました。オンライン開催は遠方からでも参加しやすいという利点から、昨年度よりも多い学生40名、教員16名、企業14社26名の計82名の参加がありました。

医理工学院の学生にはそれぞれ異なる分野の指導教員が2名ずつ配置され、本学院の研究領域である医学・理学・工学の融合領域における研究発表を適切に行えるよう配慮した教育・指導が行われています。

今回発表した修士1年生は入学時から研究活動に大幅な制約がありながらも、前向きに研究に取り組み、本発表会では新進気鋭の発表が揃い、活発な質疑応答が行われました。また、昨年度に続き、修士2年生がポスター制

作、抄録作成、当日の受付、司会進行等の運営に携わり、研究以外の面においても研究者・技術者として今後に役立つ実践的な知識や経験を学ぶ貴重な機会となりました。

ご参加いただいた企業の方々からも、各発表に対して大変高い評価を得るとともに、本発表会によって医理工学院における教育や研究について知見を深めることができたとのコメントがありました。

来年度以降も引き続き開催し、医理工学院の教育活動の発展に寄与される機会となるよう、さらなる充実を目指していきます。

（医理工学院、医学研究院）



清水伸一医理工学院副院長による挨拶



発表会の様子

医学部・歯学部合同慰霊式を挙行

医学部及び歯学部では、10月27日（火）に、学術交流会館において、この1年間に系統解剖、病理解剖及び法医学解剖のため、本学に尊い御遺体を捧げられ、その御遺体を通して病因・病態の究明に、あるいは人体構造機能の理解に、貴重な御教示を遺された397名の御霊の御冥福をお祈りするため、慰霊式を執り行いました。

今年度の慰霊式は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を取りながら行われ、御遺族、寶金清博総長、吉岡充弘医学部長、八若保孝歯学部長、伊達広行医学部保健学科長、教職員、学生等約70名が参列しました。

式は解剖体御芳名奉読の後、参列者全員による黙祷を行い、次いで、吉岡医学部長及び八若歯学部長から、御霊

の御意志に報いるためにも一層の教育・研究・診療の発展に努めたい旨の追悼の辞がありました。その後、参列者による献花を行い、最後に八若歯学部長から謝辞があり、慰霊式は厳粛のうちに終了しました。

（医学院・医学研究院・医学部、
歯学院・歯学研究院・歯学部）



追悼の辞を述べる吉岡医学部長



追悼の辞を述べる八若歯学部長



献花をする寶金総長



献花をする学生



謝辞を述べる八若歯学部長及び吉岡医学部長

獣医学研究院及び人獣共通感染症リサーチセンターで 動物慰霊式を挙行

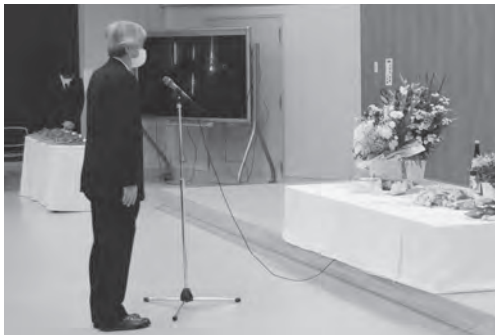
獣医学研究院及び人獣共通感染症リサーチセンターでは、10月5日（月）獣医学研究院において、動物慰霊式を執り行いました。慰霊式は研究・教育のために提供された動物や附属動物病院で治療の甲斐なく死亡した動物の御霊に対し追悼の意を表するとともに、獣医学発展の陰に多数の動物の尊い生

命が犠牲にあることを厳粛に受け止め、生命への畏敬と倫理的責任感を啓発することを目的としたもので、教職員、学部・大学院学生のほか、飼い主等約60人が参列しました。

はじめに、動物の御霊に対して黙祷を捧げた後、堀内基広研究院長の式辞（代読：大橋和彦教授）、参列者によ

る献花、滝口満喜附属動物病院長による講話が行われ、厳粛のうちに慰霊式を終了しました。

（獣医学研究院・人獣共通感染症リサーチセンター）



式辞を述べる大橋教授



講話を行う滝口附属動物病院長

附属図書館で「防災訓練」の実施

附属図書館本館では、10月30日（金）午前11時に地震が発生し、中央棟1階廃棄物保管庫から出火したとの想定のもと、図書館利用者及び職員70名が参加して防災訓練を実施しました。

英語による館内放送並びに掲示も行い、火災発生後、直ちに「通報連絡

係、避難誘導係、消火係、防護措置係、救護係、搬出係」の自衛消防隊の各担当に分かれ、現場の確認、消防署への通報（模擬）、非常放送、避難誘導、消火活動等、実践さながらの訓練が行われました。

防災訓練に続いて防災設備業者指導

のもと、消火器具の取扱説明及び実地訓練を実施し、使用方法についてより一層の理解を深め、一連の訓練を無事に終了しました。

（附属図書館）



救護所を設置する職員



消火訓練を行う職員

静内研究牧場の短角牛肉が「ふるさと納税返礼品」に登録

北方生物圏フィールド科学センター
耕地圏ステーション静内研究牧場で飼
養された短角牛の牛肉（ハンバーグ）
が、日高郡新ひだか町の特産品として
「ふるさと納税返礼品」に登録され、
10月9日（金）から複数のふるさと納
税サイトに掲載されました。

短角牛は脂肪分が少ないヘルシーな
赤身肉が特徴の和牛で、静内研究牧場
では、春から秋にかけては放牧のみで
飼養し、放牧に出せない冬の間も、場
内で収穫した牧乾草と飼料用トウモロ
コシのサイレージを中心に与え、冬季
及び肥育時に給与する穀物の量も、通

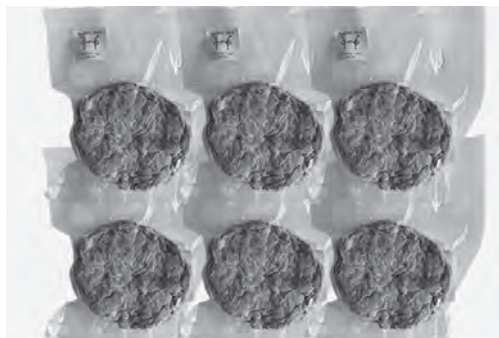
常我が国で肉用牛に与えられている量
の1/4程度にまで減らすという、特色
ある飼い方をしています。

今回の登録にあたり、ふるさと納税
に関する業務を担当する新ひだか町役
場総務部まちづくり推進課長の中村英
貴氏から「新ひだか町の大自然の中、
ほぼ牧場内の草と飼料作物のみで育て
られている北大短角牛のお話を伺った
ときは、驚きと同時に町のふるさと納
税返礼品として全国の多くの人々にこ
の牛の存在を知ってもらいたいと思い
ました。返礼品に登録されてすぐに全
国から申し込みをいただいています。

これからも北大短角牛の魅力をもっと
広めていきたいですね」とコメントを
いただきました。

今回の登録を通して、日本には黒毛
だけでなく短角という和牛がいるこ
と、霜降りだけが和牛ではなく飼い方
によって様々あること、そもそもウシ
はヒトが利用できない草を利用して乳
や肉を生産できる動物だということな
ど、家畜生産や畜産食品について広く
一般消費者の方々に知っていただく
きっかけになればと考えています。

（北方生物圏フィールド科学センター）



返礼品のハンバーグ（150g×6個入り）



放牧中の短角牛の様子

■ 諸会議の開催状況

役員会（令和2年10月1日）

議 案・営利企業の監査役の兼職について
報告事項・総長の職務代理の指名について
・理事及び副学長の職務分担について

教育研究評議会（令和2年10月2日）

報告事項・理事及び副学長の職務分担について

役員会（令和2年10月12日）

議 案・北大フロンティア基金「ポストク等研究者支援事業（仮称）」の創設について
協議事項・附置研究所「人獣共通感染症国際共同研究所（仮称）」の設置について
報告事項・令和3年度概算要求（財務省要求）について
・役員の退職手当の支給について
・総長補佐の任命について

教育研究評議会（令和2年10月21日）

議 題・附置研究所「人獣共通感染症国際共同研究所（仮称）」の設置について
報告事項・総長補佐の任命について
・学生の懲戒及び停学の解除について
・令和2年度卓越大学院プログラムの審査結果について
・令和3年度概算要求（財務省要求）について
・令和元事業年度財務諸表の承認について
・寄附講座等の設置について
・令和3年度受審大学機関別認証評価について
・全学運用教員の措置について
・工学部資源棟新営工事に係る土壤汚染対策法への対応と施設整備費補助金の計画変更について

経営協議会（令和2年10月23日）

議 題・役員の退職手当の支給について
報告事項・理事・副学長の任命について

役員会（令和2年10月26日）

議 案・附置研究所「人獣共通感染症国際共同研究所（仮称）」の設置について
・人獣共通感染症リサーチセンターへの教員人件費ポイント措置について
報告事項・令和2年人事院給与勧告について
・事務組織の見直しについて
・時間外労働実績について

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しています。

■ 学内規程

国立大学法人北海道大学における教員の任期に関する規程の一部を改正する規程

(令和2年10月6日海大達第138号)

理学研究院に、数理科学、計算科学及びデータ科学を物質科学及び生命科学を含む理学各分野に連携させる新しい研究分野を構築するため、大学の教員等の任期に関する法律第4条第1項第2号に基づき任期を定める研究院長付の助教を置くことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学職務発明規程の一部を改正する規程

(令和2年10月8日海大達第139号)

意匠法及び種苗法に係る規定を見直すことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学北大フロンティア基金規程の一部を改正する規程

(令和2年10月15日海大達第140号)

租税特別措置法、租税特別措置法施行令及び「租税特別措置法施行令（昭和32年政令第43号）第26条の28の2第4項の規定に基づき、文部科学大臣又は文部科学大臣及び総務大臣が財務大臣とそれぞれ協議して定める要件及び方法を定める告示」（令和2年総務省・文部科学省告示第1号）に基づき、北大フロンティア基金に新たな事業を創設することに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学組織規則の一部を改正する規則

(令和2年10月16日海大達第141号)

国立大学法人北海道大学総長選考会議規程の一部を改正する規程

(令和2年10月16日海大達第142号)

令和2年10月16日付けで、政策調整室を廃止することに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学内部監査規程等の一部を改正する規程

(令和2年10月16日海大達第143号)

令和2年10月16日付けで、政策調整室を廃止し、総務企画部に秘書室を設置すること及び平成29年6月1日付けで、情報環境推進本部に職員が配置されたことを踏まえ、定義規定等を見直すことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学事務組織規程の一部を改正する規程

(令和2年10月16日海大達第144号)

令和2年10月16日付けで、政策調整室を廃止し、総務企画部に秘書室を設置することに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学総合IR室規程の一部を改正する規程

(令和2年10月20日海大達第145号)

総合IR室の業務運営をより効率的に行うため、令和2年10月1日付けで、総合IR室に置く職の任命に係る規定を見直すことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学高等教育推進機構規程の一部を改正する規程

(令和2年11月1日海大達第146号)

次代の教育を担う教職員を対象としたスキル研修プログラムの拡充及び学生に対する学修支援の強化のため、令和2年11月1日付けで高等教育研修センターファカルティディベロップメント部門及びラーニングサポート部門の体制を整備することに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程

(令和2年11月1日海大達第147号)

本学のオープンファシリティについて、設備の登録及び取消を行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学遺伝子病制御研究所規程の一部を改正する規程

(令和2年11月1日海大達第148号)

令和2年11月1日付けで、遺伝子病制御研究所病因研究部門の研究分野を廃止することに伴い、所要の改正を行ったものです。

■表敬訪問

海外

年月日	来 訪 者	来 訪 目 的
2.10.27	駐日パナマ共和国大使館 Carlos Pere大使	両国の交流に関する懇談（オンライン）



Carlos Pere 駐日パナマ共和国大使



寛金清博 総長



横田 篤 理事・副学長

（国際部国際連携課）

■ 人事

令和2年10月12日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【総長補佐】		
(期間：令和４年３月31日まで)	岡 田 美弥子	大学院経済学研究院教授
(期間：令和４年３月31日まで)	佐 藤 典 宏	国際連携研究教育局・北海道大学病院教授
(期間：令和４年３月31日まで)	福 岡 淳	触媒科学研究所教授
(期間：令和４年３月31日まで)	松 王 政 浩	大学院理学研究院教授
(期間：令和４年３月31日まで)	松 永 茂 樹	国際連携研究教育局・大学院薬学研究院教授
(期間：令和４年３月31日まで)	藤 田 修	大学院工学研究院教授
(期間：令和４年３月31日まで)	高 橋 彩	高等教育推進機構教授
(期間：令和４年３月31日まで)	石 塚 敏	大学院農学研究院教授
(期間：令和４年３月31日まで)	大 場 雄 介	国際連携研究教育局・大学院医学研究院教授
(期間：令和４年３月31日まで)	大 沼 進	大学院文学研究院教授
(期間：令和４年３月31日まで)	村 山 明 宏	大学院情報科学研究院教授
(期間：令和４年３月31日まで)	渡 部 直 樹	低温科学研究所教授
(期間：令和４年３月31日まで)	金 子 純 一	大学院工学研究院准教授
(期間：令和４年３月31日まで)	小 澤 丈 夫	大学院工学研究院教授
(期間：令和４年３月31日まで)	愛 甲 哲 也	大学院農学研究院准教授
(期間：令和４年３月31日まで)	秋 田 利 之	大学院理学研究院教授
(期間：令和４年３月31日まで)	村 松 正 隆	大学院文学研究院准教授
(期間：令和４年３月31日まで)	黒 岩 麻 里	大学院理学研究院教授
(期間：令和４年３月31日まで)	山 崎 幹 根	大学院公共政策学連携研究部教授
(期間：令和４年３月31日まで)	岩 渕 和 則	大学院農学研究院教授
(期間：令和４年３月31日まで)	長谷川 靖 哉	創成研究機構化学反応創成研究拠点・大学院工学研究院教授
(期間：令和４年３月31日まで)	石 塚 真由美	大学院獣医学研究院教授
(期間：令和４年３月31日まで)	LA FAY MICHELLE KAY	大学院文学研究院准教授

令和2年10月16日付発令

新 職 名（発令事項）	氏 名	旧 職 名（現職名）
【課長・事務長・室長】 総務企画部秘書室長	乾 優紀子	政策調整室長

令和2年10月31日付発令

新 職 名（発令事項）	氏 名	旧 職 名（現職名）
【教授】 （任期満了）	廣 瀬 哲 郎	遺伝子病制御研究所教授

令和2年11月1日付発令

新 職 名（発令事項）	氏 名	旧 職 名（現職名）
【部局長・施設長等】 附属図書館北図書館長 （期間：令和３年10月31日まで）	稲 葉 睦	大学院獣医学研究院教授
【教授】 大学院工学研究院教授 触媒科学研究所教授 北方生物圏フィールド科学センター教授	林 重 成 浦 口 大 輔 中 村 誠 宏	大学院工学研究院准教授 名古屋大学准教授 北方生物圏フィールド科学センター准教授

新任部課局長等紹介

令和2年11月1日付

附属図書館北図書館長に



いなば むつみ
稲葉 睦 教授

令和2年11月1日付けで稲葉 睦教授が発令されました。

任期は令和3年10月31日までです。

略 歴

昭和35年1月22日生

昭和57年3月 北海道大学獣医学部卒業

昭和59年3月 北海道大学大学院獣医学研究科修士課程修了

昭和60年11月 北海道大学大学院獣医学研究科博士課程退学

昭和60年11月 北海道大学獣医学部助手

昭和63年11月 北海道大学獣医学部講師

昭和63年12月 獣医学博士（北海道大学）

平成6年4月 東京大学農学部助教授

平成8年4月 東京大学大学院農学生命科学研究科助教授

平成14年9月 北海道大学大学院獣医学研究科教授

平成20年4月 北海道大学大学院獣医学研究科附属動物病院長

平成22年4月 } 北海道大学教育研究評議会評議員

平成25年3月 }

平成25年4月 } 北海道大学大学院獣医学研究科長・獣医学部長

平成29年3月 }

新任教授紹介

令和2年11月1日付



工学研究院教授に

はやし しげなり
林 重成 氏

材料科学部門
エネルギー材料分野

生年月日

昭和44年 2月25日

最終学歴

北海道大学大学院工学研究科修士課程修了（平成6年3月）
博士（工学）（北海道大学）

専門分野

高温腐食・防食，表面改質，耐熱・耐酸化合金の開発



触媒科学研究所教授に

うらぐち だいすけ
浦口 大輔 氏

分子触媒研究部門

生年月日

昭和49年11月22日

最終学歴

北海道大学大学院理学研究科化学専攻博士課程修了（平成14年3月）
博士（理学）（北海道大学）

専門分野

有機化学，有機分子触媒化学



北方生物圏フィールド科学
センター教授に

なかむら まさひろ
中村 誠宏 氏

生物群集生態領域森林生態分野

生年月日

昭和48年 9月18日

最終学歴

京都大学大学院理学研究科博士後期課程修了（平成16年3月）
博士（理学）（京都大学）

専門分野

群集生態学（生物多様性，気候変動，生態系機能，
生態系管理）

資料

役 職 員 数

令和2年10月1日現在

部 局 等	職 種	総 長	理 事	監 事	小 計	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	小 計	URA職	専門職	事務職員	技術職員	合 計
役 員		1人	8人	2人	11人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	11人
政策調整室														3		3
監査室														5		5
事務局	総務企画部												3	96	12	111
	財務部													77		77
	学務部													92		92
	研究推進部													36	1	37
	施設部													12	27	39
	国際部													14		14
附属図書館														90		90
法学研究科・法学部						37	11		9	2	59		3	17		79
水産科学院・水産科学研究所・水産学部						25	32		23		80				36	116
函館キャンパス事務部														24	3	27
環境科学院・地球環境科学研究所						19	22		9	1	51					51
環境科学事務部														12		12
理学院・理学研究所・理学部						75	61	9	35	1	181		1		18	200
理学・生命科学事務部														41		43
薬学研究所・薬学部						15	7	11	22		55				3	58
薬学事務部														9		9
農学院・農学研究所・農学部						44	33	27	16		120				11	131
農学・食資源学事務部														25	2	27
生命科学院・先端生命科学研究所						12	5	3	5		25					25
教育学院・教育学研究所・教育学部						14	19	4		1	38					38
教育学事務部														9		9
国際広報メディア・観光学院・メディア・コミュニケーション研究院						27	27	1	3		58					58
メディア・観光学事務部														9		9
保健科学院・保健科学研究所						21	12	11	22		66					66
工学院・工学研究所・工学部						87	99	3	82		271		3		51	325
工学系事務部														66	3	69
総合化学院																
経済学院・経済学研究所・経済学部						22	17		2		41		2			43
経済学事務部														8		8
医学院・医学研究所・医学部						35	29	20	64	2	150				13	163
医学系事務部														43	2	45
歯学院・歯学研究所・歯学部						19	19	1	36		75				4	79
歯学事務部														10	1	11
獣医学院・獣医学研究所・獣医学部						17	15		13		45				3	48
獣医学系事務部														21		21
文学院・文学研究所・文学部						50	33		8		91	3				94
文学事務部														17		17
情報科学研究所						38	33		17		88					88
医理工学院																
国際感染症学院																
国際食資源学院																
公共政策学教育部・公共政策学連携研究部						10	6				18					18
北海道大学病院						4	14	51	82		151			125	659	935
低温科学研究所						13	9	1	21		44			7	8	59
電子科学研究所						16	13		13		42				10	52
遺伝子病制御研究所						9	6	3	9		27				7	34
触媒科学研究所						7	6		7		20				6	26
スラブ・ユーラシア研究センター						7	3		2	1	13					13
情報基盤センター						7	5		2		14					14
人獣共通感染症リサーチセンター						6	5	4	7		22				2	24
アイソトープ総合センター						1	1		1		3				2	5
量子集積エレクトロニクス研究センター						3	3				6					6
北方生物圏フィールド科学センター						13	17		7		37			20	71	128
観光学高等研究センター						3	2				5					5
アイヌ・先住民研究センター						1	5		1		7					7
社会科学実験研究センター																
環境健康科学研究教育センター																
北極域研究センター						4	1		4		9					9
広域複合災害研究センター							1		1		2					2
脳科学研究教育センター																
外国語教育センター																
数理・データサイエンス教育研究センター																
人間知・脳・AI研究教育センター																
総合博物館						3	3		2		8					8
大学文書館							1				1		2			3
学生相談総合センター							3	1			4		3			7
保健センター						1					1				7	8
埋蔵文化財調査センター									1		1					1
国際連携研究教育局						10(35)	8(17)	3(2)	3(16)		24					24
技術支援本部																
情報環境推進本部													2			2
アドミッションセンター																
人材育成本部																
創成研究機構							2		1		3		1		8	12
創成研究機構化学反応創成研究拠点						(10)	(1)									
高等教育推進機構						7	10	1	10		28	1			4	33
サステイナブルキャンパスマネジメント本部																
安全衛生本部						2					2		1			3
大学力強化推進本部												10				10
産学・地域協働推進機構						1					1		7			8
総合 I R 室												2				2
国際連携機構						1					1	1	3			5
北キャンパス合同事務部														18		18
合 計		1	8	2	11	686	598	156	540	8	1,988	17	31	906	976	3,929

※創成研究機構化学反応創成研究拠点の職員数の()内は、主任研究者 (PI) で内数。当該職員は、原籍組織の職員数に計上。

※国際連携研究教育局の職員数の()内は、北海道大学ユニットの本務者数で内数。当該職員は、原籍組織の職員数に計上。

(総務企画部人事課)

在 籍 学 生 数 (令和2年10月1日現在)

- (注) 1 () 内は女子の内数, < > 内は女子の比率。
 2 [] 内は2年次編入学定員で外数。
 3 [] 内は3年次編入学定員で外数(工学部は高専卒業者の受入れ)。
 4 以下の表は、すべて外国人留学生数を含む。

■学部

学部等名	入学定員	在 籍 者 数							研究生	聴講生	科目等履修生	特 別聴講学生	合 計
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計					
文 学 部	185人 [人]	一人	187人	188人	238人	一人	一人	613人 (267<43.6%>)	59人	7人	4人	人	683人 (310<45.4%>)
教育学部	50 [10]	—	48	67	74	—	—	189 (71<37.6 %>)	18	1	2		210 (86<41.0 %>)
法 学 部	200 [10] [10]	—	224	222	242	—	—	688 (196<28.5 %>)			2		690 (196<28.4 %>)
経済学部	190	—	203	199	217	—	—	619 (135<21.8 %>)	22	1			642 (151<23.5 %>)
理 学 部	300	—	320	323	369	—	—	1,012 (216<21.3 %>)			1		1,013 (216<21.3 %>)
医 学 部	287 [5]	—	306	297	311	104	116	1,134 (490<43.2 %>)	2				1,136 (490<43.1 %>)
歯 学 部	53	—	55	54	51	49	52	261 (108<41.4 %>)	1				262 (108<41.2 %>)
薬 学 部	80	—	79	82	79	29	31	300 (132<44.0 %>)	1		5		306 (132<43.1 %>)
工 学 部	670 [10]	—	691	722	810	—	—	2,223 (284<12.8 %>)					2,223 (284<12.8 %>)
農 学 部	215	—	218	222	241	—	—	681 (266<39.1 %>)	2	3	1	1	688 (267<38.8 %>)
獣医学部	40	—	42	42	44	39	43	210 (112<53.3 %>)					210 (112<53.3 %>)
水産学部	215	—	224	220	217	—	—	661 (167<25.3 %>)	4				665 (168<25.3 %>)
現代日本学 プログラム課程	—	—	17	12	12	—	—	41 (25<61.0 %>)					41 (25<61.0 %>)
総合教育部	—	2,640	—	—	—	—	—	2,640 (751<28.4 %>)				37	2,677 (773<28.9 %>)
合 計	2,485 [15] [30]	2,640	2,614	2,650	2,905	221	242	11,272 (3,220<28.6 %>)	109	12	15	38	11,446 (3,318<29.0 %>)

※学部の入学定員は、学生が第2年次に進級した場合の入学定員である。

■研究所等

研 究 所 等 名	研 究 生	特別研究学生	日本語・日本文化 研修生	日本語研修生	合 計
人獣共通感染症リサーチセンター	2人	人	一人	一人	2人 (0< 0.0>)
量子集積エレクトロニクス研究センター	2		—	—	2 (0< 0.0>)
アイヌ・先住民研究センター	1		—	—	1 (0< 0.0>)
低 温 科 学 研 究 所	1		—	—	1 (1<100.0>)
電 子 科 学 研 究 所	2		—	—	2 (0< 0.0>)
遺 伝 子 病 制 御 研 究 所	2		—	—	2 (1< 50.0>)
触 媒 科 学 研 究 所	2		—	—	2 (0< 0.0>)
スラブ・ユーラシア研究センター	2		—	—	2 (2<100.0>)
情 報 基 盤 セ ン タ ー	3		—	—	3 (2< 66.7>)
北方生物圏フィールド科学センター	7		—	—	7 (4< 57.1>)
高 等 教 育 推 進 機 構	5		27	26	58 (36< 62.1>)
合 計	29	0	27	26	82 (46< 56.1>)

■大学院

(注) 法学研究科の専門職学位課程の上段は3年課程、下段は2年課程の学生数。
生命科学院の博士課程の上段は3年制博士後期課程、下段は4年制博士課程の学生数。
医学院の修士課程1年次の上段は公衆衛生学1年コースの学生数。

研究科名	修士課程（博士前期）				専門職学位課程					博士課程（博士後期及び博士一貫）						研究 生	聴 生	科目 等履修 生	特別 研究 生	特別 聴講 生	合 計
	入学 定員	在 籍 者 数			入学 定員	在 籍 者 数				入学 定員	在 籍 者 数										
		1年次	2年次	小 計		1年次	2年次	3年次	小 計		1年次	2年次	3年次	4年次	小 計						
文 学 院	90人	94人	101人	195人 (104/53.3%)	—人	—人	—人	—人	—人	35人	45人	29人	—人	—人	74人 (33/44.6%)	人	3人	人	1人	人	273人 (139/50.9%)
文学 研 究 院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6					6 (4/66.7%)
文学 研 究 科	—	1	17	18 (8/44.4%)	—	—	—	—	—	—	1	4	91	—	96 (48/50.0%)						114 (56/49.1%)
法 学 研 究 科	20	20	28	48 (28/58.3%)	50	22 15	11 11	9 —	68 (17/25.0%)	15	2	8	14	—	24 (7/29.2%)	20				1	161 (64/39.8%)
情 報 科 学 院	179	194	203	397 (40/10.1%)	—	—	—	—	—	43	37	39	—	—	76 (12/15.8%)						473 (52/11.0%)
情報科学 研 究 院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	21					21 (7/33.3%)
情報科学 研 究 科	—	—	18	18 (0/0.0%)	—	—	—	—	—	—	—	—	67	—	67 (9/13.4%)						85 (9/10.6%)
薬 学 研 究 院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1					1 (1/100.0%)
水 産 科 学 院	114	107	112	219 (52/23.7%)	—	—	—	—	—	19	16	14	28	—	58 (14/24.1%)				2		279 (66/23.7%)
水産科学 研 究 院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2					2 (1/50.0%)
環 境 科 学 院	159	164	173	337 (109/32.3%)	—	—	—	—	—	63	35	41	79	—	155 (59/38.1%)				4	6	502 (171/34.1%)
地球環境科学 研 究 院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	29					29 (10/34.5%)
理 学 院	127	127	158	285 (61/21.4%)	—	—	—	—	—	55	40	43	64	—	147 (26/17.7%)				6		438 (87/19.9%)
理学 研 究 院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4					4 (1/25.0%)
農 学 院	142	160	194	354 (127/35.9%)	—	—	—	—	—	36	39	52	64	—	155 (46/29.7%)				2		511 (174/34.1%)
農 学 研 究 院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	16					16 (8/50.0%)
生 命 科 学 院	132	124	140	264 (100/37.9%)	—	—	—	—	—	44 6	37 6	40 2	55 4	— 9	153 (41/26.8%)						417 (141/33.8%)
先端生命科学 研 究 院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1					1 (1/100.0%)
教 育 学 院	45	36	61	97 (54/55.7%)	—	—	—	—	—	21	23	22	60	—	105 (50/47.6%)		1	1			204 (104/51.0%)
教育学 研 究 院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1					1 (1/100.0%)
国際広報メディア・観 光 学 院	47	50	56	106 (74/69.8%)	—	—	—	—	—	12	15	15	45	—	75 (38/50.7%)		4	1			186 (114/61.3%)
メディア・コミュニ ケーション 研 究 院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	27					27 (18/66.7%)
保 健 科 学 院	40	55	61	116 (67/57.8%)	—	—	—	—	—	10	18	11	20	—	49 (20/40.8%)						165 (87/52.7%)
保健科学 研 究 院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	17					17 (11/64.7%)
工 学 院	326	376	398	774 (122/15.8%)	—	—	—	—	—	69	60	85	82	—	227 (45/19.8%)				1		1002 (167/16.7%)
工学 研 究 院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	37					37 (10/27.0%)
総 合 化 学 院	129	149	160	309 (75/24.3%)	—	—	—	—	—	38	56	41	53	—	150 (39/26.0%)						459 (114/24.8%)
経 済 学 院	35	41	47	88 (51/58.0%)	20	21	19	—	40 (15/37.5%)	8	8	8	10	—	26 (11/42.3%)						154 (77/50.0%)
経済学 研 究 院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1					1 (1/100.0%)
経済学 研 究 科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7	—	7 (0/0.0%)						7 (0/0.0%)
医 学 院	20	2 19	22	43 (24/55.8%)	—	—	—	—	—	90	86	112	102	67	367 (91/24.8%)		1		3		414 (115/27.8%)
医学 研 究 院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5					5 (2/40.0%)
医学 研 究 科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	65	70 (16/22.9%)						70 (16/22.9%)
歯 学 院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	40	45	39	40	17	141 (57/40.4%)						141 (57/40.4%)
歯 学 研 究 院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8					8 (4/50.0%)
歯 学 研 究 科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	6	8 (5/62.5%)						8 (5/62.5%)
獣 医 学 院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	16	8	13	11	15	47 (15/31.9%)						47 (15/31.9%)
獣医学 研 究 院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3					3 (0/0.0%)
獣医学 研 究 科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	4	5 (3/60.0%)						5 (3/60.0%)
医 理 工 学 院	12	15	16	31 (5/16.1%)	—	—	—	—	—	5	4	7	6	—	17 (0/0.0%)						48 (5/10.4%)
国際感染症学院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	12	11	10	17	14	52 (22/42.3%)				13		65 (32/49.2%)
国際食資源学院	15	16	20	36 (19/52.8%)	—	—	—	—	—	6	1	6	—	—	7 (5/71.4%)						43 (24/55.8%)
公共政策学教育部	—	—	—	—	30	35	35	—	70 (18/25.7%)	—	—	—	—	—	—			5			75 (18/24.0%)
公共政策学連携研究部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7					7 (3/42.9%)
合 計	1,632	1,750	1,985	3,735 (1,120/30.0%)	100	93	76	9	178 (50/28.1%)	643	593	642	926	197	2,358 (712/30.2%)	206	9	7	31	8	6,532 (1,995/30.5%)

(学務部学務企画課)

広 報 誌 等 一 覧

令和2年10月調査結果

部 局 名		広 報 誌 等 名	発行回数	最新版 発行年月	掲 載 内 容 等	形 態
事務局	企画課	北海道大学近未来戦略150 (英語・日本語併記版)	不定期	H26年8月	北海道大学創基150年に向けた近未来戦略	冊子
		ビジュアルブック	不定期	H30年9月	色彩豊かで伝統と趣のあるキャンパス風景を四季ごとに紹介	冊子
	広報課	北海道大学概要	年1回	R1年度版	本学の沿革、組織、職員数等、大学の概要を掲載	冊子、HTML版、PDF版
		北海道大学概要(英語版)	年1回	H31年7月	本学の沿革、組織、職員数等、大学の概要を掲載	冊子、PDF版
		リテラボプリ	年2回	R2年9月	北海道大学の新たなプロジェクトや変革、教育研究、及び緑豊かなキャンパス等を紹介	冊子、PDF版
		リテラボプリ(英語版)	年2回	R2年6月	北海道大学の新たなプロジェクトや変革、教育研究、及び緑豊かなキャンパス等を紹介	冊子、PDF版
		北大時報	月1回	R2年10月	その月の大学や部局のニュース、お知らせ等を掲載	冊子、PDF版
		キャンパスガイドマップ	不定期	H31年1月	札幌キャンパスのマップと主な施設等を紹介	冊子
		Campus Guide Map(キャンパスガイドマップ 英語版)	PDF:年1回 冊子:不定期	R1年7月	札幌キャンパスのマップと主な施設等を紹介	冊子、PDF版
		Campus Guide Map(キャンパスガイドマップ 繁体字版)	不定期	H30年3月	札幌キャンパスのマップと主な施設等を紹介	冊子、PDF版
		Campus Guide Map(キャンパスガイドマップ 簡体字版)	不定期	H30年3月	札幌キャンパスのマップと主な施設等を紹介	冊子、PDF版
		Tackling Global Issues	年1回	H31年3月	世界の課題解決を目指す北海道大学の先端研究を紹介	冊子、PDF版
		Spotlight on Research	不定期	H31年3月	北海道大学の多彩な研究成果(該当年の英文プレスリリースから10本程度掲載)	冊子、PDF版
		HU At a Glance	不定期	H31年3月	一目でわかる北海道大学の概要	冊子、PDF版
		Portable Paper Clark	不定期	H30年12月	英文SNSの紹介	フライヤー
		ACADEMIC FANTASISTA 国民との科学・技術対話事業	年1回	H30年度版	北海道大学における「国民との科学・技術対話」推進に関する研究支援事業の紹介	冊子、PDF版
		Strategy for Making Innovation 理の社会実装を目指して	不定期	H29年度版	北海道大学の研究者の紹介と、産学・地域協働を支えるシステムの紹介	冊子、PDF版
		Reach アウトリーチイベントのつくりかた ハンドブック	不定期	H28年3月	教職員を対象としたアウトリーチのイベント企画のためのハンドブック	冊子、PDF版
		大地と森と海と ―農林水産学の発展をめざして―	不定期	H31年3月	札幌農学校時代から140年以上受け継がれた、北海道大学の農林水産学の「今」を紹介するフォトブック。	冊子、PDF版
	主計課 財務管理室	財務報告書	年1回	R2年10月	従来の「財務レポート」を大幅にリニューアルし、「財務報告書」として発行。内容を財務データに限らず、大学概要、計画・戦略、取組・実績、ガバナンスと拡充することで、本学の現状をステークホルダーへわかりやすく伝えることを目指している。	冊子、PDF版
	教育推進課	新渡戸カレッジ(学部教育コース) パンフレット	年1回	R2年9月	新渡戸カレッジ(学部教育コース)の概要を掲載	冊子
		新渡戸カレッジ(学部教育コース) パンフレット(企業向け)日本語版	不定期	H30年2月	新渡戸カレッジ(学部教育コース)の概要を掲載(企業向け)	冊子
		新渡戸カレッジ(学部教育コース) パンフレット(企業向け)英語版	不定期	H30年4月	新渡戸カレッジ(学部教育コース)の概要を掲載(企業向け)	冊子
		新渡戸カレッジ(学部教育コース) 募集チラシ	年1回	R2年2月	新渡戸カレッジ(学部教育コース)の募集案内	チラシ
		北海道大学新渡戸カレッジ同窓会 ネットワーク誌「ACROSS」	年1回	R2年7月	新渡戸カレッジ修了生及び北海道大学同窓生向けに新渡戸カレッジの概要又は修了生の近況等を掲載	冊子
		新渡戸カレッジ(大学院教育コース) リーフレット	年1回	R1年2月	新渡戸カレッジ(大学院教育コース)の概要を掲載	リーフレット
		新渡戸カレッジ(大学院教育コース) 大学院合格者対象広報チラシ	年2回	R2年7月	新渡戸カレッジ(大学院教育コース)の募集案内	チラシ
		大学院教育コースポスター	不定期	R2年4月	新渡戸カレッジ(大学院教育コース)の概要を掲載	ポスター
	学生支援課	えるむ	年2回	R2年4月	学生向けに学内行事・ニュース・お知らせ等を掲載	冊子、HTML版
		北大元気プロジェクト実施報告書	年1回	R2年4月	北大元気プロジェクトの活動報告を掲載	PDF版
		学生生活の案内	年1回	R2年4月	学部学生向けの学生生活案内	冊子
		学生相談総合センターの広報チラシ (日本語版)	年1回	R2年4月	学生相談総合センターの案内	チラシ
		学生相談総合センターの広報チラシ (英語版)	年1回	R2年4月	学生相談総合センターの案内	チラシ
		北大生のための相談先お助けガイド (日本語版)	年1回	R2年4月	学内のサポート機関の紹介及びフローチャートを用いた相談先の紹介	パンフレット・PDF版
		北大生のための相談先お助けガイド (英語版)	年1回	R2年4月	学内のサポート機関の紹介及びフローチャートを用いた相談先の紹介	パンフレット・PDF版

部 局 名		広 報 誌 等 名	発行回数	最新版 発行年月	掲 載 内 容 等	形 態
事務局	学生支援課	とって北大生	4年に1回	H30年9月	学生生活実態調査の結果を元に北大生の学生生活を紹介	冊子、PDF版
		北海道大学学生寮入寮案内－恵迪寮－	年1回	R2年1月	学生寮（恵迪寮）の概要・入寮出願手続き等を掲載	冊子、PDF版
		北海道大学学生寮入寮案内－霜星寮－	年1回	R2年1月	学生寮（霜星寮）の概要・入寮出願手続き等を掲載	冊子、PDF版
		北海道大学学生寮入寮案内－北大インターナショナルハウス北23条2号棟－	年1回	R2年1月	学生寮（北大インターナショナルハウス北23条2号棟）の概要・入寮出願手続き等を掲載	冊子、PDF版
	入試課	Be ambitious（大学案内）	年1回	R2年7月	学部等の紹介、修学コースマップ、入試・教育・学生生活の紹介	冊子、デジタルパンフレット
		オンラインオープンキャンパスリーフレット	年1回	R2年8月	オンラインオープンキャンパスの実施内容を掲載	紙媒体
		総合型選抜案内	年1回	R2年4月	総合型選抜の概要について掲載	冊子、デジタルパンフレット
		入学者選抜要項	年1回	R2年7月	入学者選抜に関する概要	PDF版
		北大キャンパスビジットプロジェクト 北大ぐるぶらマップ	不定期	H30年7月	北大キャンパスビジットプロジェクト概要紹介、キャンパス案内	冊子
		知のフロンティア－北海道大学の研究者は、いま－	不定期	H30年1月	本学教員の研究内容紹介	冊子、デジタルパンフレット
		外国人留学生のための北海道大学案内	年1回	R2年4月	学部・学科及び大学院等、入試、学生生活等の外国人留学生向けの本学紹介	冊子、PDF版
		INTERNATIONAL STUDENT PROSPECTUS（『外国人留学生のための北海道大学案内』の英語版）	年1回	R2年4月	学部・学科及び大学院等、入試、学生生活等の外国人留学生向けの本学紹介	冊子、PDF版
		DEGREE PROGRAMS IN ENGLISH	年1回	R2年4月	英語で修得できる外国人留学生向け学位プログラムの紹介	冊子、PDF版
	教育推進課・入試課	Modern Japanese Studies Program（MJSP）パンフレット	年1回	R2年4月	外国人留学生向けプログラム「現代日本学プログラム」の概要を掲載	冊子、PDF版
		Integrated Science Program（ISP）パンフレット	年1回	R2年4月	外国人留学生向けプログラム「インテグレイテッドサイエンスプログラム」の概要を掲載	冊子、PDF版
		Modern Japanese Studies Program（MJSP）動画	不定期	R2年4月	外国人留学生向けプログラム「現代日本学プログラム」の説明、学生・卒業生の声等を紹介する動画の再生リスト	YouTube
		Integrated Science Program（ISP）動画	不定期	R2年4月	外国人留学生向けプログラム「インテグレイテッドサイエンスプログラム」の説明、学生・卒業生の声等を紹介する動画の再生リスト	YouTube
		Modern Japanese Studies Program（MJSP）SNS			外国人留学生向けプログラム「現代日本学プログラム」の入試情報、キャンパスや学生の様子、本学の情報等を紹介するSNS	Facebook Twitter Instagram
		Integrated Science Program（ISP）SNS			外国人留学生向けプログラム「インテグレイテッドサイエンスプログラム」の入試情報、キャンパスや学生の様子、本学の情報等を紹介するSNS	Facebook Twitter
		キャリア支援課 （キャリアセンター名義で発行）	キャリア通信	年3回	R2年9月	キャリアセンター利用案内、各種就職ガイダンス・セミナー情報、インターンシップ情報等を掲載（発行時期により内容は異なる）
	就職活動のためのキャリアハンドブック		年1回	R2年9月	各種就職関連情報等を掲載	冊子
	就職活動のためのキャリアハンドブック（日本語・英語併記版、日本語・中国語併記版）		不定期	R2年9月	日本での就職を希望する外国人留学生向けに日本独自の慣習や就職活動の流れ等を掲載	冊子
	国際交流課	HANDBOOK FOR INTERNATIONAL STUDENTS	年1回	R2年8月	在学中の留学生に必要な手続き及び生活情報を提供	冊子、PDF版
		Exchange Possibilities at Hokkaido University	年1回	R1年12月	本学の交換留学プログラムの紹介	冊子
		Hokkaido University Short-Term Exchange Program	年1回	R1年12月	北海道大学短期留学プログラムHUSTEPの紹介及び開講科目の授業内容等を掲載	冊子、PDF版
		JAPANESE LANGUAGE AND CULTURE STUDIES PROGRAM（JLCSP）	年1回	R1年12月	北海道大学短期留学プログラムJLCSPの紹介及び開講科目の授業内容等を掲載	冊子、PDF版
		日本語・国際教育研究紀要	年1回	R2年3月	研究論文、研究ノート、実践報告、調査報告	冊子、PDF版（HUSCUP配信）
		北海道大学国際教育研究部ブックレット	不定期	R2年3月（2誌発行）	留学生・日本人学生の共修教育における大学と地域の連携	冊子、PDF版
		北海道大学日本語スタンダード2019年度版	不定期	H31年3月	日本語教育におけるレベル別言語行動目標、Can-Do Listなど	冊子、PDF版
		北海道大学一般日本語コース授業ガイド（日英両言語版版）	不定期	H31年3月	北大留学生向け日本語コース紹介	冊子、PDF版
		多文化交流科目リーフレット	年1回	R2年3月	多文化交流科目についての案内と2019年度開講科目一覧など	冊子、PDF版
		北大生のための留学ハンドブック	年1回	R2年3月	北大生のための留学情報提供誌	冊子
		全学教育科目 一般教育演習（フレッシュマンセミナー）グローバル・キャリア・デザイン〔通称：ファースト・ステップ・プログラム（FSP）〕	不定期	R2年3月	FSP概要	冊子

部 局 名		広 報 誌 等 名	発行回数	最新版 発行年月	掲 載 内 容 等	形 態
事務局	国際交流課	国際インターンシップ	不定期	R 2 年 3 月	国際インターンシップ概要	冊子
		海外短期語学研修（サマープログラム／ スプリングプログラム）	年 1 回 （予定）	R 2 年 3 月	海外短期語学研修概要	冊子
		Hokkaidoサマー・インスティテュート リーフレット（英語版のみ）	年 1 回	R 1 年12月	HSIプログラム概要	冊子
		Hokkaidoサマー・インスティテュート ポスター（日本語版・英語版）	年 1 回	R 1 年12月	HSIプログラム概要	紙媒体
		Hokkaidoサマー・インスティテュート 三つ折りリーフレット（日本語・英語併記）	年 1 回	R 1 年12月	HSIプログラム概要	冊子
		Hokkaidoサマー・インスティテュート POP（日本語・英語併記）	年 1 回	R 1 年12月	HSIプログラム概要	紙媒体
		Hokkaidoサマー・インスティテュート 学部学生用リーフレット	年 1 回	R 1 年12月	HSIプログラム概要	紙媒体
		RJE3リーフレット （日本語・英語・ロシア語）	不定期	R 2 年 3 月	RJE3プログラム概要	リーフレット
		PAREリーフレット（日本語・英語）	不定期	R 2 年 3 月	PAREプログラム概要	リーフレット
	施設企画課	北海道大学キャンパスマスタープラン 2018	不定期	H30年 3 月	北大の新しい大学像の実現を期するために、 キャンパス空間利用の大綱となる計画。1996 年に策定し、2006年の改訂を経て2018年に改 訂したもの。	冊子
		北海道大学キャンパスマスタープラン 2018 リーフレット	不定期	H30年 3 月	キャンパスマスタープラン2018の概要を掲載	リーフレット
		北海道大学函館地区キャンパスマスター プラン	不定期	R 2 年 3 月	キャンパスマスタープラン2018に示した基本 目標を踏襲し、函館キャンパスの具体的な施 設整備計画立案のための方針をとりまとめた もの。	冊子
	施設整備課	歴史的資産ガイドマップ	不定期	H31年 3 月	北海道大学の歴史的資産（建造物等）をマッ プと写真で紹介	冊子、PDF版
		HISTORIC HERITAGE VISITOR GUIDE AND MAP（歴史的資産ガイドマップ 英語版）	不定期	H31年 3 月	北海道大学の歴史的資産（建造物等）をマッ プと写真で紹介	冊子、PDF版
	国際企画課	Hokkaido Universal Campus Initiative Tackling Global Issues（日英併記）	不定期	R 1 年11月	「スーパーグローバル大学創成支援事業」の 採択構想である「Hokkaidoユニバーサルキャン パス・イニシアチブ（HUCI）」取組紹介	冊子
	国際連携課	HaRPリーフレット（日本語・ロシア語）	不定期	R 2 年 5 月	HaRPプログラム概要	冊子
		HARPアニュアルレポート （日本語・ロシア語）	年 1 回	H31年度版	H31年度における事業の活動紹介	冊子（日本語版 のみ）・PDF版
	国際連携機構	ソウルオフィス リーフレット （日本語版、韓国語版）	不定期	H28年 4 月	韓国ソウルオフィス及び北海道大学の紹介	冊子
		北海道大学留学案内ガイド（韓国語版）	不定期	H28年 5 月	韓国留学生向けの入学案内（発行：韓国ソ ウルオフィス）	冊子
		北海道大学留学案内ガイド（中国語版）	不定期	R 1 年10月	中国人留学生向けの入学案内（発行：中国北 京オフィス）	冊子
		アフリカサカオフィス リーフレット （英語版）	不定期	R 1 年 8 月	アフリカサカオフィスの紹介	冊子
	文学研究院・ 文学院・文学部	北海道大学大学院文学研究院・文学部概要	年 1 回	R 2 年 8 月	文学部の沿革、歴代学部長、組織運営等の概 要を掲載	PDF版
		北海道大学大学院文学院内	年 1 回	R 2 年 6 月	文学院の特徴、学院の担当教員や専攻・研究 室紹介、学生生活、授業内容、入試情報、進 路・就職情報等を掲載	冊子、PDF版
		北海道大学文学部案内	年 1 回	R 2 年 7 月	学部の担当教員や履修コース紹介、学生生 活、授業内容、留学情報、入試情報、進路・ 就職情報等を掲載	冊子、PDF版
		北海道大学文学部学外評価委員会報告書	不定期	H27年12月	外部評価報告書	冊子
		北海道大学文学研究院紀要	年 3 回	R 2 年 3 月	文学研究院専任教員の研究成果を論文として 掲載	WEB（機関リポ ジトリ）
		北海道大学大学院文学院研究論集	年 1 回	R 2 年 3 月	文学院・文学研究科大学院学生の研究成果を 論文として掲載	WEB（機関リポ ジトリ）
		北海道大学大学院文学研究科研究叢書	年 1～3 回	H30年11月	文学研究科専任教員の研究成果や共同研究の 公表	冊子
		Journal of the Faculty of Humanities and Human Sciences	年 1 回	R 2 年 3 月	文学研究院教員及び文学院・文学研究科大 学院学生の研究成果を英文論文として掲載	冊子、WEB（機 関リポジトリ）
		北海道大学大学院文学研究院ライブラリ	年 1～2 回	R 1 年 8 月	文学研究院専任教員の研究成果や共同研究の 成果、公開講座のテキストを掲載	冊子
		北海道大学大学院文学院 若手研究者支援 リーフレット	不定期	R 2 年 4 月	文学研究院が大学院生向けに実施している独 自の支援事業の概要を紹介するリーフレット	冊子
		文学院紹介動画	不定期	H30年 6 月	2019年 4 月設置予定の文学院の特徴を紹介す る動画	動画
		文学院大学院進学説明会配付資料 （教養深化プログラム）	不定期	R 1 年 6 月	2019年 4 月開設の教養深化プログラムの特徴 を紹介するリーフレット	冊子、PDF版
		文学院大学院進学説明会配付資料	年 1 回	R 2 年 6 月	文学院の入試情報、カリキュラム、支援情 報、進路情報、学位論文題目などを掲載 （R2年度は進学説明会をオンライン開催の ため、冊子体は制作せずPDF版を配付）	PDF版

部 局 名	広 報 誌 等 名	発行回数	最新版 発行年月	掲 載 内 容 等	形 態
文学研究院・ 文学院・文学部	Faculty of Humanities and Human Sciences/ Graduate School of Humanities and Human Sciences/ School of Humanities and Human Sciences	不定期	R 1 年 7 月	文学研究院・文学院・文学部の海外向け英文パンフレット、文学研究院・文学院・文学部の概要をコンパクトにまとめて掲載	冊子, PDF版
	北海道大学大学院 文学院 (仮称) 紹介リーフレット	不定期	H29年10月	2019年4月設置予定の文学院の特徴を紹介するリーフレット	
	留学ガイドブック	年 1 回	R 2 年 3 月	部局間協定校へ留学を希望する、文学研究科・文学部の学生向けガイドブック	冊子
法学研究科・ 法学部	法学部案内 Be Ambitious	年 1 回	R 2 年 7 月	法学部での学生生活、学修内容や教員等の紹介	冊子, PDF版
	北大法学論集	年 6 回	R 2 年 9 月	文献の論説、資料の紹介及び判例研究を掲載	冊子, PDF版
	北大法政ジャーナル	年 1 回	R 1 年12月	法学研究科の「秀」及び「優」に相当する修士論文及びリサーチペーパー、並びに法科大学院修了者が修了の次年度1月末までに提出し「秀」及び「優」相当の修士論文と同等の水準を有すると認められた論文	冊子
	附属高等法政教育研究センター NewsLetter j-mail	不定期	H28年 9 月	主催シンポジウムの報告、所属教員・研究会の研究内容等を掲載	PDF版
	大志ある法曹をめざして (法科大学院パンフレット)	年 1 回	R 2 年 3 月	法科大学院の教育プログラム、教員の紹介、入試制度等を掲載	冊子, PDF版
	自己点検評価・外部評価報告書	不定期	H26年11月	法学研究科・法学部の自己点検・評価報告書 法学研究科・法学部の外部評価報告書	冊子, PDF版
	自己点検・評価報告書評価資料集	不定期	H26年11月	法学研究科・法学部の自己点検・評価に関する資料集	冊子
	知的財産法政策学研究	年 2 回	R 2 年10月	知的財産法政策学研究に関する研究報告	冊子, PDF版
情報科学院・ 情報科学研究院	北海道大学大学院情報科学院パンフレット	年 1 回	R 2 年 4 月	情報科学院の研究内容等に関する紹介	冊子, PDF版
	北海道大学大学院情報科学院 (日本語・英語併記リーフレット)	年 1 回	R 2 年 4 月	情報科学院の紹介	冊子, PDF版
	IST NEWS	年 4 回	R 2 年10月	情報科学院・情報科学研究院のニュースを掲載	冊子, PDF版
水産科学院・ 水産科学研究院・ 水産学部	北海道大学大学院水産科学研究院・水産科学院・水産学部概要	年 1 回	R 2 年度版	沿革、組織、講座等の紹介 (一般向け)	冊子, PDF版
	北海道大学水産学部 PR誌 aQua	年 1 回	R 2 年 7 月	学部、学院、各学科及び各専攻の紹介 (学生向け)	冊子, PDF版
	北海道大学水産学部附属練習船おしよ丸	不定期	H27年 1 月	附属練習船おしよ丸の概要紹介	冊子
	北海道大学水産学部附属練習船うしお丸	不定期	H14年 3 月	附属練習船うしお丸の概要紹介	冊子
	北海道大学水産科学研究彙報 (Bulletin of Fisheries Sciences, Hokkaido University)	年 2 回	R 2 年 8 月	英文・和文で書かれた報文、短報等をまとめたもの	PDF版
	Memoirs of the Faculty of Fisheries Sciences, Hokkaido University (北海道大学大学院水産科学研究院紀要)	年 1 回	H29年12月	学術的価値を有し、まとまった研究成果を公表する報文、特定の分野に従来の研究を総合的にまとめた総合論文 (レビュー) 等を掲載	PDF版
	Data Record of Oceanographic Observations and Exploratory Fishing (海洋調査漁業試験要報)	年 1 回	R 2 年 3 月	本学部練習船を用いて行った海洋観測、生物調査、漁業試験結果の紹介	PDF版
	学生寮入寮案内 - 北晨寮	不定期	H28年12月	学生寮 (北晨寮) の概要・入寮手続き等を掲載 (WEB版)	PDF版
環境科学院・ 地球環境科学研究院	北海道大学大学院環境科学院の紹介	年 1 回	R 2 年度版 (R 2 年 4 月)	学院の組織、各専攻の紹介等、環境科学院の概要を掲載	冊子
	英文リーフレット	年 1 回	R 2 年度版 (R 2 年 4 月)	学院の組織、各専攻の紹介等、環境科学院の概要を掲載	冊子, PDF版
理学院・ 理学研究院・ 理学部	理学部 学部案内	2～3年に 1 回	H31年 4 月	理学部各学科の概要や附属施設の紹介及び卒業生の進路、メッセージ等を掲載	冊子, PDF版
	北海道大学理学部広報誌「彩」	年 2 回	R 2 年 2 月	理学部各学科を特集で紹介、理学部OB・OG紹介、識者による理学と理学部への期待、学生受賞情報、理学部の歴史等を掲載	冊子, PDF版
	理学部ハンドアウト (簡易版パンフレット)	不定期	H28年12月	理学部各学科の簡単な紹介	冊子
	School of Science (理学部リーフレット)	不定期	H29年 8 月	理学部各学科の簡単な紹介 (英文)	冊子, PDF版
	International Course in Graduate School of Science (理学院パンフレット)	年 1 回	R 2 年 4 月	理学院の紹介 (英文)	冊子, PDF版
	Faculty of Science (理学研究院パンフレット)	不定期	H31年 4 月	理学研究院の紹介 (英文)	冊子, PDF版
	北海道大学理学部数学科・理学院数学専攻パンフレット	年 1 回	R 2 年 9 月	数学科・数学専攻のスタッフ一覧、専門分野の紹介、履修、進路等について掲載	冊子, PDF版
	Hokkaido Mathematical Journal (紀要)	年 3 回	R 2 年10月	研究論文	冊子
	数学科目ガイド	不定期	H30年 4 月	数学科の学部学生向け科目案内 (全学教育科目、専門科目)	WEB (PDF版)
	Hokkaido University Preprint Series in Mathematics	不定期	R 2 年 9 月	研究論文速報 (HPにて公開)	WEB (HUSCAP)
	Hokkaido University Technical Report Series in Mathematics	不定期	R 2 年 7 月	研究集会、特別講演等、本学で講演されたもののアブストラクト集	WEB (HUSCAP), 冊子
	北海道大学理学部化学科パンフレット	不定期	H27年 6 月	化学科の研究室・研究内容等の紹介	パンフレット
	Annual Report2019 (化学部門)	年 1 回	R 2 年 7 月	各研究室の研究業績・外部資金獲得状況等の紹介、各種大学院教育プログラム実績の紹介	WEB (PDF版)
	物理学部門年次報告書	年 1 回	H29年 4 月	部門の活動一覧、各研究グループの成果報告	
	北海道大学理学部物理学科パンフレット	不定期	H29年 4 月	カリキュラム、研究室等の紹介	

部 局 名	広 報 誌 等 名	発行回数	最新版 発行年月	掲 載 内 容 等	形 態
理学院・ 理学研究院・ 理学部	北海道大学理学部生物科学科（生物学） 学科案内	年1回	R2年9月	高校生・一般向け講座紹介、入学から卒業までの過程、授業内容、卒業実習について、大学院への進学、卒業後の進路掲載、教員名簿	PDF版（WEBでも公開）
	北海道大学理学部生物科学科（生物学） 広報	不定期	R1年10月	高校生・一般向け講座紹介、教員紹介、各種お知らせ、いきものがたり、生物学者列伝、入学から卒業までの過程、授業内容等を掲載（HPにて公開）	WEB
	北海道大学理学部生物科学科 （高分子機能学）パンフレット	年1回	R1年7月	学科内容、研究室紹介	パンフレット
	北海道大学理学部生物科学科 （高分子機能学）「学部・学科紹介」	年2回	R2年9月	【1年生対象】高分子機能学が分かる！身近に感じる！「学部・学科紹介」	WEB
	北海道大学理学部生物科学科 （高分子機能学）「高分子図鑑」	不定期	2018年3月	主に個人インタビューに焦点を当てた学科内容、研究室紹介	WEB（youtube）
	北海道大学理学部生物科学科 （高分子機能学）広報	不定期	R2年9月	学科内容、研究室紹介、留学・国際交流、卒業生の声、動画・高分子図鑑など	WEB
	理学部SDGsチャンネル	不定期	R2年9月	理学部のSDGsの取り組みの広報	デジタルサイネージ（理学部2号館玄関）
	北海道大学大学院理学院自然史科学専攻概要	年1回	H28年5月	専攻の組織、カリキュラム、講座紹介・教員紹介等を掲載	
	北海道大学理学部地球惑星科学科 パンフレット	不定期	H29年4月	学科内容の紹介、教員紹介	
	北海道大学地球物理学研究報告	年1回以上	H31年3月	研究論文の発表	WEB（HUSCAP）
	北海道大学大学院理学院自然史科学専攻 地球惑星ダイナミクス講座	不定期	H29年3月	ダイナミクス講座の研究教育活動及び構成員名簿を掲載	パンフレット
	北海道大学大学院理学院自然史科学専攻 地球惑星システム科学分野	不定期	H28年3月	システム科学講座の研究教育活動及び構成員名簿を掲載	パンフレット
	北海道大学大学院理学研究院附属地震火山 研究観測センター	不定期	H29年4月	学部学生を対象として、沿革、分野の紹介等、センターの概要を掲載	パンフレット
	The Institute of Seismology and Volcanology Faculty of Science, Hokkaido University	不定期	H24年3月	外国人研究者及び留学生等を対象として、沿革、分野の紹介等、センターの概要を掲載	パンフレット
	北海道大学大学院理学研究院附属地震火山 研究観測センター年報	年1回	H30年8月	センターとしての活動・研究活動・教育活動及び構成員名簿を掲載	WEB（PDF版）、冊子
薬学研究院・薬学部	生命科学の最先端へ	隔年	R1年6月	学部紹介パンフレット	冊子
農学院・ 農学研究院・ 農学部	北海道大学大学院農学研究院・大学院農学院・農学部概要	年1回	R2年10月	農学研究院・農学院・農学部の沿革等の概要を掲載（和文・英文併記）	冊子、PDF版
	北海道大学大学院農学研究院邦文紀要	年1回	R2年3月	農学研究院・農学部の学術研究論文誌	冊子、PDF版
	Journal of the Research Faculty of Agriculture, Hokkaido University （北海道大学大学院農学研究院欧文紀要）	年1回	R2年3月	農学研究院・農学部の学術研究論文誌	冊子、PDF版
	北海道大学大学院農学研究院邦文紀要別冊 「農経論叢」	年1回	R2年3月	農業経済に関する学術研究論文誌	冊子、PDF版
	Insecta Matsumurana	年1回	R1年11月	昆虫学に関する学術研究論文誌	冊子、PDF版
	農学部学部案内	不定期	R2年8月	各学科・附属施設の内容紹介（冊子）	冊子、PDF版
	20th Anniversary Commemorative Bulletin of the Special Post Graduate Program in English Graduate School of Agriculture Hokkaido University: 1997-2017	不定期	H29年11月	農学院英語コース20周年記念誌	冊子、PDF版
	北海道大学大学院農学院（リーフレット）	不定期	R2年9月	農学院の内容紹介	冊子、PDF版
生命科学院・ 先端生命科学研究院	北海道大学大学院先端生命科学研究院 パンフレット	不定期	H26年3月	構成、研究活動、連携、支援体制、人材育成、研究室紹介	
	先端生命科学研究院リーフレット	不定期	H30年4月、 9月	構成、研究活動、産学連携、支援体制、人材育成、研究室紹介	冊子、PDF版
	先端生命科学研究院 広報	不定期	R2年4月	研究活動、研究室紹介	WEB
	次世代物質生命科学研究センター Annual Report 2019年度	年1回	R2年12月	研究活動、研究業績、研究資金、設備紹介	冊子、PDF版
	次世代物質生命科学研究センター 広報	不定期	R2年4月	構成、研究活動、研究業績、研究資金、設備紹介	WEB
	北海道大学大学院生命科学院パンフレット	年1回	2020年度版	大学院受験生への学院紹介、研究概要、入試概要、施設・設備紹介	冊子、PDF版
	北海道大学薬学部 大学院生命科学院 生命科学専攻 生命医薬科学コース 臨床薬学専攻 パンフレット	隔年	R1年6月	薬学部、生命医薬科学コース、臨床薬学専攻の概要、カリキュラム、研究活動、施設・設備紹介	冊子
	北海道大学大学院生命科学院生命科学専攻 生命融合科学コース パンフレット	不定期	H24年5月	コース概要	冊子
	北海道大学大学院生命科学院生命科学専攻 生命融合科学コース 研究室紹介	不定期	R2年5月	コース概要、研究室紹介	冊子、デジタル版
	北海道大学大学院生命科学院生命科学専攻 生命融合科学コース 広報	不定期	R2年4月	研究活動、研究室紹介	冊子、WEB
	北海道大学大学院生命科学院 生命システム科学コース	不定期	R2年度版	コース概要、研究室紹介	PDF版
	北海道大学大学院生命科学院 ソフトマター専攻 研究室紹介	不定期	R2年5月	コース概要、研究室紹介	冊子、デジタル版

部 局 名	広 報 誌 等 名	発行回数	最新版 発行年月	掲 載 内 容 等	形 態
生命科学院・ 先端生命科学研究院	北海道大学大学院生命科学院ソフトマター 専攻 広報	不定期	R 2 年 4 月	研究活動, 研究室紹介	冊子, WEB
教育学院・ 教育学研究院・ 教育学部	北海道大学教育学部案内	3 年に 1 回	H31年 3 月	各研究室の紹介, 卒業後の進路, 学生の声, 卒業生の声, 国際交流状況等を掲載	冊子
	北海道大学大学院教育学院入学案内	3 年に 1 回	H31年 3 月	各研究室を紹介	冊子
	北海道大学大学院教育学研究院紀要	年 2 回	R 2 年 6 月	研究の成果を論文として掲載	冊子, PDF版
	北海道大学教職課程年報	年 1 回	R 2 年 3 月	北海道大学教職課程に関連した調査研究及び 授業実践等に関する論文や各種資料を掲載	冊子, PDF版
国際広報メディア・ 観光学院, メディア・コミュニ ケーション研究院	北海道大学大学院国際広報メディア・観光 学院案内	年 1 回	H31年 4 月	学院の沿革, 組織, 職員数等の概要を掲載	冊子,PDF版
	北海道大学大学院国際広報メディア・観光 学院案内 (新学院紹介用の臨時発行版)	臨時発行	H30年 7 月	新学院設立の方針, 新しい教育内容, 組織, 職員数等の概要を掲載	冊子,PDF版
	北海道大学大学院国際広報メディア・観光 学院案内・入試案内	臨時発行	R 2 年10月	学院の紹介, 入試日程概要 (新型コロナ対策用)	PDF版
	国際広報メディア・観光学ジャーナル	年 2 回	R 2 年 4 月	教員の教育・研究成果の公表, 博士後期課程 学生の研究発表	冊子,PDF版
	北海道大学大学院国際広報メディア・観光 学院 国際広報メディア専攻 観光創造専 攻 (リーフレット)	年 1 回	R 1 年10月	学院の紹介, 入試日程概要	冊子,PDF版
	北海道大学大学院国際広報メディア・観光 学院 国際広報メディア専攻 観光創造専 攻 (リーフレット) 中国語版	年 1 回	H29年度版	学院の紹介, 入試日程概要 (中国語版)	冊子,PDF版
	メディア・コミュニケーション研究	年 1 回	R 2 年 3 月	教員の研究報告	冊子,PDF版
	自己点検・評価報告書 外部評価報告書	不定期	H28年 3 月	自己点検・評価報告, 外部評価報告	冊子
保健科学院・ 保健科学研究院	北海道大学大学院保健科学研究院・大学院 保健科学院・医学部保健学科概要	年 1 回	R 2 年度版	保健科学研究院・保健科学院・医学部保健学 科の沿革, 組織, 職員数, 学生数等の概要を 掲載 (英文併記)	冊子, PDF版
	北海道大学大学院保健科学研究院広報 「ブラテュス」	年 2 回	R 2 年 9 月	保健科学研究院・保健科学院・医学部保健学 科のニュース, トピックス, お知らせ等を掲載	冊子, PDF版
	北海道大学医学部保健学科パンフレット	年 1 回	R 1 年 6 月	医学部保健学科各専攻紹介, 卒業研究, 在校 生・卒業生からのメッセージを掲載	冊子, PDF版
	北海道大学大学院保健科学院パンフレット	隔年	H30年 6 月	保健科学院担当教員紹介及び保健科学研究院 研究プロジェクト等を掲載	冊子, PDF版
	北海道大学大学院保健科学研究院・大学院 保健科学院 (医学部保健学科) 年報	年 1 回	R 2 年 9 月	沿革, 組織, 研究活動, 教育活動等を掲載	PDF版
	北海道大学大学院保健科学研究院 北海道大学大学院保健科学院 北海道大学医学部保健学科自己点検・評価 報告書	不定期	R 2 年 1 月	理念・目標, 沿革, 研究体制と将来構想, 中 期目標・中期計画, 研究, 教育, 社会貢献 活動, 国際交流, 管理運営等, 施設, 共同利 用・共同研究拠点等の自己点検・評価を報告	PDF版
	外部評価報告書	不定期	R 2 年 9 月	外部評価委員による, 理念・目標, 沿革, 研 究体制と将来構想, 中期目標・中期計画, 研 究, 教育, 社会貢献活動, 国際交流, 管理運 営等, 施設, 共同利用・共同研究拠点等の評 価を公表	PDF版
	北海道大学医学部保健学科・大学院保健 科学院・大学院保健科学研究院フロアガイド	不定期	H27年 6 月	北海道大学医学部保健学科・大学院保健科 学院・大学院保健科学研究院フロアガイド (日 本語版, 英語版)	冊子, PDF版
工学院・ 工学研究院・ 工学部	北海道大学大学院工学研究院・工学院・ 工学部概要 (和文・英文)	年 1 回	R 1 年 7 月	沿革, 組織, 職員数等, 工学研究院・工学 院・工学部の概要を掲載	冊子, PDF版
	北海道大学大学院工学研究院・工学院広報誌 「えんじにあRing」	年 4 回	R 1 年10月	工学研究院・工学院の研究紹介, ニュース等 を掲載	冊子, HTML版, PDF版
	北海道大学工学系教育研究センター リーフレット (和文/英文併記)	不定期	H31年 3 月	工学系教育研究センターの紹介	冊子
	北大CEED (工学系教育研究センター) e ラーニングのご案内 (和文・英文)	不定期	H31年 4 月	工学系教育研究センター e ラーニングシス テム開発部で提供している e ラーニングに関 する紹介, 視聴方法等案内, 多言語化への取 組	パンフレット
	北海道大学工学部のすべて 2019・2020 (学部紹介パンフレット)	隔年	R 1 年 7 月	工学部への入学を目指す高校生等を対象に, 工学部の概要, 特に 4 学科15コースの内容を 中心に紹介	冊子, PDF版
	Girls, Be ambitious!	不定期	H28年 3 月	工学部への入学を目指す女子学生を対象に, 工学部を紹介するパンフレット	冊子, PDF版
	就職に強い! 工学部	不定期	R 1 年 7 月	工学部・工学系大学院の就職状況を紹介	冊子, PDF版
	english engineering education PROGRAM	不定期	H31年 3 月	グローバル工学人材養成プログラム (e3) の 概要紹介	冊子・PDF版
	北海道大学工学部 情報エレクトロニクス 学科 (パンフレット)	年 1 回	H31年 4 月	工学部情報エレクトロニクス学科の紹介	冊子, PDF版
	E.O	不定期	H31年 4 月	工学部情報エレクトロニクス学科の紹介	冊子, PDF版
	北海道大学大学院工学研究院 附属エネルギー・マテリアル融合領域研究 センターパンフレット (和文・英文)	隔年	R 1 年 6 月	センターの沿革, 組織, 研究内容, 業績等統 計を掲載	冊子
	大学院工学研究院附属エネルギー・ マテリアル融合領域研究センター 複合量子ビーム超高圧顕微解析研究室	不定期	H30年10月	超高圧電子顕微鏡及び周辺機器の仕様, 研究 例, 沿革等を掲載	冊子

部 局 名	広 報 誌 等 名	発行回数	最新版 発行年月	掲 載 内 容 等	形 態
総合化学院	北海道大学大学院総合化学院概要 (英語併記)	不定期	H31年3月	沿革、組織、総合化学院の概要、研究室紹介等を掲載	冊子、PDF版
	北海道大学大学院総合化学院 自己点検評価書	不定期	H26年11月	総合化学院創設から5年間の自己点検評価を掲載	冊子
	北海道大学大学院総合化学院 外部点検評価書	不定期	H27年4月	H27年2月開催の外部中間評価概要、評価資料、外部委員による評価	冊子
	ANNUAL REPORT 2018	年1回	R2年1月	総合化学院の特色ある教育活動、学生状況、分野(研究室)の教育研究活動を掲載	冊子、PDF版
	北海道大学大学院総合化学院紹介ポスター (パネル)	不定期	H27年4月	総合化学院の概要等を紹介	ポスター
経済学院・ 経済学研究院・ 経済学部	北海道大学大学院経済学研究院・大学院経済学 院・経済学部概要	年1回	R2年4月	経済学研究院・経済学院・経済学部の沿革、組織、学生数、職員数等の概要を掲載	冊子、PDF版
	北海道大学大学院経済学院 (紹介パンフレット)	不定期	H29年4月	経済学院への入学を目指す方を対象に、研究科の構成、入試情報、研究内容等を紹介	冊子、PDF版
	北海道大学アカウンティングスクール (紹介パンフレット)	不定期	H29年4月	会計専門職大学院への入学を目指す方を対象に、入試情報、講義科目等を紹介	冊子、PDF版
	経済学部のすべて(紹介パンフレット)	不定期	H29年4月	経済学部への入学を目指す方を対象に、学部の構成、授業科目、入試情報、学生生活等を紹介	冊子、PDF版
	経済学研究(紀要)	年2回	R2年6月	経済学研究院・経済学院所属の教員・大学院生の研究論文を掲載	冊子、PDF版
	地域経済経営ネットワーク研究センター 年報	年1回	R2年3月	経済学研究院地域経済経営ネットワーク研究センターの研究成果を発信	冊子、PDF版
医学院・ 医学研究院・ 医学部	北海道大学大学院医学研究院・大学院医 学院・医学部医学科概要(日本語版)	年1回	R2年10月	医学研究院・医学院・医学部の沿革、組織、職員数、学生数等の概要を掲載	冊子、PDF版
	北海道大学大学院医学研究院・医学院・ 医学部医学科概要(英語版)	年1回	R1年11月	医学研究院・医学院・医学部の沿革、組織、職員数、学生数等の概要を掲載(英文)	冊子、PDF版
	北海道大学大学院医学研究院・大学院 医学院・医学部医学科広報	年3回	R2年9月	医学研究院・医学院・医学部医学科のニュース、トピックス、お知らせ等を掲載	冊子、PDF版
	北海道大学大学院医学研究院・大学院 医学院・医学部医学科紹介DVD	不定期	H29年7月	入学志願者、一般向けにカリキュラム、医学研究院・医学院・医学部医学科の特色等を紹介	DVD
	北海道大学医学部医学科紹介動画 (日本語版)	不定期	H30年10月	入学志願者、一般向けに医学部医学科の特色等を紹介	YouTube動画
	北海道大学医学部医学科紹介動画 (英語版)	不定期	H30年10月	入学志願者、一般向けに医学部医学科の特色等を紹介	YouTube動画
	北海道大学医学部医学科案内	年1回	R2年6月	入学志願者、一般向け医学科案内	冊子、PDF版
	VIS-Voice of the International Students- 国際連携部門だより(英語版)	年3回	R2年6月	留学生(大学院生・交換留学生)、医学科学生の意見、国際交流イベントの紹介・参加者の感想等を掲載	冊子、PDF版
	北海道大学 大学院医学院修士課程案内 (日本語版)	年1回	R2年5月	入学志願者、一般向け医学院修士課程案内	冊子、PDF版
	北海道大学 大学院医学院修士課程案内 (英語版)	年1回	R2年7月	入学志願者、一般向け医学院修士課程案内(英文)	冊子、PDF版
	北海道大学 大学院医学院修士課程公衆 衛生学コース 学生募集チラシ	不定期	H30年5月	入学志願者向けに募集案内	チラシ
	北海道大学 大学院医学院修士課程公衆 衛生学コース 学生募集チラシ(英語版)	不定期	H29年1月	入学志願者向けに募集案内(英文)	チラシ
	北海道大学 大学院医学院博士課程案内 (日本語版)	年1回	R2年5月	入学志願者、一般向け医学院博士課程案内	冊子、PDF版
	北海道大学 大学院医学院博士課程案内 (英語版)	年1回	R2年7月	入学志願者、一般向け医学院博士課程案内(英文)	冊子、PDF版
	北海道大学大学院医学研究院 連携研究センター「フラテ」概要	年1回	R1年10月	センターの組織、研究概要、セミナー、研究業績等を掲載	冊子、PDF版
	北海道大学医学部保健学科案内	年1回	H29年度版	受験生向け保健学科案内	
歯学院・ 歯学研究院・ 歯学部	北海道大学大学院歯学研究院・ 大学院歯学院・歯学部概要	年1回	R2年9月	沿革、組織等、研究院・学院・学部の概要を掲載	冊子、PDF版
	北海道大学歯学部学部紹介	年1回	R2年9月	歯学部を志願する高校生向けの学部案内	冊子、PDF版
	北海道大学大学院歯学院紹介	年1回	R2年6月	歯学院の志願者向けの大学院案内	冊子、PDF版
獣医学院・ 獣医学研究院・ 獣医学部	光れる北を	不定期	R1年6月	獣医学部案内	冊子
	The Japanese Journal of Veterinary Research	年4回	R1年8月	欧文による研究論文の発表、広報	冊子、PDF版
	大学院獣医学研究院・大学院獣医学院・ 獣医学部 概要(日本語・英語版)	不定期	H30年2月	獣医学研究院・獣医学部の沿革・組織・職員数等の概要を掲載	冊子
	大学院獣医学研究院・獣医学部 年報	不定期	R2年9月	研究院の概要、組織、研究活動、教育活動等を掲載	冊子、PDF版
	獣医学研究院 附属動物病院	不定期	H27年10月	動物病院の施設・設備等診療案内	冊子
	大学院獣医学研究院・大学院獣医学院・ 獣医学部 動物実験施設	不定期	H30年5月	動物実験施設の概要を掲載	冊子
	外部評価報告書	4年に1回	H27年6月	外部評価委員による、獣医学研究科・獣医学部の施設・設備等の評価を公表	冊子、PDF版
	自己点検評価報告書	4年に1回	H27年6月	獣医学研究科・獣医学部の点検・評価事項を公表	冊子(外部評価報告書に同梱)、PDF版

部 局 名	広 報 誌 等 名	発行回数	最新版 発行年月	掲 載 内 容 等	形 態
獣医学院・ 獣医学研究院・ 獣医学部	One Healthフロンティア卓越大学院 プログラム（パンフレット日本語版）	1 回	H31年 2 月	One Healthフロンティア卓越大学院プログラムの概要を掲載	冊子, PDF版
	WISE Program for One Health Frontier Graduate School of Excellence （パンフレット英語版）	1 回	H31年 2 月	One Healthフロンティア卓越大学院プログラムの概要を掲載	冊子, PDF版
	One Healthフロンティア卓越大学院 プログラムNEWS LETTER Vol.1	年 2 回	R 1 年 6 月	プログラムの特徴, 学生支援制度, イベント案内, 活動報告, 教員・学生のメッセージを掲載	冊子, PDF版
医理工学院	北海道大学 大学院医理工学院 修士・博士後期課程案内（日本語版）	年 1 回	R 2 年 4 月	医理工学院修士課程・博士後期課程案内	冊子, PDF版
	北海道大学 大学院医理工学院 修士・博士後期課程案内（英語版）	年 1 回	R 2 年 4 月	医理工学院修士課程・博士後期課程案内（英文）	冊子, PDF版
国際感染症学院	北海道大学 大学院国際感染症学院 設置案内（日本語・英語版）	不定期	H28年 8 月	大学院国際感染症学院の開設・カリキュラム案内	冊子, PDF版
国際食資源学院	北海道大学大学院国際食資源学院 入学希望者向けガイドブック	年 1 回	R 1 年 6 月	国際食資源学院の紹介	冊子, PDF版
	北海道大学大学院国際食資源学院概要	年 1 回	R 1 年 7 月	国際食資源学院の沿革等の概要を掲載（和文・英文併記）	冊子, PDF版
公共政策学 教育部・ 公共政策学 連携研究部	外部評価委員会評価報告書	不定期	R 1 年 5 月	公共政策学連携研究部・教育部の外部評価報告書	冊子, PDF版
	年報公共政策学	年 1 回	R 2 年 3 月	公共政策に関する研究論文	冊子, PDF版
	HOPS BOOKLET 2020 HOPS文理融合 ルネッサンスー先端的政策課題のゆくえー	不定期	R 2 年 9 月	2019年度開催 HOPS文理融合セミナーシリーズ（全6回）の記録	冊子
	大学院案内（日本語版）	年 1 回	R 2 年 6 月	本大学院の特色, カリキュラム, 学修環境等を紹介	冊子, PDF版
	リーフレット	不定期	H28年 3 月	本大学院の特色, カリキュラム, 学修環境等を簡略に紹介	リーフレット
	大学院案内（英語版）	不定期	H27年 3 月	本大学院の特色, カリキュラム, 学修環境等を紹介	冊子
	大学院案内（中国語版）	不定期	H27年 3 月	本大学院の特色, カリキュラム, 学修環境等を紹介	冊子
	大学院案内（韓国語版）	不定期	H27年3月	本大学院の特色, カリキュラム, 学修環境等を紹介	冊子
北海道大学病院	北海道大学病院概要	年 1 回	R 2 年 7 月	診療実績等の概要を掲載	冊子, PDF版
	北海道大学病院初期医師臨床研修 パンフレット	年 1 回	R 2 年 5 月	医師臨床研修プログラムを掲載	冊子, PDF版
	北海道大学病院初期医師臨床研修 プログラム	年 1 回	R 2 年 3 月	医師臨床研修プログラムを掲載	冊子
	北海道大学病院歯科医師卒後臨床研修 プログラム	年 1 回	R 2 年 3 月	歯科医師臨床研修プログラムを掲載	冊子
	北海道大学 臨床研修センター Resident NEWS letter「AMBITION」	年 4 回	R 2 年 9 月	当院医師臨床研修に係る最新情報を掲載	紙媒体, PDF版
	北海道大学病院内科専門研修プログラム	不定期	R 1 年 9 月	当院内科領域の専門研修に係る情報を掲載	リーフレット, PDF版
	北海道大学病院外科専門研修プログラム	不定期	R 2 年 7 月	当院外科領域の専門研修に係る情報を掲載	リーフレット
	北海道大学病院 地域医療連携 福祉センター NEWS LETTER	年 2 回	R 2 年 6 月	各診療科外来診療等紹介や院内の最新情報等を掲載	冊子, PDF版
	北海道大学病院 腫瘍センターNEWS	不定期	H27年 6 月	腫瘍センターの活動やがん診療に関する情報を掲載	PDF版
	北海道大学病院 看護部キャリア支援室 だより「つながり」	年 3 回	R 2 年10月	当院看護師の成長支援に繋がる情報を掲載	冊子, PDF版
	北大病院 薬剤部NEWS	年 4 回	R 2 年 9 月	薬剤師業務及び医薬品に係る情報を掲載	冊子, PDF版
	北海道大学病院 薬剤部概要	不定期	R 2 年 7 月	当院薬剤部業務の概要を掲載	PDF版
	北海道大学病院 臨床研究開発センター News	年12回	R 2 年10月	臨床研究開発センターに係る情報を掲載	PDF版
低温科学研究所	北海道大学低温科学研究所概要	隔年	R 2 年 9 月	研究所の沿革, 組織, 職員数等の概要を掲載	冊子
	北海道大学低温科学研究所 年次自己点検評価報告書－年報－	年 1 回	R 2 年 9 月	研究所の活動状況, 研究成果, 自己点検評価の結果を掲載（年報）	冊子
低温科学研究所	北海道大学低温科学研究所 外部点検評価報告書	不定期	R 2 年 3 月	研究所の組織及び運営, 教員人事, 研究活動, 大学院教育及び社会教育等の外部評価を掲載	冊子
	低温研ニュース	年 2 回	R 2 年 6 月	研究紹介, シンポジウム報告, 共同研究, 人事異動等を掲載	冊子
	環オホーツク観測研究センターリーフレット （日本語版・英語版）	不定期	H26年 9 月	環オホーツク観測研究センターの研究内容を紹介	冊子
	北海道大学低温科学研究所 [ダイジェストガイド]	不定期	H29年 1 月	研究所の歴史, 最新の研究内容, 組織を紹介	冊子
電子科学研究所	北海道大学電子科学研究所（概要）	隔年	H31年 4 月	研究所の概要の紹介用パンフレット（日本語と英語の併記）	冊子
	研究活動－点検評価報告書－	毎年	R 2 年11月	研究所の研究教育活動の年次報告	冊子

部 局 名	広 報 誌 等 名	発行回数	最新版 発行年月	掲 載 内 容 等	形 態
遺伝子病制御 研究所	北海道大学遺伝子病制御研究所概要	隔年	H31年 2 月	目的と使命, 沿革, 歴代所長・施設長及び名誉教授, 機構, 職員・学生, 研究活動, 附属施設, 教育活動, 代表論文, 北海道大学配置図を掲載	冊子, PDF版
	北海道大学遺伝子病制御研究所年報	年1回	R 2 年 2 月	総論, 機構, 管理運営, 社会貢献, 附属施設, 予算規模等, 研究成果, 教育活動, 共同利用・共同研究拠点, 研究活動, 施設・設備, 各種委員会等を掲載	冊子, PDF版
	北海道大学遺伝子病制御研究所 外部評価報告書	不定期	H26年 8 月	理念・目標, 沿革, 研究体制と将来構想, 中期目標・中期計画, 研究, 教育, 社会貢献活動, 国際交流, 管理運営等, 施設, 共同利用・共同研究拠点, 附属施設, 各分野における研究概要と成果等を掲載	冊子
	IGM News Letter	年 1 回	R 1 年 8 月	トピックス, お知らせ, 研究業績紹介, 新任教員紹介, 新講座開設等を掲載	冊子, PDF版
触媒科学研究所	触媒科学研究所概要	年 1 回	R 2 年 5 月	研究所の沿革, 組織, 研究概要を掲載 (英文併記)	冊子
	触媒科学研究所年報	年 1 回	R 2 年10月	沿革, 組織, 研究活動状況, 教育活動状況を掲載	冊子
北極域研究センター	北極域研究センターパンフレット (日本語版)	不定期	R 2 年 4 月	北極域研究センターの概要	冊子, PDF版
	北極域研究センターパンフレット (英語版)	不定期	R 2 年 4 月	北極域研究センターの概要	冊子, PDF版
附属図書館	北海道大学附属図書館年報	年 1 回	R 2 年10月	附属図書館の活動のトピックス紹介, 統計, 組織, 人事往来等を掲載	PDF版
	北海道大学附属図書館本館利用案内 (リーフレット) 日本語版	不定期	R 1 年 4 月	附属図書館本館の利用に関する案内等を掲載	冊子
	Hokkaido University Library Guide (リーフレット) 英語版	不定期	R 1 年 4 月	附属図書館本館の利用に関する案内等を掲載	冊子
	北海道大学附属図書館北図書館利用案内 (リーフレット) 日本語版	不定期	R 2 年 9 月	附属図書館北図書館の利用に関する案内等を掲載	冊子
	Hokkaido University North Library Guide (リーフレット) 英語版	不定期	R 2 年 9 月	附属図書館北図書館の利用に関する案内等を掲載	冊子
	北海道大学附属図書館北方資料概要	不定期	H30年 6 月	附属図書館所蔵北方資料の利用に関する案内等を掲載	冊子
	Hokkaido University Library Northern Studies Collection	不定期	H30年 3 月	附属図書館所蔵北方資料の利用に関する案内等を掲載 (英文)	冊子
	榆蔭 (北海道大学附属図書館報)	年 2 回	R 2 年 8 月	学生向けに附属図書館のサービス紹介, ニュース等を掲載	冊子, PDF版
スラブ・ユーラシア 研究センター	SLAVIC RESEARCH CENTER HOKKAIDO UNIVERSITY (概要)	不定期	H28年10月	センターの沿革, 組織, 職員紹介, 研究活動等を掲載	冊子
	北海道大学スラブ・ユーラシア 研究センターニュース	年 4 回	R 2 年 7 月	センターの最新の研究・行事・人事等の活動状況を掲載	冊子, PDF版
	スラブ・ユーラシア研究センターを研究する (北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター点検評価報告書)	不定期	R 2 年 3 月	センターの自己点検評価報告, 外部評価報告, 活動記録報告	冊子, PDF版
	ACTA SLAVICA IAPONICA (欧文学術雑誌)	年 1 回	R 2 年 6 月	投稿論文を欧文で掲載 (レフェリー制)	冊子, PDF版
	スラヴ研究 (和文学術雑誌)	年 1 回	R 2 年 7 月	投稿論文を和文で掲載 (レフェリー制)	冊子, PDF版
	スラブ・ユーラシア研究報告集	不定期	H30年 9 月	研究報告会等での報告抄録等を掲載	冊子, PDF版
	Slavic Research Center News	年 1 回	R 1 年12月	センターの研究・行事・人事等の活動状況を欧文で掲載	冊子, PDF版
	Slavic Eurasian Studies (欧文論集)	不定期	H30年 8 月	シンポジウムのペーパー等を欧文で掲載	冊子, PDF版
	Eurasia Border Review	年 1 回	R 2 年 3 月	グローバルCOEプログラム「境界研究の拠点形成」に関する報告抄録等を掲載	冊子, PDF版
	境界研究	年 1 回	R 2 年 3 月	グローバルCOEプログラム「境界研究の拠点形成」に関する投稿論文を和文で掲載 (レフェリー制)	冊子, PDF版
	スラブ・ユーラシア研究者名簿	不定期	H24年 3 月	スラブ・ユーラシア地域研究者の名簿	冊子
	スラブ・ユーラシア研究センター (SRC) メールマガジン	月 1 回	R 2 年 6 月	センターの行事や研究会の予定, 募集等について掲載	メールマガジン
	スラブ・ユーラシア研究センター (SRC) Twitter	不定期	R 2 年10月	センターの行事や研究会の予定, 募集等について掲載	twitter
情報基盤センター	情報基盤センター概要	年 1 回	R 2 年 8 月	センターの沿革, 組織, 研究概要を掲載	冊子, PDF版
	情報基盤センター概要 (英語版)	隔年	R 2 年10月	センターの沿革, 組織, 研究概要を英文で掲載	冊子, PDF版
	情報基盤センター年報	年 1 回	R 1 年10月	センターの沿革, 組織, 研究活動状況, 教育活動状況を掲載	冊子, PDF版
	大型計算機システム (iHC-HPC) ニュース	年 2 回	R 2 年 3 月	大型計算機システムに関する情報提供	冊子, PDF版
	外部評価報告書	不定期	R 2 年 3 月	点検評価	冊子
情報環境推進本部	情報セキュリティ及びネットワークの 手引き HINES-WORLD	不定期	H30年 4 月	北海道大学情報ネットワーク利用案内, 情報セキュリティの手引き, 規定集	冊子, PDF版
	情報セキュリティ及びネットワークの 手引き HINES-WORLD (英語版)	不定期	H30年10月	北海道大学情報ネットワーク利用案内, 情報セキュリティの手引きを英文で掲載	冊子, PDF版

部 局 名		広 報 誌 等 名	発行回数	最新版 発行年月	掲 載 内 容 等	形 態
情報環境推進本部		情報セキュリティガイド（改訂版） （リーフレット）	不定期	R1年2月	情報セキュリティの手引き	リーフレット、 PDF版
		情報セキュリティ事例と基本的対策－	不定期	R1年10月	学内で発生したインシデントや対策、チェックリスト等	リーフレット、 PDF版
人獣共通感染症 リサーチセンター		北海道大学 人獣共通感染症リサーチ センター（日本語・英語版）	2年に1回	R1年7月	人獣共通感染症リサーチセンターの概要を掲載	冊子
		人獣共通感染症リサーチセンター年報	年1回	R2年3月	センターの概要、組織、研究活動、教育活動 等を掲載	冊子
		外部評価報告書	6年に1回	H27年3月	外部評価委員による、人獣共通感染症リサ ーチセンターの研究業績・施設・設備等の評価 を公表	冊子
		自己点検評価報告書	6年に1回	H27年3月	人獣共通感染症リサーチセンターの点検・評 価事項を公表	冊子（外部評価 報告書に同梱）
アイソトープ 総合センター		センター概要	隔年	H31年2月	センターの施設案内、沿革等を掲載	冊子
		アイソトープ総合センター利用マニュアル	不定期	R1年9月	センターの利用に関する規程等、利用に関 する情報をわかりやすく掲載	冊子
		北海道大学アイソトープ総合センター 自己点検・評価報告書	年1回	R2年7月	センターの利用状況、共同研究一覧、活動報 告等を掲載	冊子
		センターニュース（CIS NEWS）	年1回	R2年3月	センターの最新機器の紹介、講義、講習会 のお知らせ等のニュースを掲載	冊子
量子集積 エレクトロニクス 研究センター		北海道大学量子集積エレクトロニクス 研究センター（概要・和文）	不定期	H26年4月	センターの目的、組織、研究内容等を掲載	HTML（PDF）版
		北海道大学量子集積エレクトロニクス 研究センター（概要・英文）	不定期	H26年4月	センターの目的、組織、研究内容等を掲載	HTML（PDF）版
		量子集積エレクトロニクス研究（研究報告）	年1回	R2年6月 第18巻	センターの研究目的、組織、研究内容、施 設・設備と、研究活動及び研究成果の報告	冊子
		量子集積エレクトロニクス研究センター 自己点検評価書	年1回	R2年6月	研究・教育活動成果に基づく自己点検評価書	冊子、 HTML（PDF）版
北方生物圏フ ィールド科学 センター	企画調整室	北海道大学北方生物圏フィールド科学 センター概要	不定期	R1年2月	沿革、組織、研究内容等の概要を掲載	PDF版
		北海道大学北方生物圏フィールド科学 センター年報	年1回	R1年9月	各施設の教育・研究動向、職員の研究業績一 覧、施設の利用状況等を掲載	PDF版
		北海道大学北方生物圏フィールド科学 センター News Letter	年数回	R2年5月	センターの活動紹介、イベントなどのお知 らせ、ショートエッセイ等を掲載	PDF版
	森林圏 ステーション	演習林研究報告	不定期	R1年5月	森林科学関連分野及び森林圏ステーション 関連の研究論文（和文）を掲載。国内外の関 係機関等にも送付	冊子
		Eurasian Journal of Forest Research	不定期	R1年11月	「演習林研究報告」の英語論文分冊。国内 外の関係機関等にも送付	HUSCAP
		森林圏ステーション年度報告	年1回	R2年2月	森林圏ステーション管理面の資料を掲載	PDF版
		北方森林保全技術	年1回	R1年12月	森林圏ステーション技術系職員が試験年報 報告会で発表した論文等を掲載。国内の関 係機関等にも送付	HUSCAP、 PDF版
		森林圏ステーション概要	不定期	H30年3月	施設の紹介	印刷発行
		森林圏ステーション概要（英語版）	不定期	H31年1月	施設の紹介	印刷発行
		北海道大学北方生物圏フィールド科学 センター植物園（概要パンフレット）英語併記	不定期	H29年8月	植物園の沿革、組織等の概要を掲載	冊子
		植物園だより（リーフレット）	年6回	R2年10月	チシマザサの解説	チラシ、PDF
		北海道大学植物園（リーフレット）日本語版	年1回	R2年4月	植物園内の解説	リーフレット、 PDF
		北海道大学植物園（リーフレット）英語版	年1回	R2年4月	植物園内の解説	リーフレット、 PDF
		北海道大学植物園（リーフレット）中国語版	年1回	R2年4月	植物園内の解説	リーフレット、 PDF
		北海道大学植物園（リーフレット）韓国語版	年1回	R2年4月	植物園内の解説	リーフレット、 PDF
		北大植物園技術報告・年次報告	年1回	H31年3月	植物園の活動内容	冊子、PDF
		北大植物園研究紀要	年1回	R1年5月	研究報告	冊子、HUSCAP
		北大植物園資料目録	不定期	H28年2月	資料目録	冊子、PDF
観光学高等研究 センター		CATS2019 パンフレット	年1回	R1年6月	観光学高等研究センターの紹介	冊子
アイヌ・先住民 研究センター		アイヌ・先住民研究センター案内 （パンフレット日本語版）	不定期	H31年4月	アイヌ・先住民研究センターの役割、特徴 及び同センターで実施するプロジェクトを日 本語で紹介	冊子
		アイヌ・先住民研究センター案内 （パンフレット英語版）	不定期	H31年4月	アイヌ・先住民研究センターの役割、特徴 及び同センターで実施するプロジェクトを英 語で紹介	冊子
		アイヌ・先住民研究センター案内 （パンフレット中国語版）	不定期	H31年4月	アイヌ・先住民研究センターの役割、特徴 及び同センターで実施するプロジェクトを中 国語で紹介	冊子

部 局 名	広 報 誌 等 名	発行回数	最新版 発行年月	掲 載 内 容 等	形 態
アイヌ・先住民 研究センター	アイヌ・先住民研究センター案内 (パンフレットロシア語版)	不定期	H31年 4 月	アイヌ・先住民研究センターの役割、特徴及び同センターで実施するプロジェクトをロシア語で紹介	冊子
	日本国憲法と先住民であるアイヌの人びと (北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット1号)	不定期	H25年 2 月	アイヌ・先住民研究センターが2011年10月に主催した講演会の講演内容を紹介	冊子
	トンコリの世界 (北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット2号)	不定期	H26年 3 月	アイヌの伝統的楽器トンコリ伝承者の富田友子氏に対するインタビューをまとめて楽曲だけでなくトンコリの作り方なども紹介	冊子
	The Ainu : Indigenous People of Japan (北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット3号)	不定期	H29年 3 月	ワシントンD.C.での国際シンポジウムにおける報告をまとめ、現代のアイヌ民族の活動等を海外に向けて英文で紹介	冊子
	花とイナウー世界の中のアイヌ文化ー (北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット4号)	不定期	H31年 3 月	アイヌ民族の信仰や儀式等において用いられるイナウの意味や特徴を各国のイナウとも比較しながら紹介	冊子
	台湾の原住民族政策ー民族認定と博物館ー (北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット5号)	不定期	H27年 4 月	アイヌ・先住民研究センターが2012年と2014年に主催した台湾の原住民族政策に関するシンポジウムの講演内容を紹介	冊子
	古川アシンノカルの生涯ー新冠地方の故事と伝承ー (北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット6号)	不定期	H28年 3 月	北海道日高郡新ひだか町在住の狩野義氏氏が書き記した文章の中から大祖父の古川アシンノカル氏らに係るものを集成	冊子
	The World of Tonkori (北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット7号)	不定期	H29年 3 月	アイヌの伝統的楽器トンコリ伝承者の富田友子氏に対するインタビューをまとめて楽曲だけでなくトンコリの作り方なども紹介したブックレット2号の英語版	冊子
	An Introduction to Ainu Studies (北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット8号)	不定期	H30年 3 月	アイヌ・先住民研究センターの研究内容を海外に向けて英文で紹介	冊子
	Flowers and Inaw-Ainu Culture in the World- (北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット9号)	不定期	H30年 3 月	アイヌ民族の信仰や儀式等において用いられるイナウの意味や特徴を各国のイナウとも比較しながら紹介したブックレット4号の英語版	冊子
	アイヌ・先住民研究センターの10年 -2007～2017-	不定期	H30年 9 月	アイヌ・先住民研究センターの10年間の研究の成果と今後の展開について主要なプロジェクトごとにとりまとめた報告書	冊子
	民族のあり方と先住民族政策-台湾平埔族の原住民族認定をめぐって- (北海道大学アイヌ・先住民研究センターブックレット11号)	不定期	H31年 4 月	ブックレット第5号に続く、台湾平埔族をめぐる原住民族政策の新しい展開についての報告書	冊子
	2008年北海道アイヌ民族生活実態調査報告書 現代アイヌの生活と意識	不定期	H24年 1 月	アイヌ・先住民研究センターが2008年に実施した北海道アイヌ民族生活実態調査 (アンケート調査) に関する報告書	冊子
	2009年北海道アイヌ民族生活実態調査報告書 現代アイヌの生活の歩みと意識の変容	不定期	H24年 3 月	アイヌ・先住民研究センターが2009年に実施した北海道アイヌ民族生活実態調査 (インタビュー調査) に関する報告書	冊子
	2008年北海道アイヌ民族生活実態調査報告書 現代アイヌの生活と意識の多様性	不定期	H26年 3 月	アイヌ・先住民研究センターが2008年に実施した北海道アイヌ民族生活実態調査の結果を再分析した報告書	冊子
	2014年アイヌ民族多住地域住民調査報告書 地域住民のアイヌ政策への評価とアイヌの人々との社会関係	不定期	H27年 9 月	アイヌ・先住民研究センターが2014年に札幌市とむかわ町で実施したアイヌ民族多住地域住民調査の結果に関する報告書	冊子
	Report on the 2008 Hokkaido Ainu Living Conditions Survey	不定期	H23年 3 月	アイヌ・先住民研究センターが2008年に実施した北海道アイヌ民族生活実態調査に関する報告書の英語版	冊子
	2017年アイヌ民族多住地域調査報告書 帯広市におけるアイヌ民族の現状と地域住民	不定期	H30年 6 月	アイヌ・先住民研究センターが2017年に帯広市で実施したアイヌ民族多住地域住民調査の結果に関する報告書	冊子
	2018年アイヌ民族多住地域調査報告書 旭川におけるアイヌ民族の現状と地域住民	不定期	R 1 年 7 月	アイヌ・先住民研究センターが2018年に旭川市で実施したアイヌ民族多住地域住民調査の結果に関する報告書	冊子
	沖縄におけるガイドツアーの運営実態に関する事例調査	不定期	H23年 3 月	アイヌ・先住民研究センターがエコツーリズム・プロジェクトの一環として実施した事例調査の報告書	冊子
	世界のなかのアイヌ・アート	不定期	H28年 1 月	アイヌ・先住民研究センターが2011年に実施した「先住民族アートプロジェクト」の研究成果に関する報告書	冊子
	先住民族アート・プロジェクト報告書 アイヌ・アートが担う新たな役割ー米国先住民アートショーに学ぶ	不定期	H27年 4 月	アイヌ・先住民研究センターが2014年に国立民族学博物館との共催で開催した国際シンポジウムの記録	冊子
	先住民文化遺産とツーリズムーアイヌ民族における文化遺産活用の理論と実践	不定期	H28年 6 月	アイヌ・先住民研究センターが2011年に実施した「先住民文化遺産とツーリズムプロジェクト」の研究成果に関する報告書	冊子
	Indigenous Heritage and Tourism-Theories and Practices on Utilizing the Ainu Heritage-	不定期	H26年 1 月	アイヌ・先住民研究センターが2011年に実施した「先住民文化遺産とツーリズムプロジェクト」の研究成果に関する報告書の英語版	冊子
	teetasinrit tekrukoci 先人の手あと 北大所蔵アイヌ資料ー受けつぐ技ー	不定期	H21年 2 月	アイヌ・先住民研究センターと北大総合博物館の企画展示の記録	冊子

部 局 名	広 報 誌 等 名	発行回数	最新版 発行年月	掲 載 内 容 等	形 態
アイヌ・先住民 研究センター	teetasinrit tekrukoci -The Handprints of our Ancestors- Ainu Artifacts Housed at Hokkaido University-Inherited Techniques	不定期	H24年 3 月	アイヌ・先住民研究センターと北大総合博物 館の企画展示の記録の英語版	冊子
	北海道新冠地方におけるアイヌ語地名の 調査と分析	不定期	H28年 3 月	アイヌ・先住民研究センターが2013年から 2015年に行ったアイヌ語地名調査の成果報告	冊子
	にかほ市象潟郷土資料館所蔵森家旧蔵 「蝦夷方言藻汐草 全」翻刻・解題	不定期	H25年 3 月	アイヌ・先住民研究センターが2012年に実施 した「古文書プロジェクト」の研究成果に関 する報告書	冊子
	ロシア科学アカデミー東洋古籍文献研究所 所蔵 田藩文庫旧蔵「東蝦夷臈考」翻刻・ 解題	不定期	H26年 5 月	ロシア科学アカデミー東洋古籍文献研究所所 蔵の和文写本の概要を日本で初めて紹介	冊子
	国立公文書館内閣文庫所蔵 昌平坂学問所 旧蔵「蝦夷語集」 元・亨 影印・翻刻	不定期	H29年 3 月	アイヌ・先住民研究センターが2016年に実施 した「古文書プロジェクト」の研究成果に関 する報告書	冊子
	国立公文書館内閣文庫所蔵 昌平坂学問所 旧蔵「蝦夷語集」 利・貞 影印・翻刻	不定期	H30年 3 月	アイヌ・先住民研究センターが2017年に実施 した「古文書プロジェクト」の研究成果に関 する報告書	冊子
	国立公文書館内閣文庫所蔵 昌平坂学問所 旧蔵「蝦夷語集」索引 アイヌ語-日本語編	不定期	H31年 3 月	アイヌ・先住民研究センターが2018年に実施 した「古文書プロジェクト」の研究成果に関 する報告書	冊子
	国立公文書館内閣文庫所蔵 昌平坂学問所 旧蔵「蝦夷語集」索引 日本語-アイヌ語編	不定期	H31年 3 月	アイヌ・先住民研究センターが2018年に実施 した「古文書プロジェクト」の研究成果に関 する報告書	冊子
	藤山ハル口述・村崎恭子採録・著 樺太アイヌ語例文集 (2)	不定期	H28年 3 月	アイヌ・先住民研究センターが2015年に実施 した「アイヌ・先住民言語アーカイヴプロ ジェクト」の研究成果に関する報告書	冊子・CD付
	和田文治郎 樺太アイヌ説話集4	不定期	H31年 3 月	アイヌ・先住民研究センターが2018年に実施 した「アイヌ・先住民言語アーカイヴプロ ジェクト」の研究成果に関する報告書	冊子
	アイヌ語調査資料のデータベース化に 関する基礎的研究 (9)	不定期	R 2 年 3 月	アイヌ・先住民研究センターが2019年に実施 した「アイヌ・先住民言語アーカイヴプロ ジェクト」の研究成果に関する報告書	冊子
	アイヌ語十勝方言例文集 1	不定期	H26年 3 月	アイヌ語十勝方言の研究に際して基礎となる 例文を提示し、言語学的研究の一助とする目 的で日常語例文を収録	冊子
	アイヌ語厚別方言語彙集	不定期	H29年 2 月	北海道日高町豊田に在住した松島トミ氏による アイヌ語語彙と例文の記録	冊子
	アイヌ語十勝方言会話小辞典	不定期	H29年10月	アイヌ・先住民研究センターが行ったアイヌ 語十勝方言の言語調査で得られた資料を意味 分類に従って配列したもの	冊子
	アイヌ語浦河方言語彙集	不定期	H29年 5 月	アイヌ・先住民研究センターが行った調査に よるアイヌ語浦河方言の語彙集	冊子
	アイヌ叙景詩鑑賞 押韻法を中心に	不定期	H30年 8 月	アイヌ・先住民研究センターが2017年に実施 した「アイヌ・先住民言語アーカイヴプロ ジェクト」の研究成果に関する報告書	冊子
	アイヌ韻文の行頭韻	不定期	R 2 年 6 月	アイヌ・先住民研究センターが2019年に実施 した「アイヌ・先住民言語アーカイヴプロ ジェクト」の研究成果に関する報告書	冊子
	ナジェジダ・タンジナ伝承集	不定期	R 2 年 3 月	アイヌ・先住民研究センターが2019年に実施 した「アイヌ・先住民言語アーカイヴプロ ジェクト」の研究成果に関する報告書	冊子
	絵本・ラッコ パッコ	不定期	R 2 年 6 月	アイヌ・先住民研究センターが2019年に実施 した「アイヌ・先住民言語アーカイヴプロ ジェクト」の研究成果に関する報告書	冊子
社会科学実験研究 センター	北海道大学社会科学実験研究センター 自己点検評価	年 1 回	R 2 年 3 月	社会科学実験研究センターの概要、教育研究 活動の実績、組織構成を掲載 (HPよりダウン ロード可能)	冊子、PDF
	北海道大学社会科学実験研究センター案内 (パンフレット) 英語版	不定期	H27年 8 月	社会科学実験研究センターの概要、実験室等 の研究設備とその利用状況、研究成果を紹介	冊子
環境健康科学研究 教育センター	北海道大学環境健康科学研究教育センター 年報	隔年	R 2 年 6 月	環境健康科学研究教育センターの概要、部門 報告、業績一覧、委員会名簿等を掲載	冊子
環境健康科学研究 教育センター	環境健康科学研究教育センターチラシ (英語版、日本語版)	不定期	H28年 3 月	環境健康科学研究教育センターの組織、概 要、活動内容を分かりやすく掲載	リーフレット
脳科学研究 教育センター	北海道大学脳科学研究教育センター概要	隔年	R 1 年 5 月	センターの組織、発達脳科学専攻 (バーチャ ル専攻) の概要等を掲載	冊子
外国語教育センター	HOKKAIDO UNIVERSITY CENTER FOR LANGUAGE LEARNING	不定期	H21年 4 月	外国語教育センターの紹介	冊子
	自己点検・評価報告書 外部評価報告書	不定期	H28年 3 月	自己点検・評価報告、外部評価報告	冊子
数理・データサイ エンス教育研究 センター	数理・データサイエンス教育研究センター パンフレット	不定期	R 1 年10月	数理・データサイエンス教育研究センターの 概要	冊子
	数理・データサイエンス教育研究センター リーフレット	不定期	H31年 3 月	数理・データサイエンス教育研究センターの 概要	冊子
総合博物館	重要文化財札幌農学校第2農場 パンフレット (見学者配付用資料)	1 回	H29年 3 月	重要文化財札幌農学校第2農場を見学者に紹介	冊子

部 局 名		広 報 誌 等 名	発行回数	最新版 発行年月	掲 載 内 容 等	形 態
総合博物館		総合博物館展示リーフレット (見学者配付用資料)	1 回	H28年 7 月	総合博物館常設展示の各展示ゾーン紹介・利用案内を見学者に紹介	冊子, PDF版
		An Introduction to The Hokkaido University Museum	1 回	H28年 7 月	総合博物館常設展示の各展示ゾーン紹介・利用案内を見学者に紹介 (リーフレット)	冊子, PDF版
		北海道大学総合博物館外部点検評価報告書 (平成22年度～平成27年度)	不定期	H29年 3 月	外部点検評価委員会による総合博物館の評価	冊子
		北海道大学総合博物館点検評価報告書 (平成22年度～平成27年度)	不定期	H28年12月	北海道大学総合博物館点検評価委員会委員による総合博物館の評価	冊子
		北海道大学総合博物館研究報告	年 1 回	H28年 3 月	研究報告No. 1 (2003. 3) -No. 8 (2016. 3)	冊子
		北海道大学総合博物館年報	年 1 回	R 2 年 7 月	博物館及び博物館教員の活動記録 H16年度 H18・19年度 H20・21年度 H22・23年度 H24年度 H25年度 H26年度 H27年度 H28年度 H29年度 H30年度 R 元年度	
		北海道大学総合博物館ニュース	年 2 回	R 2 年 6 月	博物館の活動状況・出来事・ニュース・特別寄稿等を掲載 No. 1 (1999. 7) -No. 40 (2020. 6)	冊子, PDF版
		Guidebook : Museum Meister Course, The Hokkaido University Museum	年 1 回	R 2 年度版	総合博物館ミュージアムマイスター認定コースの案内	冊子, PDF版
大学文書館		北海道大学大学文書館年報	年 1 回	R 2 年 3 月	研究論文, 資料紹介・目録, 業務記録等を掲載	冊子, PDF版
		北海道大学大学文書館資料叢書	不定期	H22年 3 月	資料翻刻, 解説等を掲載	冊子, PDF版
		北海道大学大学文書館自己点検・外部評価報告書	不定期	H30年 3 月	自己点検・外部評価報告書	冊子
		北海道大学大学文書館概要	年 1 回	R 2 年10月	大学文書館の概要, 案内図等を掲載	冊子
		北海道大学大学文書館リーフレット	年 1 回	H31年 1 月	大学文書館の概要, 所蔵資料の紹介, 利用に関する案内等を掲載	冊子
		北海道大学大学文書館利用案内	年 1 回	H31年 1 月	大学文書館の利用方法に関する案内を掲載	冊子
		北海道大学150年史編集準備室リーフレット	年 1 回	R 2 年10月	150年史編集準備室の概要, 活動案内等を掲載	冊子, PDF版
		北海道大学150年史編集ニュース	年 2 回	R 2 年 8 月	150年史編集準備室の活動内容, 北大史小話を掲載	冊子, PDF版
埋蔵文化財 調査センター		北海道大学埋蔵文化財調査センター ニュースレター	年 3 回	R 2 年 3 月	構内の遺跡, 埋蔵文化財調査センターの活動内容を紹介	冊子, PDF版
		北大構内の遺跡	年 1 回	R 2 年 3 月	北大構内(札幌キャンパス)における埋蔵文化財の調査報告	冊子, PDF版
人 材 育 成 本 部	上級人材育成 ステーション S-cubic	S-cubic通信	不定期	R 2 年 3 月	DC・PDを対象とした進路選択のガイドブック	冊子, PDF版
		S-cubicフライヤー	不定期	R 2 年 3 月	S-cubicの紹介	フライヤー
		Hi-Systemフライヤー	不定期	R 2 年 3 月	博士研究者の社会活躍をサポートするWebサイトの紹介	フライヤー
	I-HoP	Career Management Guide for the Doctorates	不定期	R 2 年 3 月	外国人英語コース博士のためのキャリアマネジメントガイド	冊子
	連携型博士研究 人材育成推進室	科学技術人材育成のコンソーシアム構築事業 連携型博士研究人材総合育成システムの構築	不定期	R 2 年 9 月	コンソーシアム事業の紹介	PDF版
	ダイバーシティ 研究環境推進室	KNITパンフレット	不定期	R 2 年 3 月	科学技術人材育成費補助事業の紹介	冊子
		ニュースレター	不定期	R 2 年 3 月	科学技術人材育成費補助事業の活動内容を紹介	チラシ
創成研究機構		創成ニューズレター CRIS TIMES	不定期	H28年度版	創成研究機構の活動紹介	冊子, PDF版
		北海道大学創成研究機構	不定期	H28年 1 月	創成研究機構の組織紹介	冊子, PDF版
		北海道大学創成研究機構 (DVD)	不定期	H23年 9 月	創成研究機構の紹介DVD (改訂版)	DVD
		Creative Research Institution	不定期	H23年10月	創成研究機構の紹介DVD (英語・改訂版)	DVD
		北大を特徴づける研究機関 創成研究機構 構成組織	不定期	H25年10月	創成研究機構各構成組織の紹介及び研究・活動内容の紹介	冊子, PDF版
		オープンファシリティプラットフォーム	不定期	H29年 5 月	オープンファシリティプラットフォームの紹介	冊子
		Global Facility Center Hokkaido University	不定期	R 1 年 7 月	グローバルファシリティセンターの紹介 (日本語版)	冊子, PDF版
		Global Facility Center Hokkaido University (English ver.)	不定期	H29年 7 月	グローバルファシリティセンターの紹介 (英語版)	冊子
		北海道大学グローバルファシリティセンター	不定期	R 2 年10月	グローバルファシリティセンターの紹介	チラシ, PDF版
		北海道大学グローバルファシリティセンター (英語版)	不定期	R 1 年 8 月	グローバルファシリティセンターの紹介	チラシ
		“ひらめきをカタチにするパートナー” 今すぐ使える北大GFC	不定期	R 1 年 5 月	グローバルファシリティセンターの紹介 (学外向け)	チラシ, PDF版
		オープンファシリティ料金表学外利用者用	不定期	R 1 年10月	オープンファシリティ学外利用料金一覧 (日本語版)	冊子
		Hokkaido University OPEN FACILITY PRICE LIST For EXTERNAL USERS	不定期	R 1 年10月	オープンファシリティ学外利用料金一覧 (英語版)	冊子
		北海道大学オープンファシリティ料金表	不定期	R 1 年10月	オープンファシリティ利用料金一覧 (学内・学外用)	冊子, PDF版
		先端技術のオープンステーション 北海道大学 オープンファシリティ	不定期	H27年12月	オープンファシリティの紹介DVD (日本語版)	DVD
		Cutting-edge Open Station Hokkaido University Open Facility	不定期	H27年12月	オープンファシリティの紹介DVD (英語版)	DVD

部 局 名	広 報 誌 等 名	発行回数	最新版 発行年月	掲 載 内 容 等	形 態
創成研究機構	第7回オープンファシリティシンポジウム 報告書	年1回	R2年3月	オープンファシリティシンポジウム開催報告	冊子, PDF版
	北海道大学創成研究機構グローバルファシリ ティセンター機器分析受託サービス	不定期	H30年7月	グローバルファシリティセンター機器分析受 託部門の紹介	冊子
	機器分析受託サービス 分析料金表 (学外)	不定期	R1年10月	分析料金一覧 学外料金 (日本語版)	チラシ, PDF版
	Price List (Outside Campus)	不定期	R1年10月	分析料金一覧 学外料金 (英語版)	チラシ, PDF版
	機器分析受託サービス分析料金表 (学内)	不定期	R1年10月	分析料金一覧 学内料金 (日本語版)	チラシ, PDF版
	Price List (Within Campus)	不定期	R1年10月	分析料金一覧 学内料金 (英語版)	チラシ, PDF版
	原子・分子の顕微イメージングプラット フォーム	不定期	R2年7月	文部科学省：先端研究基盤共用促進事業（共 用プラットフォーム形成支援プログラム） 「原子・分子の顕微イメージングプラット フォーム」事業の紹介及び利用募集	冊子
	同位体顕微鏡	不定期	H25年4月	文部科学省：先端研究基盤共用・プラット フォーム形成事業「安定同位元素イメージ ング技術による産業イノベーション」事業にお ける本教授のインタビュー（リテラボプリ 29号を元に作成）	冊子
高等教育推進機構	高等教育ジャーナル－高等教育と生涯学習－ ニュースレター	年1回 年3回	R2年3月 R2年8月	広く高等教育に関する論文・報告等を公開 高等教育推進機構の活動を報告	冊子, PDF 冊子, PDF
	ラーニングサポート室リーフレット	不定期	H29年4月	ラーニングサポート室の利用に関する案内	冊子
	アカデミック・マップ	年1回	R2年4月	進級、学部移行の参考として各学部学科等の 研究内容等を掲載	冊子,PDF版
	ラーニングサポートレター	年4回	R2年9月	初年次学生の修学状況とラーニングサポート 室で実施する学習サポートやセミナーの利用 状況を掲載	PDF版
	北海道大学オープンエデュケーション センター活動報告書	年1回	H31年3月	北海道大学オープンエデュケーションセン ターの活動報告書	冊子
	北海道大学オープンエデュケーション センターリーフレット	不定期	R2年3月	学内の教職員を対象にオープンエデュケー ションセンターの活動内容を紹介	冊子
	北海道大学オープンエデュケーション センターフライヤー	年1回	R2年3月	新入学生向けに、北海道大学オープンコース ウェア及びオープンエデュケーションセン ターに関する案内を掲載	冊子
	教育情報システム（ELMS）リーフレット	年1回	H31年4月	教育情報システム（ELMS）の利用案内を掲載	リーフレット
	CoSTEPリーフレット	年1回	R1年3月	CoSTEPの活動を紹介	パンフレット
	いいね！Hokudai	週4回	R2年10月	北大の日々を紹介するWebマガジン	Facebook, Web, Twitter
	CoSTEP PR	不定期	R2年10月	スタッフや受講生の日常を紹介	Facebook, Twitter
化学反応 創成研究拠点	拠点概要パンフレット（英語版）	不定期	H31年2月	拠点概要説明、拠点長メッセージ、拠点の特 徴、主任研究者一覧、拠点の研究概要、アク セス情報	冊子,PDF版
	拠点概要パンフレット（日本語版）	不定期	R1年6月	拠点概要説明、拠点長メッセージ、拠点の特 徴、主任研究者一覧、拠点の研究概要、アク セス情報	冊子,PDF版
	リクルート冊子 React With Us（英語版）	不定期	R2年2月	主任研究者と研究概要説明、研究者の声（8 名）、拠点で保有している器機説明、研究者 向けサポート制度の説明、北海道と札幌市の 紹介、拠点概要説明	冊子,PDF版
	ニュースポストカード（日英）	毎月	R2年9月	論文発表があった研究を毎月一編紹介。研究 に関連する画像、論文情報、QRコード（オ ンライン上の情報・プレスリリースなど）を 掲載。	ポストカード
	Annual report（年次報告書・英語版）	毎年	R2年8月	化学反応創成研究拠点の年間の活動報告書。 拠点長メッセージ、人員構成、研究進捗、 活動内容を紹介します。	冊子,PDF版
	ニュースポスター「The CATALYST」 （英語版）	年4回	R2年8月	化学反応について分かりやすく紹介する冊 子。スペシャルトピック、研究者紹介、拠点 ニュース、拠点概要情報を掲載。	PDF版
化学反応 創成研究拠点	ニュースポスター「カタリスト」（日本語版）	年4回	R2年8月	化学反応について分かりやすく紹介する冊 子。スペシャルトピック、研究者紹介、拠点 ニュース、拠点概要情報を掲載。	ポスター, PDF 版
サステイナブル キャンパスマネジ メント本部	環境報告書2018 ゴールとプロセス	年1回	H30年9月	本学の環境に配慮した活動等をまとめ、201 7年度の環境に関連する教育研究活動やエネ ルギー・水等の使用量の状況を掲載	冊子, PDF版, HTML版
	Sustainability Report 2018 Goal and Step	年1回	H30年10月	環境報告書の日本語版を海外向けに編集した 報告書	冊子, PDF版
	環境報告書2019 あなたの緑とわたしの緑	年1回	R1年9月	本学の環境に配慮した活動等をまとめ、201 8年度の環境に関連する教育研究活動やエネ ルギー・水等の使用量の状況を掲載	冊子, PDF版, HTML版
	Sustainability Report 2019 Greenery for You and Us	年1回	R1年10月	環境報告書の日本語版を海外向けに編集した 報告書	冊子, PDF版
	サステイナビリティレポート2020 フロンティアへの挑戦	年1回	R2年9月	本学の環境に配慮した活動等をまとめ、201 9年度の環境に関連する教育研究活動やエネ ルギー・水等の使用量の状況を掲載	冊子, PDF版, HTML版

部 局 名	広 報 誌 等 名	発行回数	最新版 発行年月	掲 載 内 容 等	形 態
サステイナブル キャンパスマネジ メント本部	Sustainability Report 2020 Open up New Frontiers	年 1 回	R 2 年10月	サステイナビリティレポート2020の日本語版を海外向けに編集した報告書	冊子, PDF版
	ACTIVITY REPORT 2020	年 1 回	R 2 年 3 月	サステイナブルキャンパスマネジメント本部が施行したサステイナブルキャンパス構築のための活動を掲載	冊子, PDF版
産学・地域協働 推進機構	産学官連携の手引き	不定期	H29年 8 月	産学・地域協働推進機構の業務内容説明及び産学官連携のための案内	冊子, PDF版
	産学・地域協働推進機構パンフレット	不定期	R 2 年10月	産学・地域協働推進機構の概要紹介	冊子, Web版
	北海道大学 研究シーズ集Vol5	不定期	H30年 3 月	北海道大学の研究シーズを分野別に紹介	冊子, 電子ブック
	フード&メディカルイノベーション国際拠点パンフレット	不定期	H31年 4 月	フード&メディカルイノベーション国際拠点(FMI国際拠点)の紹介	冊子・Web版
	「食と健康の達人」拠点パンフレット	不定期	H31年 2 月	北海道大学COI「食と健康の達人」拠点の活動紹介	冊子・Web版
	笑顔プロジェクト	不定期	R 2 年 7 月	北海道大学COI「笑顔プロジェクト」の活動紹介 (HPにて公開)	web版
	岩見沢市母子健康調査パンフレット	不定期	H31年 4 月	北海道大学COIのプロジェクト「母子健康調査」の活動紹介・ご案内	冊子
	岩見沢市×北海道大学のフリーマガジン「live (ライブ)」	不定期	H31年 2 月	北海道大学COI「食と健康の達人」拠点が地域と課題, 情報を共有するフリーペーパー	冊子・Web版
	岩見沢市×北海道大学のフリーマガジン「live (ライブ)」別冊	不定期	H29年11月	北海道大学COI「食と健康の達人」拠点が高校生と共に地域と課題, 情報を共有するフリーペーパー	冊子
	共同研究等契約形態紹介リーフレット	不定期	H31年 4 月	北海道大学との契約形態 (共同研究・産業創出・学術コンサルティング) の制度紹介	リーフレット
	北海道大学 研究シーズ集Webサイト	不定期	R 1 年10月	北海道大学の研究シーズを分野別に紹介	Web版
	北海道大学 産学・地域協働推進機構	不定期	R 1 年10月	産学・地域協働推進機構について活動紹介・ご案内	Web版
	北海道大学産学連携メールマガジン	不定期	R 1 年10月	産学連携に関わるイベント (研究や様々な情報を知っていただくためのセミナーや勉強会, 企業と研究者とのマッチングイベントなど) のご案内	E-mail
	DEMOLA HOKKAIDO	不定期	R 1 年10月	DEMOLA HOKKAIDOについて活動紹介・ご案内	Web版
	北海道大学起業家育成基金リーフレット	不定期	R 1 年12月	基金要項, 申込方法等の掲載, ご支援のお願い	リーフレット
国際連携 研究教育局	GI-CoRE概要 (英語・日本語表記)	不定期	H29年 6 月	国際連携研究教育局の概要, 各グローバルステーション (量子, 人獣, 食水土, ソフトマター, ビッグデータ, 北極域) の紹介	パンフレット
	量子医理工学グローバルステーション外部評価報告書 (主に英語・一部日本語表記)	GS設置最終年度 1 回	R 2 年 7 月	評価に係る詳細・評価委員による評価調書・自己点検成果報告書	冊子
	人獣共通感染症グローバルステーション外部評価報告書 (主に英語・一部日本語表記)	GS設置最終年度 1 回	R 2 年 7 月	評価に係る詳細・評価委員による評価調書・自己点検成果報告書	冊子
	食水土資源グローバルステーション外部評価報告書 (主に英語・一部日本語表記)	GS設置最終年度 1 回	R 2 年 7 月	評価に係る詳細・評価委員による評価調書・自己点検成果報告書	冊子

編集メモ

● 例年、多くの方がお越しになる「北大金葉祭」。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、今年是一般向け開催は行いませんでしたが、事前告知無し・非公開という形で、10月25日（日）深夜にライトアップを行いました。

当日撮影されたライトアップの様子は「第9回北大金葉祭」として11月8日（日）20時から北大金葉祭実行委員会のYouTubeチャンネルでプレミア公開され、現在も配信されています。

あわせて、イチョウ並木を360度体験出来る、360度VR動画も配信されていますので、ぜひ今年のイチョウ並木の様子をご自宅でお楽しみください。

北大金葉祭実行委員会のYouTubeチャンネルはこちらです。

<https://www.youtube.com/channel/UCju8rhznccgKzclLPi2xmh-g>



● 「北大時報」が800号を迎えました。1934（昭和9）年1月の第1号発行から86年以上にわたり、積み重ねてきた北大の歴史が記録されています。

今年はその歴史の中でも類を見ない、新型コロナウイルスが猛威を振るった全人類の記憶に残る年になったことでしょう。あと今年も残り1か月、体調には気を付けて、乗り切りましょう。

裏表紙メモ

北海道大学のキャンパスの風景を様々な角度からご紹介する「キャンパス風景」。

11月号は見頃を迎えたものの、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために交通規制の中止や黄葉状況公開の自粛が行われたイチョウ並木。初雪が降った日、黄金の葉を揺らして静かなキャンパスを見守っていました。

キャンパス風景 8 イチョウ並木（北13条西5～7丁目）



北大時報 ⑪ No.800 令和2年11月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2162 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimu.hokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。<https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html>